

# 修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした 追跡調査

(2021年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告)

2023年1月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所

第1調査研究グループ

川村 真理 渡邊 英一郎

【調査研究体制】

渡邊 英一郎 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ 総括上席研究官

[報告書確認]

川村 真理 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ 上席研究官  
[調査設計、実施、報告書執筆]

土屋 隆裕 横浜市立大学 データサイエンス学部 教授  
[データウエイトの作成]

【Contributors】

WATANABE Eiichiro

Director

1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP),  
MEXT

KAWAMURA Mari

Senior Research Fellow

1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP),  
MEXT

TSUCHIYA Takahiro

Professor

School of Data Science, Yokohama City University

本研究は文部科学省 SciREX プログラムの助成を受けたものです

This research was supported by the Scientific Research of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology as SciREX Program

本報告書の引用を行う際には、以下を参考に出典を明記願います。

Please specify reference as the following example when citing this NISTEP RESEARCH MATERIAL.

川村真理、渡邊英一郎「修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査」(2021年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告) *NISTEP RESEARCH MATERIAL*, No.323, 文部科学省 科学技術・学術政策研究所.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm323>

The 2021 Survey of Japan Master's Human Resource Profiling", *NISTEP RESEARCH MATERIAL* No.323, National Institute of Science and Technology Policy, Tokyo.

DOI: <https://doi.org/10.15108/rm323>



## 修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査(2021年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告)

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ

川村 真理 渡邊 英一郎

### 要旨

我が国の修士課程修了者の進学率は、1981年度には18.7%であったものが、2001年度には15.2%、2011年度には10.8%へと減少し、2021年度には9.7%となっている。2019年1月に中央教育審議会大学院部会がまとめた「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿」では、我が国の人口100万人当たりの博士学位取得者は、米、英、独に対し2分の1程度の水準にとどまっていることが指摘されており、このままでは今後の社会を先導できるような「知のプロフェッショナル」確保に大いに問題を生じる可能性があるとして、大学院段階における教育・経済支援環境を含む大学院教育の体質改善や優秀人材の進学促進に向けた取組強化等が提言された<sup>1</sup>。また、2021年3月26日に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」においても、「優秀な学生が経済的な側面やキャリアパスへの不安、期待に沿わない教育研究環境等の理由から、博士後期課程への進学を断念する現況」が指摘されており、「優秀な若者が、アカデミア、産業界、行政など様々な分野において活躍できる展望が描ける環境の中、経済的な心配をすることなく、自らの人生を賭けるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す」ことが目標として掲げられている<sup>2</sup>。

こうした背景の中、NISTEPでは、2020年度修士課程在籍者を対象として、在籍中における経済的支援状況、進路状況、博士課程への進学率を向上させるための政策等について調査を実施し、2021年6月に「2020年度修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者を対象とした在籍者調査」を公表した。本調査はその第2回目となるものである。

本調査では、進学ではなく就職を選択した主な理由として、「経済的に自立したい」、「社会に出て仕事がしたい」等が過半数を占めた一方、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」、「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」、「博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い」等、進学がキャリアや収入にネガティブな影響を与えることを懸念する回答も多く寄せられた。また、博士課程進学を検討する重要な条件としては、「博士課程在籍者に対する経済的支援を拡充する」、「博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する」等の回答が上位を占めた。さらに、在籍者の視点から博士課程への進学者を増加させるために効果的だと思う政

<sup>1</sup> [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1412988.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1412988.htm)

<sup>2</sup> <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html>

策としては、「博士課程での給与支給」、「若手研究者（博士後期課程学生含む）の研究環境改善」、「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」等が挙げられた。

The 2021 Survey of Japan Master's Human Resource Profiling (JM-Pro)  
1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology  
Policy, MEXT

**ABSTRACT**

In Japan, the percentage of students who enter a doctoral course after completing a master's course has decreased from 18.7% in 1981 to 15.2% in 2001 and to 10.8% in 2011, and it was only 9.7% in 2021. The “drastic reform of graduate school education with a view to 2024,” summarized by the Central Council for Education's University Division in January 2019, pointed out that the number of doctoral degrees awarded per million people in Japan was half that of the United States, the United Kingdom, and Germany. The Council also noted that if this situation continues, securing “professionals of knowledge” who could lead society in the future might become a fundamental problem. Therefore, academia has proposed improvements in postgraduate education, including educational and financial support, and the reinforcement of an approach for encouraging the entry of brilliant human resources into further education. The Science, Technology, and Innovation Basic Plan, adopted at a Cabinet meeting on March 26, 2021, also pointed to the current situation in which excellent students were not entering doctoral courses due to economic concerns, anxiety about their career paths, and education and research environments that did not meet their expectations. The goal of the Plan is to ensure “an environment where talented young people can expect to become active in various fields, such as academia, industry, and administration, and where they can take pride in themselves and take on the challenge of staking their lives in the pursuit of doctoral degrees without having to contend with economic concerns.”

Under these circumstances, the National Institute of Science and Technology Policy administered a survey to master's students in 2020 regarding financial support, career paths, and policies that could increase the percentage of students entering doctoral courses. The survey results were published as the 2020 Survey of Japan Master's Human Resource Profiling in June 2021. This is the second survey of Japan's master's student human resource profiling.

In this survey, the main reasons for selecting employment instead of entering a doctoral course were “I want to be financially independent” and “I want to work as a member of society.” These two reasons accounted for most of the responses. Many answers also mentioned the negative effects that entering a doctoral program had on career and income, including “If I enter a doctoral course, I cannot make any financial prediction in my life,” “If I enter a doctoral course, I will worry about finding employment after completing the course,” and “The lifetime earnings do not compensate for the cost

of completing a doctoral course (poor cost performance).” Other conditions considered important for encouraging entry into a doctoral course were “expansion of financial support for doctoral students” and “improvement of the terms of employment in private enterprises or similar organizations for candidates who have completed a doctoral course.” These two conditions received high rankings. Policies that would effectively increase the number of students entering a doctoral course, from the perspective of doctoral students, included “the stipends paid to doctoral students,” “improvement of the research environment for young researchers, including doctoral students,” and “improvement of the treatment of doctoral degree holders, such as salaries and other benefits, in industry.”

## 目次

---

概要	概 1
概要 1. 在籍者を起点とした追跡調査の概要	概 1
概要 2. 経済的支援(授業料の減免措置)	概 2
概要 3. 経済的支援(借入金)	概 3
概要 4. 進路予定	概 4
概要 5. 博士課程への進学動機	概 5
概要 6. 入職経路	概 6
概要 7. 博士課程進学ではなく就職を選択した理由	概 7
概要 8. 平均研究時間	概 8
概要 9. 博士課程進学に必要な条件	概 9
概要 10. 博士課程進学者を増加させるための効果的な施策	概 10
本編	1
1. 調査の目的と概要	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査概要	2
主要な結果	4
2. 修士課程について	4
2-1 修士課程進学理由	4
2-2 修士課程に進学を決めた時期	6
2-3 自校出身率について	7
3. 経済的支援	8
3-1 ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント	8
3-2 授業料減免措置	11
3-3 借入金	12
4. 社会人経験	13
4-1 修士課程在籍前の社会人経験	13
4-2 修士課程在籍前の就業経験	14
5. 現在の収入状況	15
5-1 収入の有無	15
5-2 仕送り	16
6. 海外経験	17

7. 満足度.....	18
8. 今後役に立つと考えられること.....	23
9. 研究時間.....	26
10. 研究成果.....	28
11. 進路.....	29
11-1 進路の状況.....	29
11-2 就職先.....	31
11-3 就職先の仕事.....	34
11-4 就職先選択の理由.....	36
11-5 雇用先の入職経路.....	38
11-6 進学ではなく就職を選んだ理由.....	40
11-7 博士課程への進学検討.....	43
11-8 博士課程への進学理由.....	44
12. 博士課程進学に対する政策への提言.....	46
12-1 博士課程への進学条件.....	46
12-2 博士課程進学者増加のための政策.....	50
13. 自由記述より.....	53
14. 課題と展望.....	59
参考資料.....	61



## 図表目次

概要図表 1	修士課程修了者の進学率.....	概 1
概要図表 2	授業料の減免措置(全体).....	概 2
概要図表 3	授業料の減免措置(学生種別).....	概 2
概要図表 4	借入金の有無(学生類型別).....	概 3
概要図表 5	借入金額(学生類型別).....	概 3
概要図表 6	進路予定(学生類型別).....	概 4
概要図表 7	進路予定(学問分野別).....	概 4
概要図表 8	進学動機(学生類型別 単位:%).....	概 5
概要図表 9	入職経路(学生類型別).....	概 6
概要図表 10	博士課程ではなく就職を選択した理由(単位:%).....	概 7
概要図表 11	修士課程在籍時の平日1日の平均研究時間.....	概 8
概要図表 12	博士課程進学のために必要な条件.....	概 9
概要図表 13	博士課程進学者増加に効果的だと思う施策.....	概 10
図 1-1	修士課程修了者の進学率.....	1
図 1-2	調査方法.....	2
図 1-3	性別、分野別回答者割合.....	3
図 2-1	修士課程進学理由(複数回答, 単位:%).....	4
図 2-2	修士課程進学理由(複数回答, 単位:%).....	5
図 2-3	修士課程進学を決めた時期(学問分野別).....	6
図 2-4	自校出身率(学生分類別).....	7
図 2-5	自校出身率(学問分野別).....	7
図 3-1	修士課程在籍時におけるTA、RAの経験(学生分類別).....	8
図 3-2	修士課程在籍時におけるTA、RAの経験(学問分野別).....	8
図 3-3	ティーチングアシスタント(TA)としての1年間の平均従事時間(単位:時間).....	9
図 3-4	ティーチングアシスタント(TA)としての1年間の従事時間(学生分類別).....	9
図 3-5	TAの職務内容(複数回答, 単位:%).....	10
図 3-6	RAの職務内容(複数回答, 単位:%).....	10
図 3-7	授業料の減免措置.....	11
図 3-8	授業料の減免措置(総額、学生分類別).....	11
図 3-9	借入金の有無(学生分類別).....	12
図 3-10	借入金総額(学生分類別).....	12
図 4-1	修士(6年制)課程在籍前の社会人経験の有無(学問分野別).....	13

図 4-2	修士(6年制)課程在籍中の就業状況(学問分野別)	13
図 4-3	修士課程在籍前の勤務先機関(全体、単位:%)	14
図 4-4	修士課程在籍前の勤務先機関(学問分野別、単位:%)	14
図 5-1	現在の給与等収入の有無(学生類型別)	15
図 5-2	1か月あたりの給与収入額(学生類型別)	15
図 5-3	1か月あたりの仕送り額(学生類型別)	16
図 5-4	1か月あたりのアルバイト収入(学生類型別)	16
図 6-1	海外経験の有無(学生類型別)	17
図 6-2	海外経験の有無(学問分野別)	17
図 7-1	修士課程に関する全般的な満足度	18
図 7-2	項目別満足度(全体)	18
図 7-3	教育・研究指導の質に対する満足度(学生類型別)	19
図 7-4	教育・研究指導の質に対する満足度(学問分野別)	19
図 7-5	人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働に対する満足度(学生類型別)	20
図 7-6	人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働に対する満足度(学問分野別)	20
図 7-7	キャリア開発支援や進路指導に対する満足度(学生類型別)	21
図 7-8	キャリア開発支援や進路指導に対する満足度(学問分野別)	21
図 7-9	国際性の向上に対する全般的な満足度(学生類型別)	22
図 7-10	国際性の向上に対する全般的な満足度(学問分野別)	22
図 8-1	今後役に立つと考えられること(複数回答)	23
図 8-2	今後役に立つと考えられること(学生分類別 単位%)	24
図 8-3	今後役に立つと考えられること(学問分野別 単位%)	25
図 9-1	平日1日当たりの平均研究時間(全体 単位:%)	26
図 9-2	平日1日当たりの平均研究時間	26
図 9-3	平日1日当たりの平均研究時間(学問分野別)	27
図 10-1	査読付き論文数(学問分野別)	28
図 10-2	国際共著論文の有無(学問分野別)	28
図 11-1	進路予定(学生分類別)	29
図 11-2	進路予定(学問分野別)	30
図 11-3	就職先の事業内容(男女別)	31
図 11-4	就職先の事業内容(学生分類別)	32
図 11-5	就職先の事業内容(学問分野別)	33
図 11-6	就職先を選択する際に重視した(する)事項(学生分類別)	36
図 11-7	就職先を選択する際に重視した(する)事項(学問分野別)	37
図 11-8	雇用先の入職経路(全体)	38
図 11-9	雇用先の入職経路(学生分類別)	38

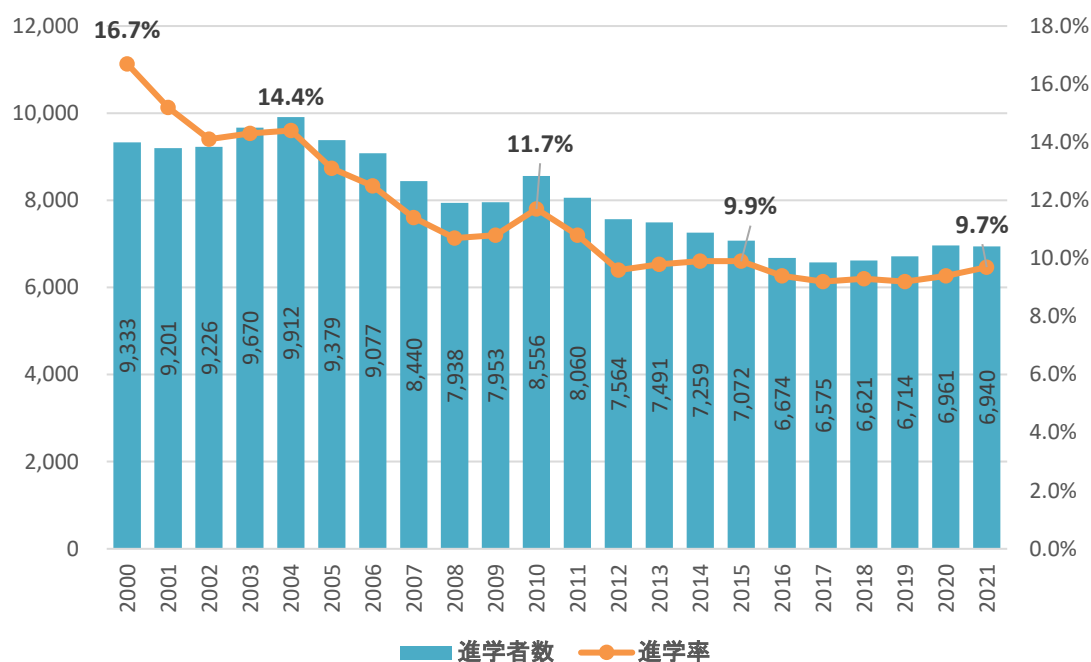
図 11-10	雇用先の入職経路(学問分類別).....	39
図 11-11	就職を選んだ理由(全体 単位:%).....	40
図 11-12	就職を選んだ理由(学生類型別 単位:%).....	41
図 11-13	就職を選んだ理由(学問分野別 単位:%).....	42
図 11-14	博士課程への進学検討の有無(学生類型別 単位:%).....	43
図 11-15	博士課程への進学検討の有無(学問分野別 単位:%).....	43
図 11-16	博士課程への進学理由(複数回答).....	44
図 11-17	博士課程への進学理由(学生類型別 単位:%).....	45
図 12-1	博士課程進学を検討する条件(全体 単位:%).....	46
図 12-2	博士課程進学を検討する条件(学生類型別 単位:%).....	47
表 11-1	就職先の仕事(男女別) *上位5種を色付け.....	34
表 11-2	就職先の仕事(学問分野別) *上位5種を色付け.....	35

# 概要

## 概要1. 在籍者を起点とした追跡調査の概要

我が国の修士課程修了者の進学率は、2000年度には16.7%であったものが、2021年度には9.7%と減少傾向が続いている(概要図表1)。2021年3月26日に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、「優秀な学生が、経済的な側面やキャリアパスへの不安、期待に沿わない教育研究環境等の理由から、博士後期課程への進学を断念する状況」が指摘されており、「優秀な若者が、アカデミア、産業界、行政など様々な分野において活躍できる展望が描ける環境の中、経済的な心配をすることなく、自らの人生を賭けるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す」ことが目標として掲げられている<sup>3</sup>。

概要図表1 修士課程修了者の進学率



こうした背景の中、NISTEPでは、2020年度修士課程在籍者を対象として、在籍中における経済的支援状況、進路状況、博士課程への進学率を向上させるための政策等について調査を実施し、2021年6月に「2020年度修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者を対象とした在籍者調査」を公表した。本調査はその第2回目となるものである。今回の調査は2022年1月16日から2022年3月8日にかけて実施した。回収状況は、対象者数125,028名<sup>4</sup>、回答数(有効回答数)17,525名、回答率(有効回答率)14.0%であった。

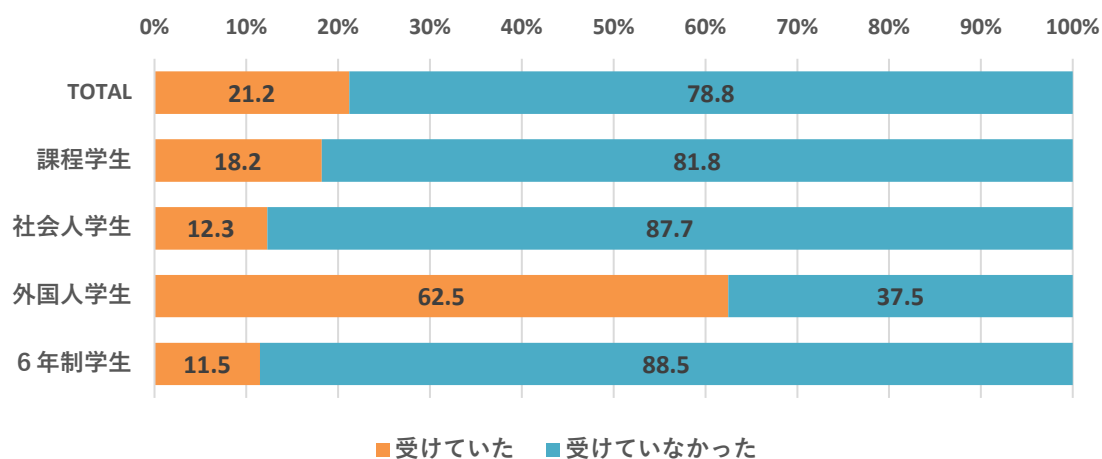
<sup>3</sup> <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html>

<sup>4</sup> 文部科学省「学校基本調査」より集計

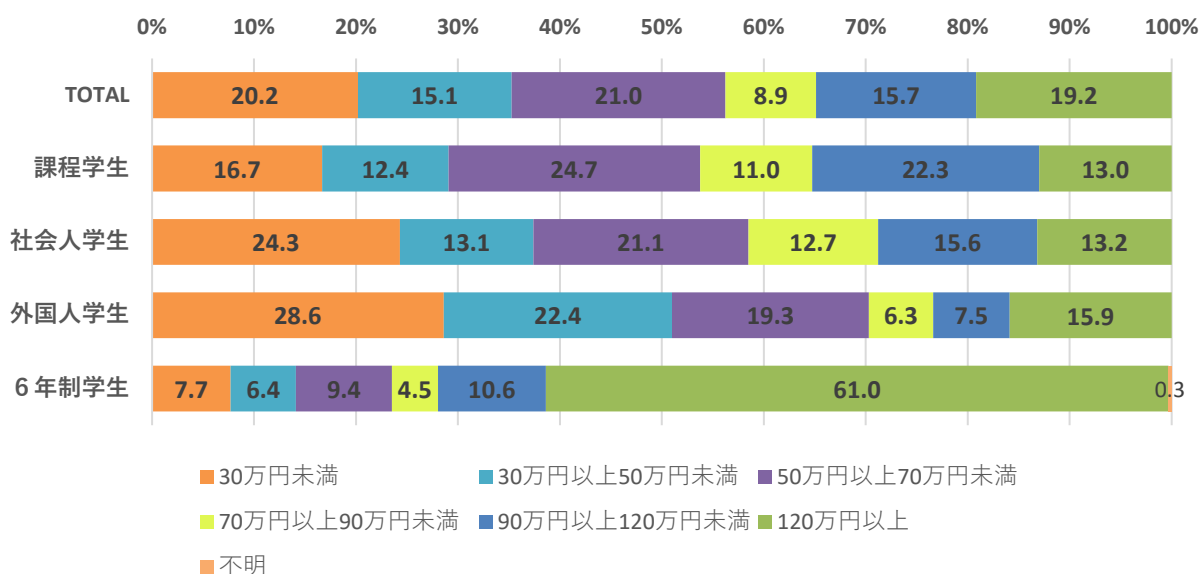
## 概要2. 経済的支援(授業料の減免措置)

在籍中の授業料減免措置に関しては、全体では約2割となる21.2%が減免措置を受けていた。学生類型別では、減免措置を受けた割合が最も高いのは外国人学生(62.5%)次いで課程学生(18.2%)、社会人学生(12.3%)、6年制学生(11.5%)の順であった(概要図表2)。また、授業料免除を受けていた者に対して総額を尋ねたところ、全体では「50万円以上70万円未満」(21.0%)が最も多く、次いで「30万円未満」(20.2%)、「120万円以上」(19.2%)の順となった。学生類型別では6年制学生で総額120万円以上が最も多かった(61.0%)が、これは修業年限に起因するものと思われる(概要図表3)。

概要図表2 授業料の減免措置(全体)



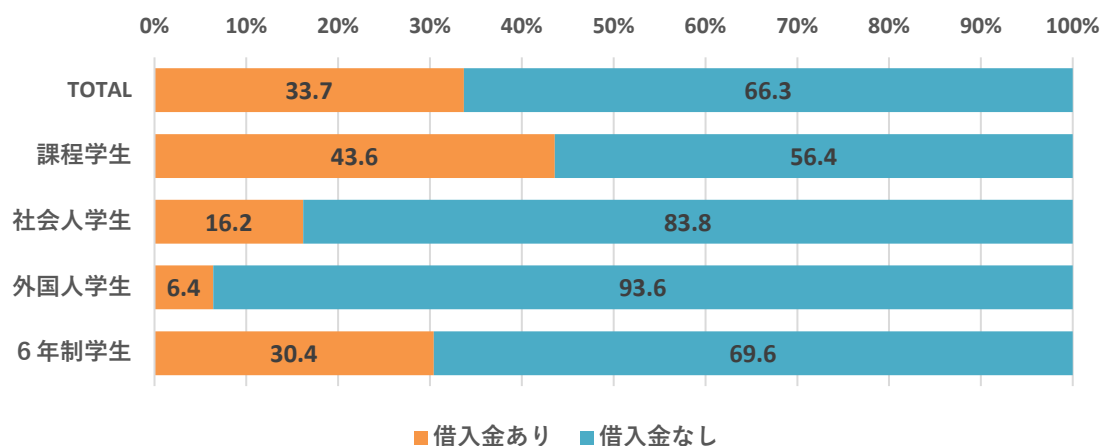
概要図表3 授業料の減免措置(学生種別)



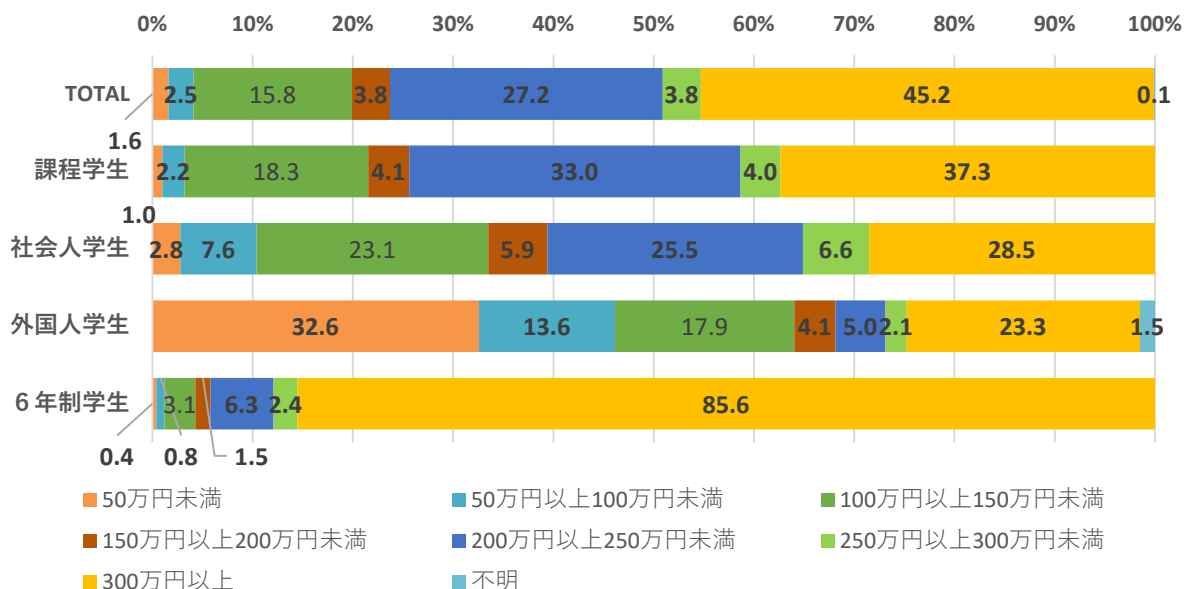
### 概要3. 経済的支援(借入金)

返済義務のある奨学金・借入金に関しては、借入金有と回答した者は全体の33.7%であった。学生分類別では課程学生が43.6%と最も高く、続いて6年制学生(30.4%)、社会人学生(16.2%)、留学生(6.4%)の順となった(概要図表4)。借入金額は全体では半数近い45.2%が300万円以上と回答した。学生類型別では、300万円以上と回答した割合が最も高かったのは6年制学生(85.6%)、課程学生(37.3%)次いで社会人学生(28.5%)、外国人学生(23.3%)の順であった。(概要図表5)。

概要図表 4 借入金の有無(学生類型別)



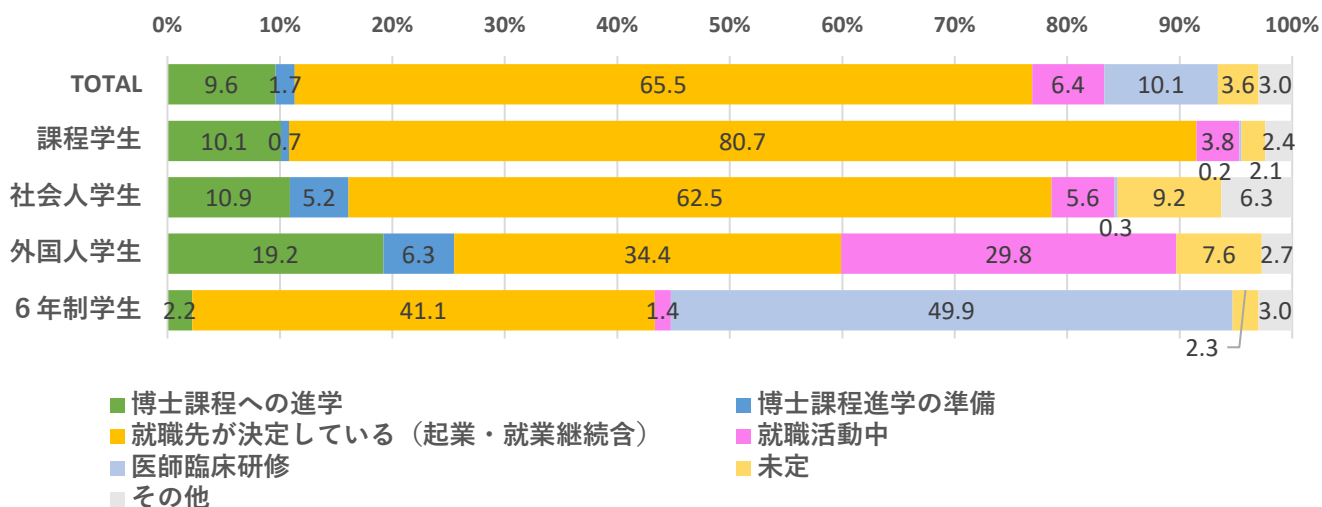
概要図表 5 借入金額(学生類型別)



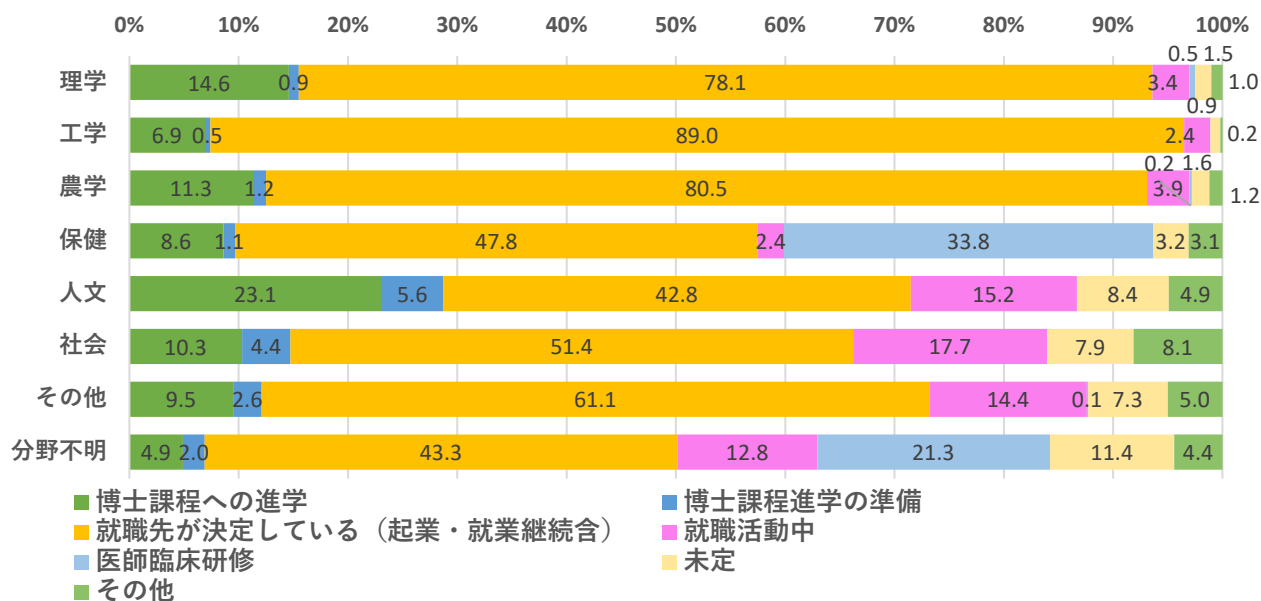
## 概要4. 進路予定

在籍者に進路予定について尋ねたところ、全体では博士課程への進学(9.6%)、博士課程進学  
の準備(1.7%)と進学を予定している者は1割程度であったのに対し、就職活動中を含め就職と  
回答した者は約7割を占めた。(概要図表6)。学生種別毎にみると、外国人学生は進学、進学準  
備を併せて25.5%と約4分の1が進学と回答している。学問分野別では、人文系の進学、進学準  
備割合が28.7%と最も高く、工学系では就職予定の回答割合が約9割を占めた(概要図表7)。

概要図表 6 進路予定 (学生類型別)



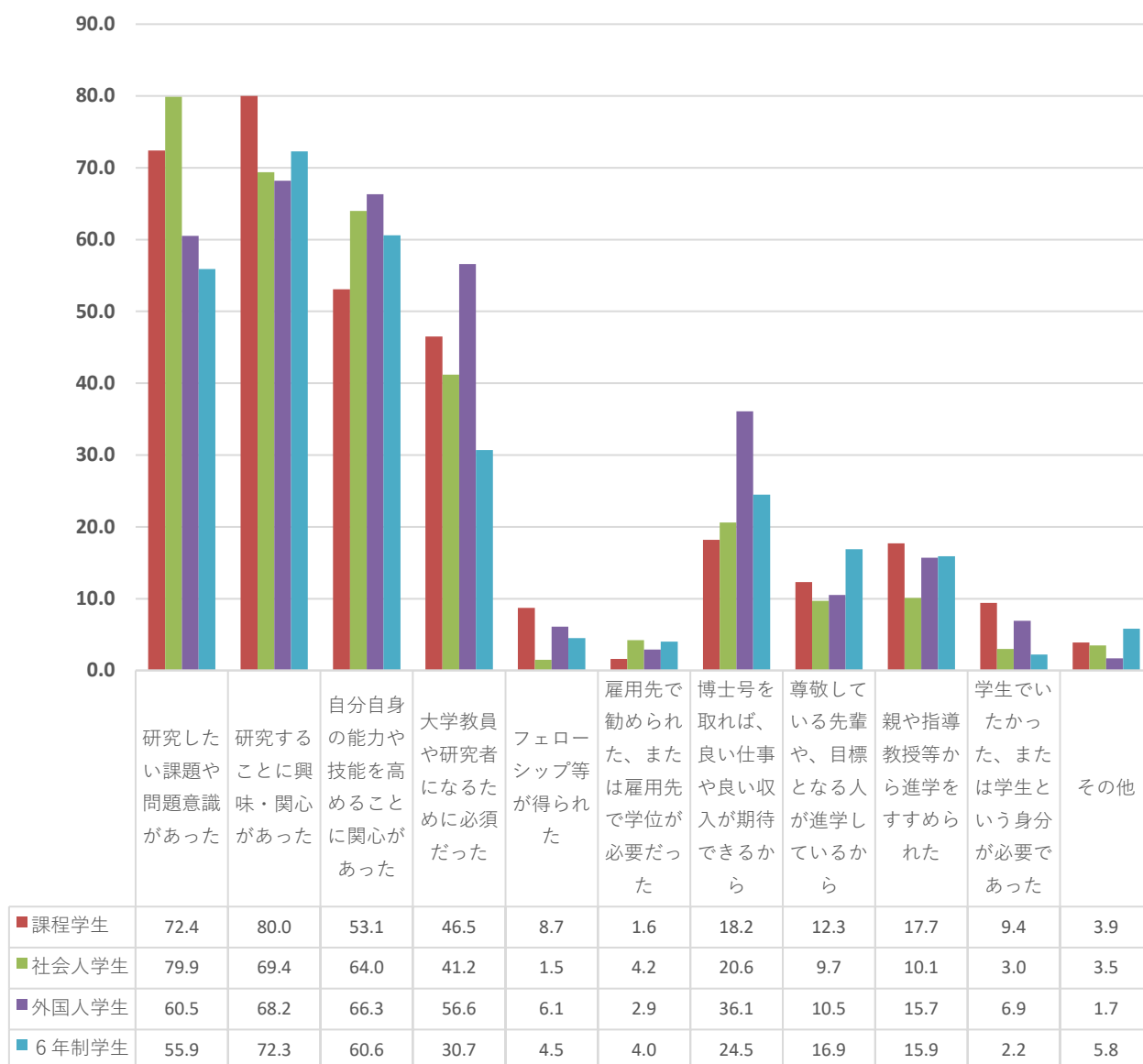
概要図表 7 進路予定 (学問分野別)



## 概要5. 博士課程への進学動機

進学予定者に博士課程への進学動機について尋ねたところ、「研究したい課題や問題意識があった」と進学に明確な動機があると回答した者の割合は社会人学生で最も高く(79.9%)、次いで課程学生(72.4%)、留学生(60.5%)、6年制学生(55.9%)の順となった。一方、「博士号を取れば良い仕事や良い収入が期待できるから」と将来のキャリアや収入を進学動機と回答した者の割合は外国人学生が最も多く(36.1%)、次いで6年制学生(24.5%)、社会人学生(20.6%)、課程学生(18.2%)の順であった(概要図表8)。

概要図表 8 進学動機 (学生類型別 単位：%)

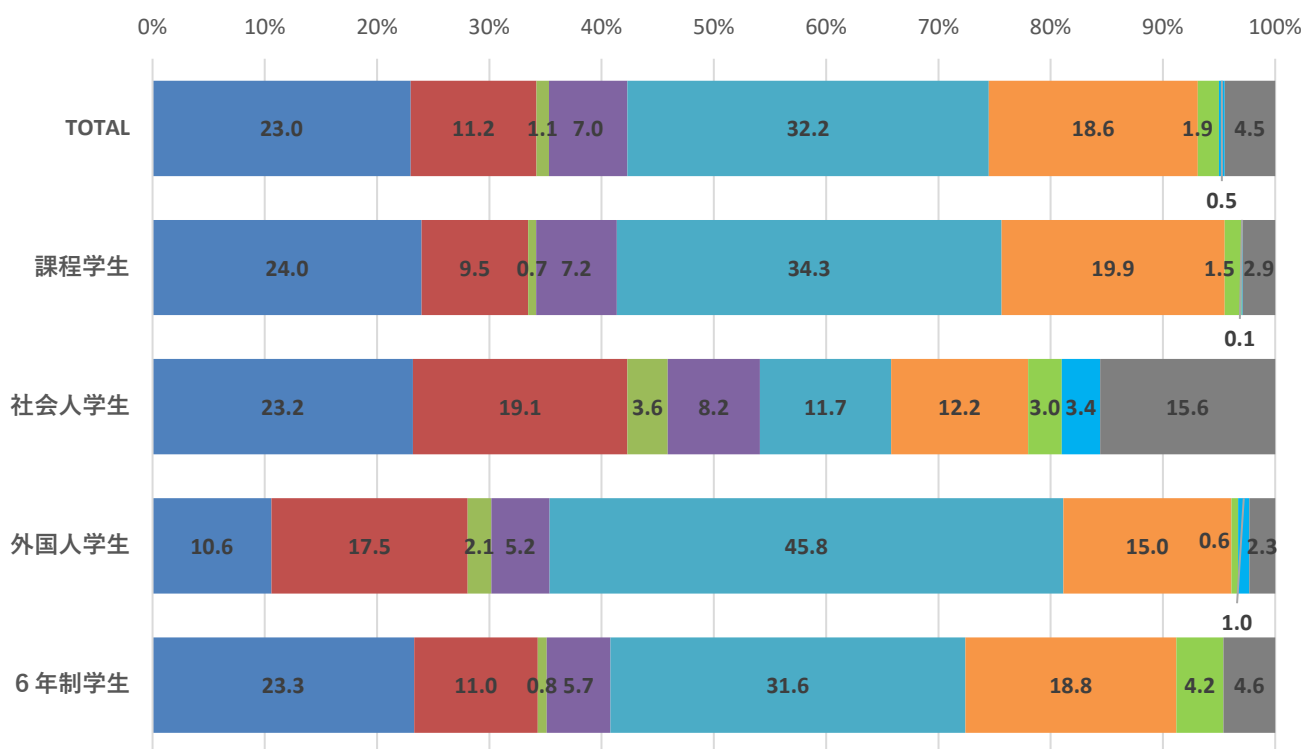




## 概要6. 入職経路

「就職先が決定している」と回答した者に入職経路について尋ねたところ、全体では「就職情報サイト・求人専門情報誌・新聞・チラシ等」と回答した者の割合が32.2%と最も高く、次いで「大学・大学院(指導教員からの紹介等)」(23%)、「機関・企業のホームページ」(18.6%)となった。また、起業と回答した者の割合は、全体では0.5%であったが、学生類型別にみると、社会人学生は3.4%と最も高く、次いで外国人学生(1%)、課程学生(0.1%)の順となった(概要図表9)。

概要図表 9 入職経路 (学生類型別)

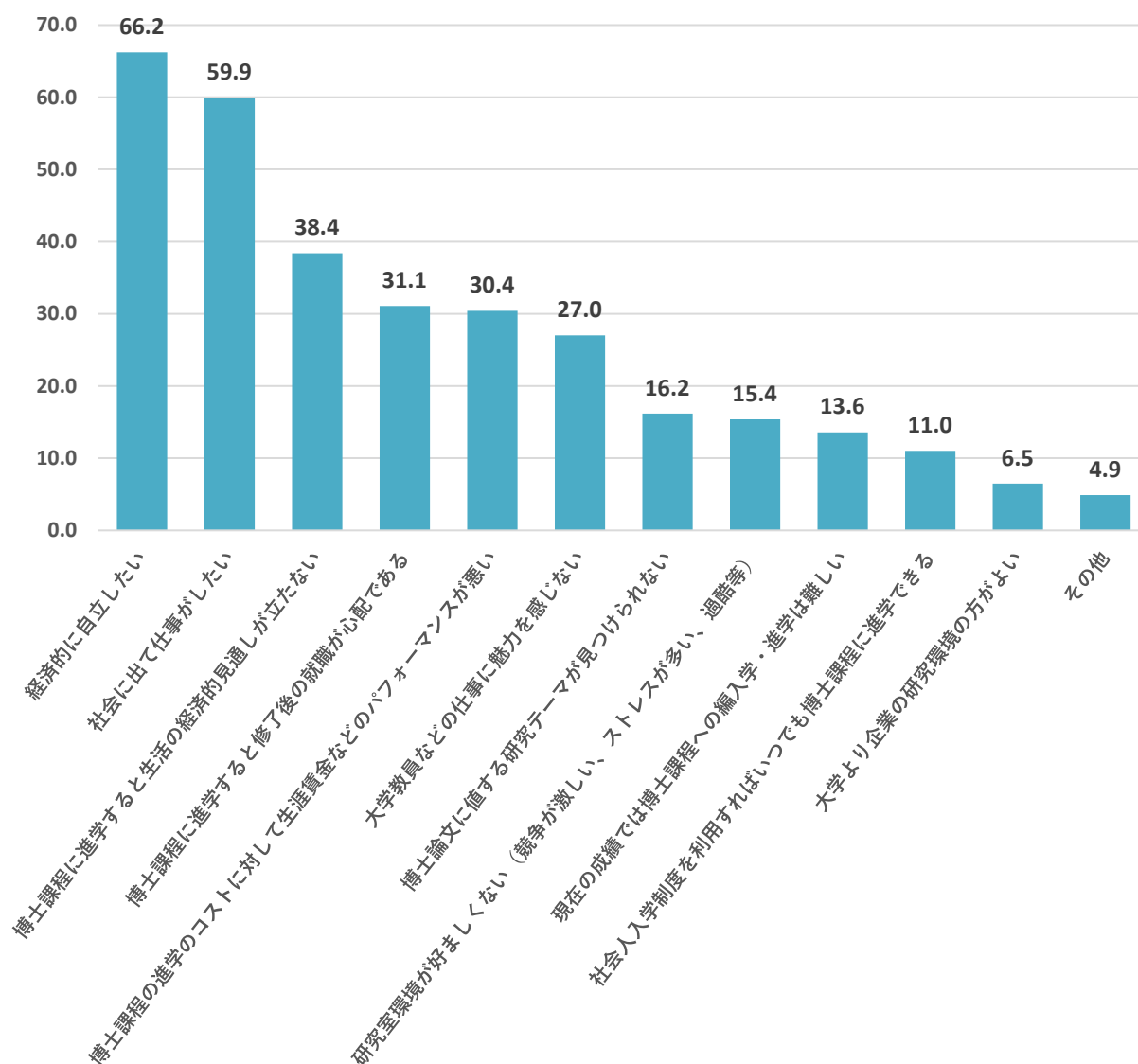


- 大学・大学院 (指導教員からの紹介等)
- 縁故 (友人・知人等を含む)
- ハローワーク等の公的機関
- エージェント等の民間の職業紹介機関 (大学・大学院を除く)
- 就職情報サイト・求人情報専門誌・新聞・チラシ等
- 機関・企業のホームページ
- 機関・企業訪問
- 起業
- その他

## 概要7. 博士課程進学ではなく就職を選択した理由

「就職先が決定している」または「就職活動中」と回答した者に、進学ではなく就職を選択した理由について尋ねたところ、全体では、主な理由として「経済的に自立したい」(66.2%)と「社会に出て仕事がしたい」(59.9%)が挙げられた。一方で、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」(38.4%)と経済的な理由を挙げた回答も4割近くあった。また、「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」(31.1%)、「博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い」(30.4%)と博士進学がキャリアや収入にネガティブな影響を与えることを懸念する回答もそれぞれ3割程度挙げられた(概要図表10)。

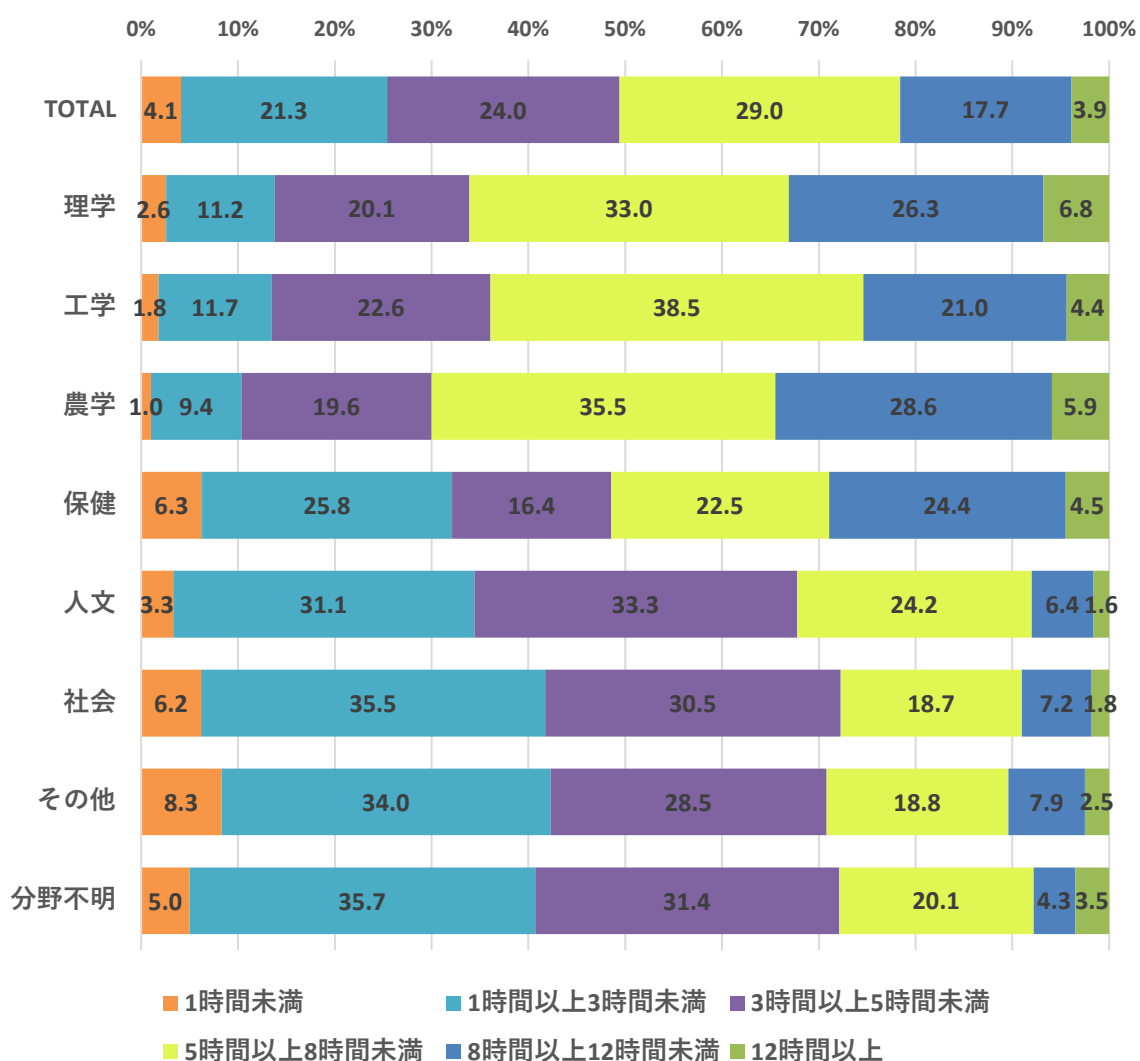
概要図表 10 博士課程ではなく就職を選択した理由 (単位：%)



## 概要8. 平均研究時間

修士課程在籍時の平日1日の平均研究時間を尋ねたところ、全体では5時間以上8時間未満が最も多かった(29.0%)。(概要図表11)。学問分野別でみると、8時間以上と回答した割合が最も多かったのは農学(34.5%)、続いて理学(33.1%)、保健(28.9%)、工学(25.4%)とSTEM系分野において研究時間が長い傾向がみられた。一方、3時間未満と回答した割合は全体では25.4%であった。学問分野別では社会(41.7%)が最も多く、続いて人文(34.4%)、保健(32.1%)が続いた(概要図表11)。

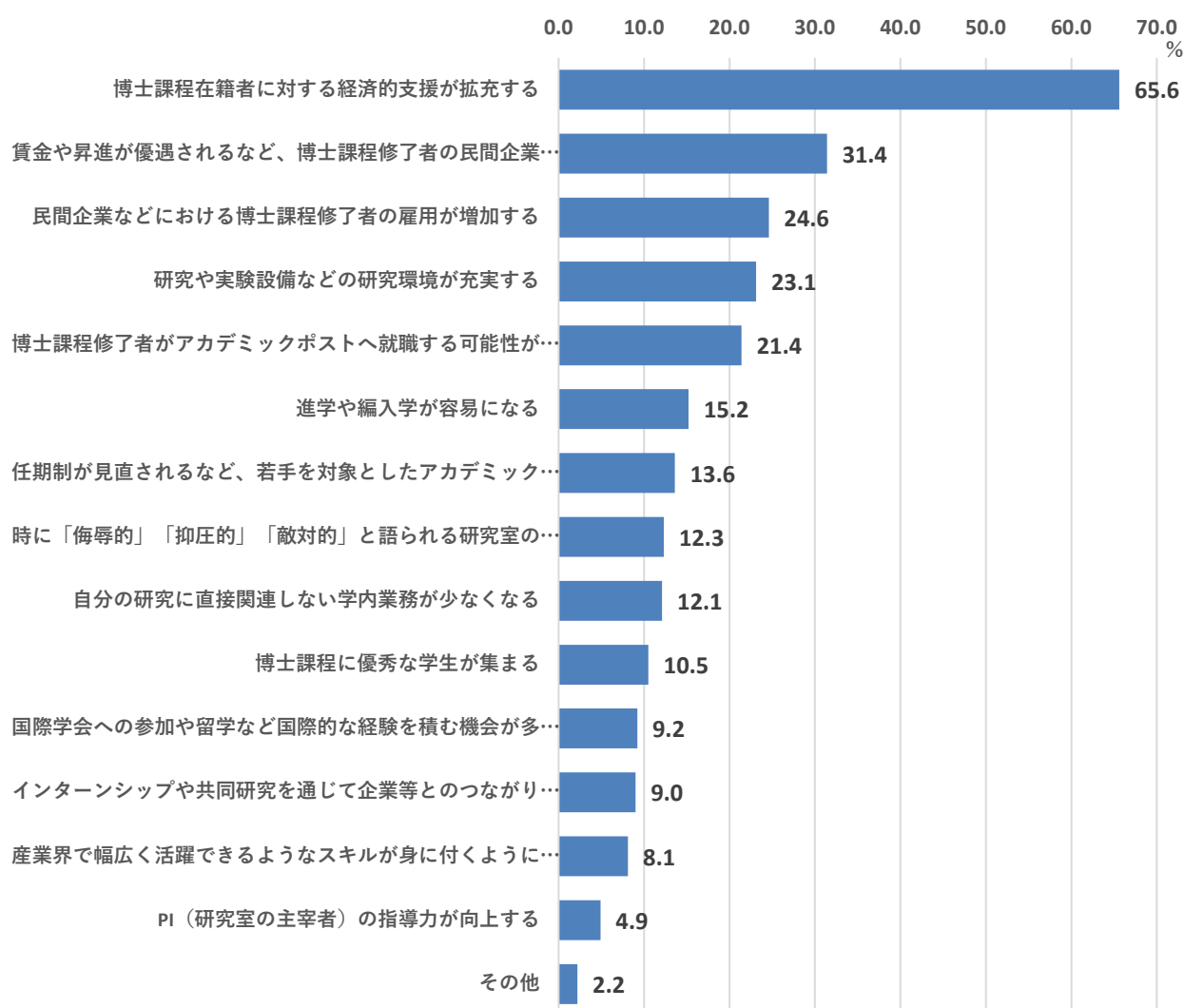
概要図表 11 修士課程在籍時の平日1日の平均研究時間



## 概要9. 博士課程進学に必要な条件

博士進学を検討する場合、どのような条件が整うことが重要だと思うか尋ねたところ、全体では「博士課程在籍者に対する経済的支援が拡充する」(65.6%)が最も多かった。次に多かったのが「賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する」(31.4%)、「民間企業などにおける博士課程修了者の雇用が増加する」(24.6%)など、企業における雇用の拡大や雇用環境の改善を求める回答となった。一方で、インターンシップ経験や産業界で幅広く活躍するためのトランスファラブルスキル獲得についてはいずれも1割以下であった(概要図表12)。

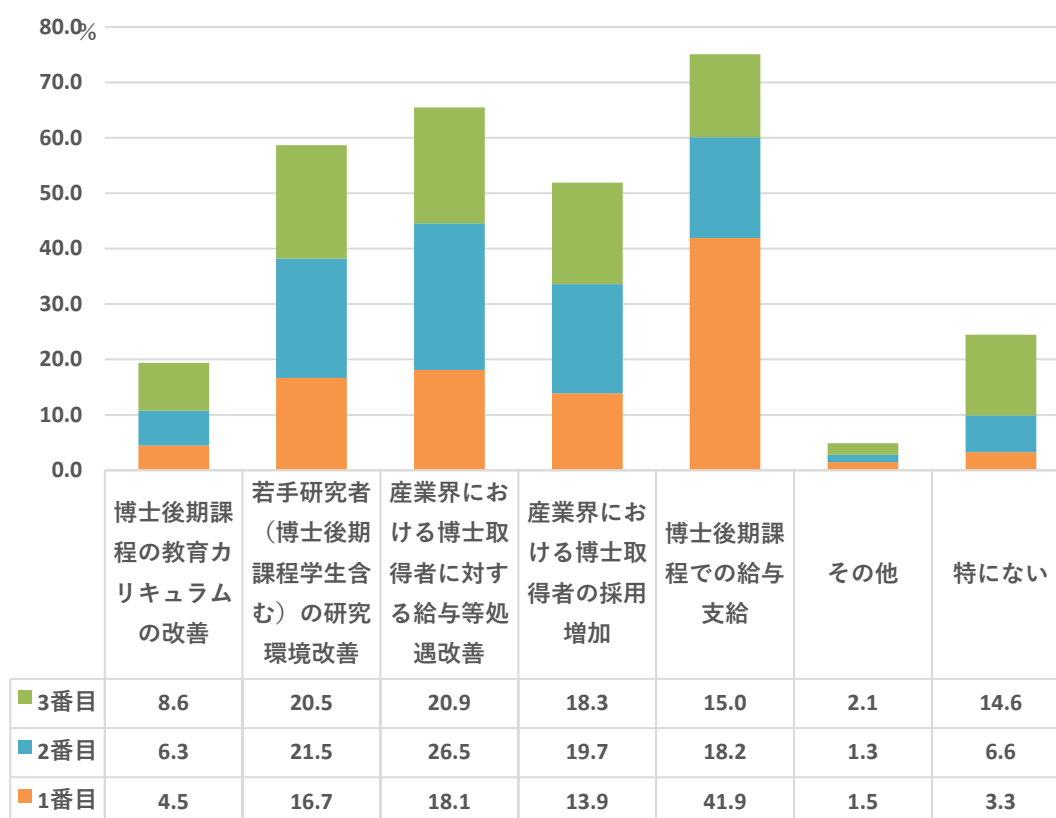
概要図表 12 博士課程進学のために必要な条件



## 概要10. 博士課程進学者を増加させるための効果的な施策

博士課程の魅力を高め、博士課程進学者を増加させるために効果的な施策について上位3つを尋ねたところ、1番効果的だと思う施策は「博士後期課程での給与支給」が最も高く、次いで「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」、「若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善」、「産業界における博士取得者の採用増加」の順となった(概要図表13)。その他の自由記述回答では、「給付型奨学金の採用数・給付額増加」、「奨学金返還免除や授業料免除の拡充」、「博士前期課程での給与支給」等経済的支援の手段、範囲の拡大を求める意見が多く寄せられた。また、「就労しながら博士号を取得する手段の拡大」、「仕事との両立ができるカリキュラム編成」等、働きながら研究や学業を続けるための環境整備を求める意見も多く見受けられた。

概要図表 13 博士課程進学者増加に効果的だと思う施策



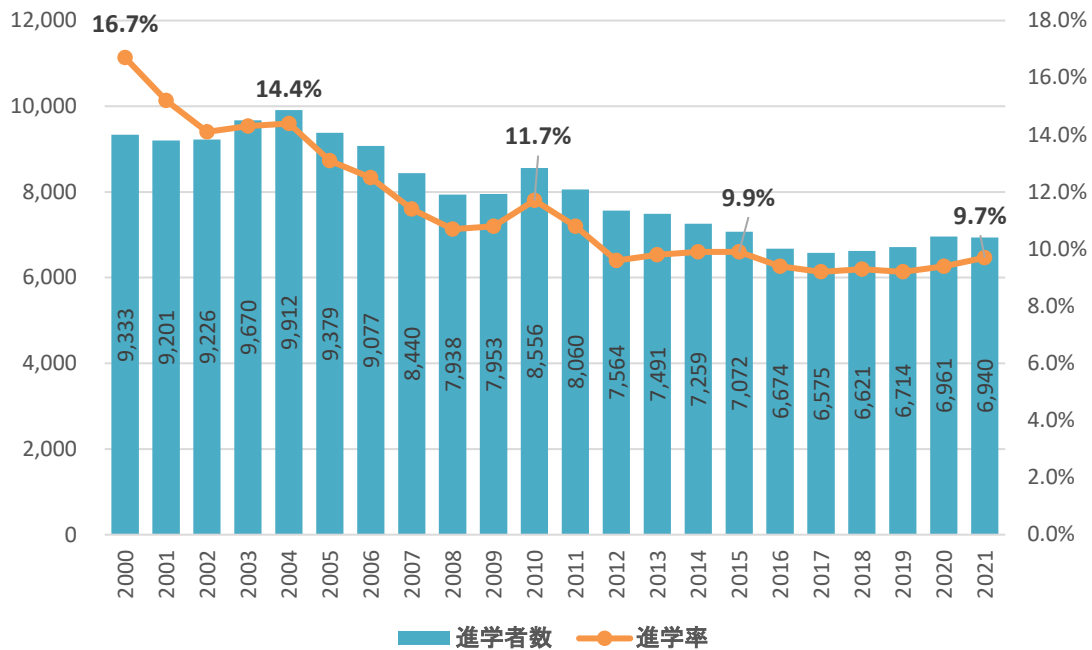
# 本編

## 1. 調査の目的と概要

### 1-1 調査の目的

我が国における修士課程修了者の進学率は、2000年度の16.7%以降、減少傾向にあり、2020年度には9.4%まで低下した(図1-1)。2019年1月に中央教育審議会大学院部会がまとめた「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿」では、我が国の人口100万人当たりの博士学位取得者は、米、英、独に対し2分の1程度の水準にとどまっていることが指摘されており、このままでは今後の社会を先導できるような「知のプロフェッショナル」確保に大いに問題を生じる可能性があるとして、大学院段階における教育・経済支援環境を含む大学院教育の体質改善や優秀人材の進学促進に向けた取組強化等が提言された<sup>5</sup>。また、2021年3月26日に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」においても、「優秀な学生が、経済的な側面やキャリアパスへの不安、期待に沿わない教育研究環境等の理由から、博士後期課程への進学を断念する状況」が指摘されており、「優秀な若者が、アカデミア、産業界、行政など様々な分野において活躍できる展望が描ける環境の中、経済的な心配をすることなく、自らの人生を賭けるに値するとして、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す」ことが目標として掲げられている<sup>6</sup>。

図 1-1 修士課程修了者の進学率



<sup>5</sup> [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1412988.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1412988.htm)

<sup>6</sup> <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html>

科学技術・学術政策研究所(NISTEP)は、客観的根拠に立脚した政策策定に貢献することを目的として、2014年から「博士人材追跡調査」を概ね3年毎に実施してきたが、これに加え、2020年度に修士課程(6年制学科を含む)修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者<sup>7</sup>の全員に対する調査(悉皆調査)として、在籍中における経済的支援状況、進路状況、博士課程に進学しない理由、在籍者の視点から博士課程への進学率を向上させるための政策等に関するアンケートを実施した。本調査はその2回目となるものである。

## 1-2 調査概要

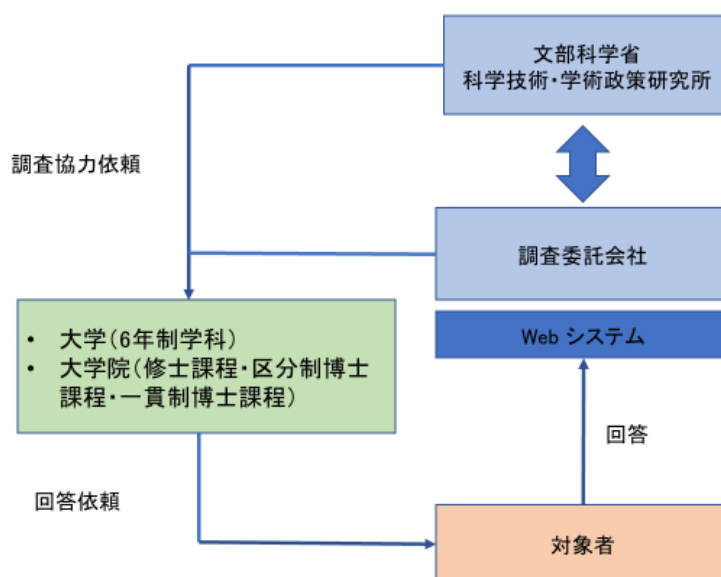
### 1) 調査対象者

令和3年度(2021年度)に修士課程(6年制学科を含む)を修了(卒業)した者及び修了(卒業)予定の者<sup>8</sup>

### 2) 調査方法

本調査は、大学経由で対象者にメール等により、回答用のWebシステムのURLを知らせた。対象者は回答用Webサイトにアクセスすることによって、回答した。各大学から、回答依頼数及びその方法について、報告を受けた(図1-2)。

図 1-2 調査方法



<sup>7</sup> 以下、本文では、1-2 調査概要 1) 調査対象者を除き、「(6年制学科を含む)」を省略し、「修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者」を「在籍者」とする。

<sup>8</sup> 以下、「(6年制学科を含む)」を省略し、「修了(卒業)した者及び修了(卒業)予定の者」を「在籍者」する。

## 調査期間

2022年1月19日～2022年3月4日

## 調査内容

経済支援状況、満足度、インターンシップの状況、進路状況、博士課程に進学しない理由、在籍者の視点から博士課程への進学率を向上させるための政策等

## 調査業務支援

(株)インテージリサーチ 公共サービス事業部 ソーシャル事業推進部

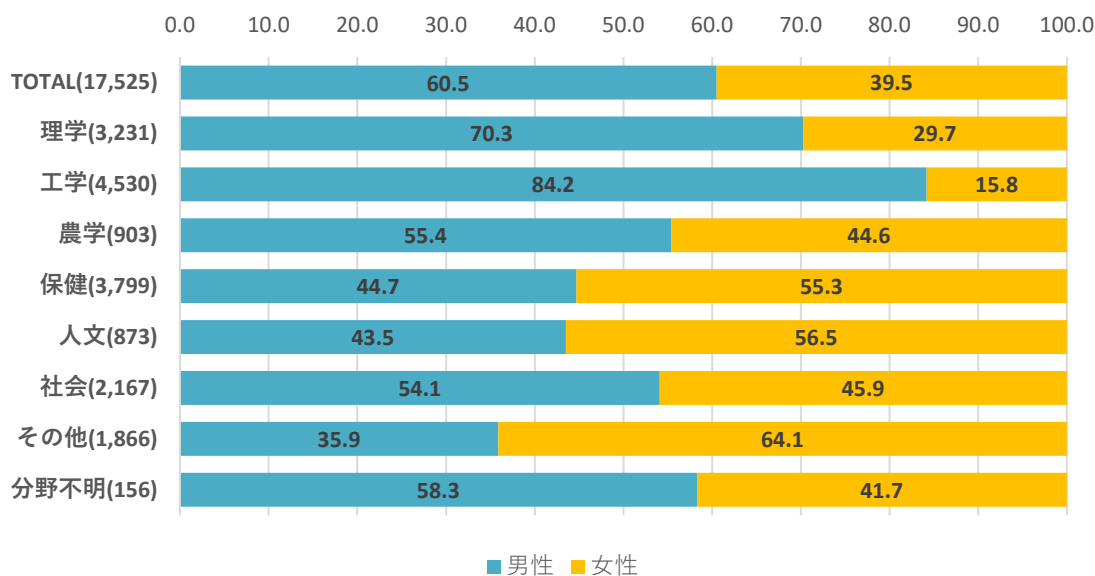
## 回収状況

対象者数 125,028 名 (学校基本調査)

回答数 17,525 名、有効回答数 17,525 名 (回答率:14.0%、有効回答率 14.0%)

分野別では、以下のとおりである(図 1-3)。

図 1-3 性別、分野別回答者割合



注) 対象者の研究分野は「学校基本調査」、回答者の研究分野は自己申告による。

調査協力は回答者個人の意思によるものであるため、回答バイアスが存在している可能性がある。そこでできる限りこのバイアスを排除するためのキャリブレーションウェイトを構築し<sup>9</sup>、これを用いた集計分析を行った。

<sup>9</sup> キャリブレーションウェイトは横浜市立大学データサイエンス学部の土屋隆裕教授により構築。



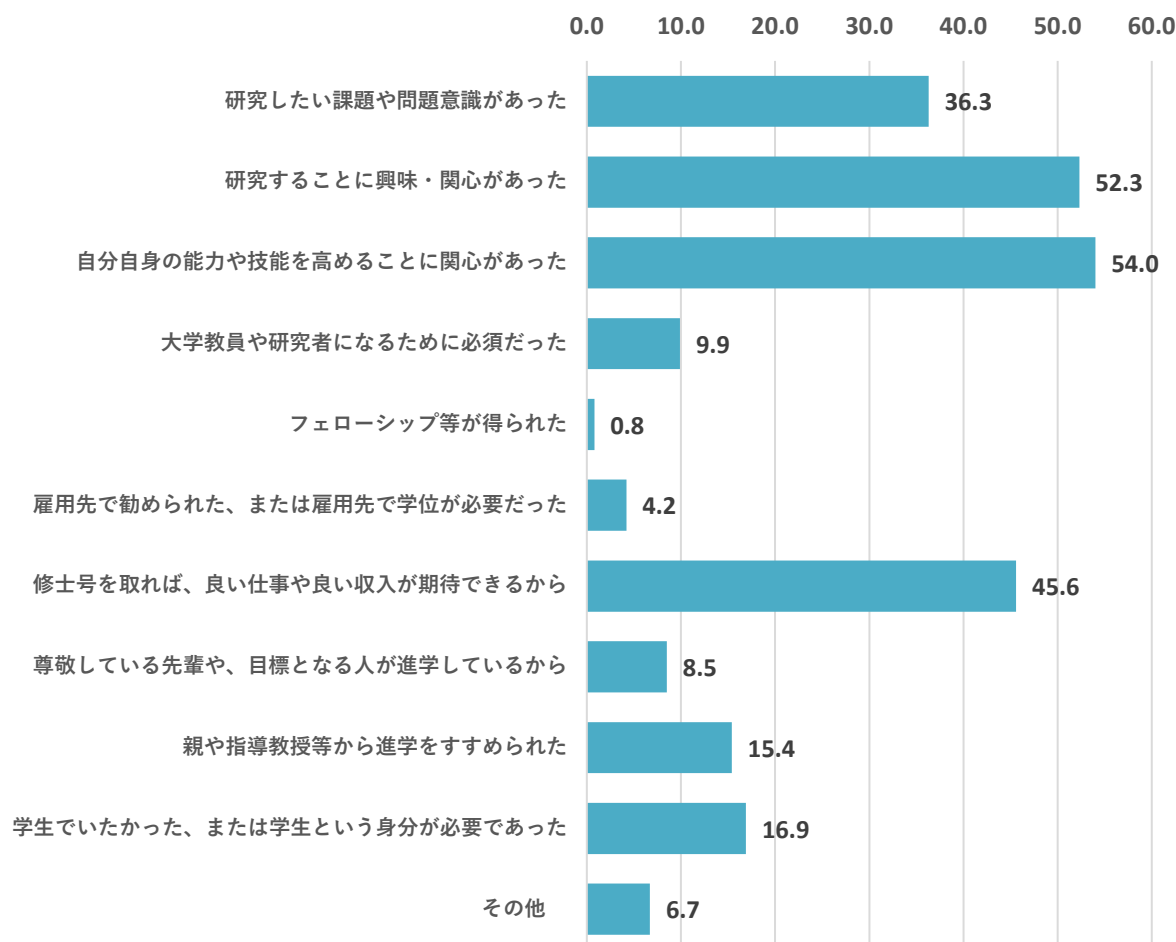
## 主要な結果

### 2. 修士課程について

#### 2-1 修士課程進学理由

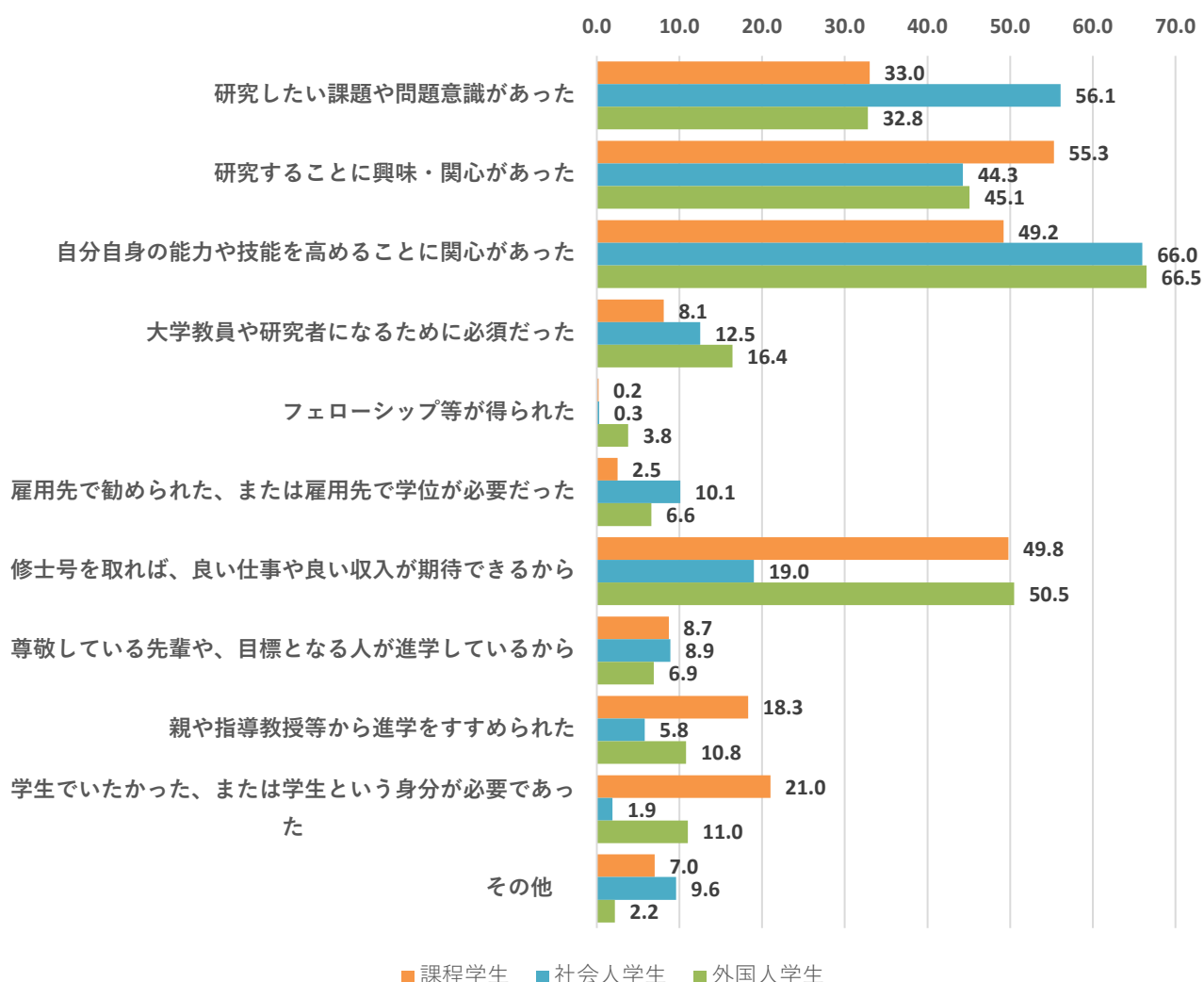
修士課程に進学した理由を複数回答可で尋ねたところ、全体では「自分自身の能力や技能を高めることに関心があった」(54.0%)との回答が最も高く、次いで「研究することに興味・関心があった」(52.3%)、といった回答が半数を超えた。また、「修士号を取れば、良い仕事や良い収入が期待できるから」などキャリアアップや収入増に繋がると回答した者は 45.6%、「研究したい課題や問題意識があった」と明確な研究目的や課題があったとの回答は 36.3%だった。(図 2-1)。

図 2-1 修士課程進学理由(複数回答, 単位: %)



修士課程への進学理由について学生類型別にみると、「研究したい課題や問題意識があった」と明確な問題意識や研究課題があったと回答した割合は社会人が最も多く(56.1%)、次いで課程学生(33.0%)、外国人学生(32.8%)の順となった。一方、「修士号を取れば、良い仕事や良い収入が期待できるから」と回答した割合は外国人学生が最も多く(50.5%)、次いで課程学生(49.8%)、社会人学生(19.0%)の順となった。また、「フェローシップ等が得られた」等経済的支援を進学理由に挙げた割合は外国人学生が3.8%で最も多く、課程学生(0.2%)、社会人学生(0.3%)にはほとんどみられなかった(図 2-2)。なお、その他の自由記述回答では、薬剤師や専門看護師、臨床心理士等の資格取得や試験科目免除、司法試験の受験資格を得るため等、専門職に係る資格を理由に挙げた者が多く見受けられた。

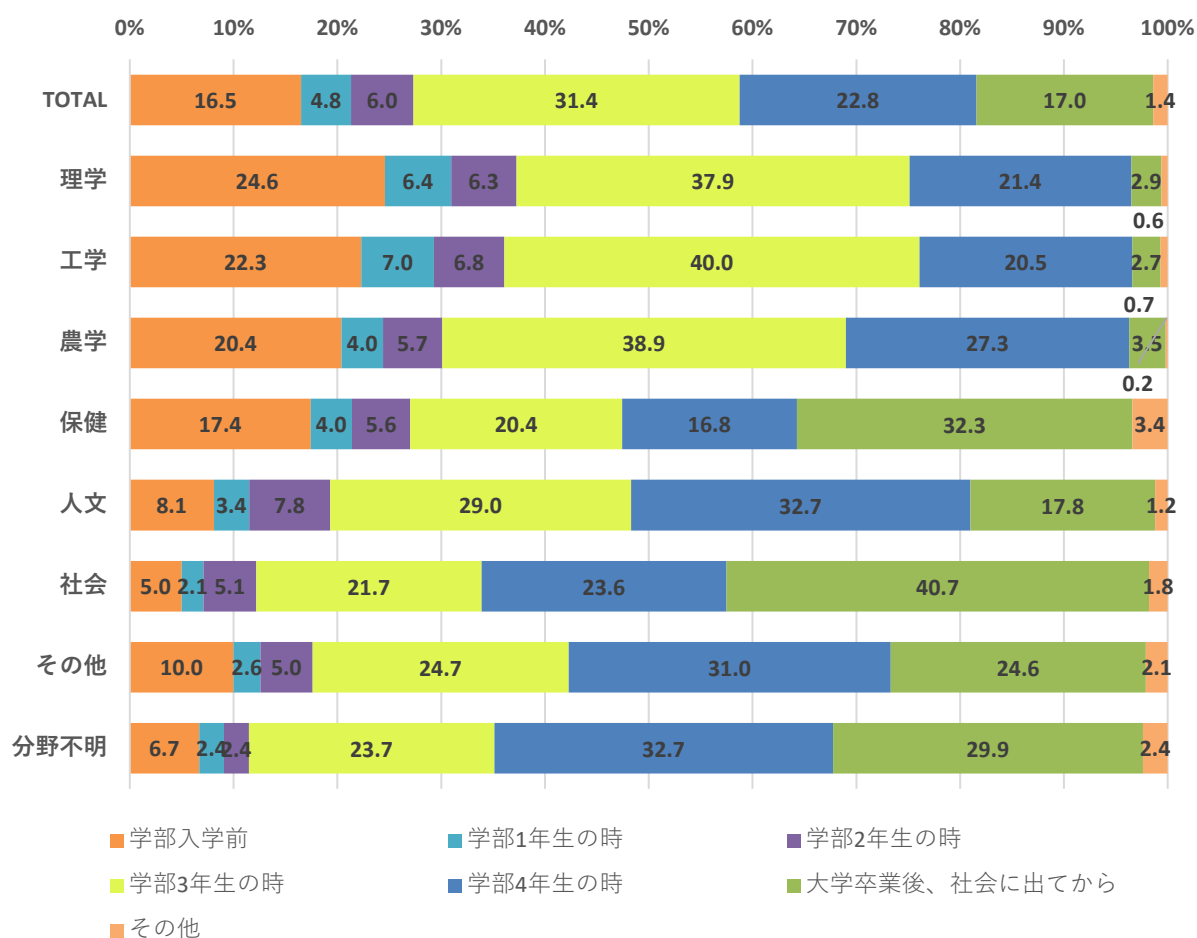
図 2-2 修士課程進学理由(複数回答, 単位: %)



## 2-2 修士課程に進学を決めた時期

修士課程に進学を決めた時期は、全体では学部3年次が31.4%と最も多く、次いで学部4年次(22.8%)、大学卒業後、社会に出てから(17%)となった。学問分野別でみると、理学(24.6%)、工学(22.3%)、農学(20.4%)等では2割以上が「学部入学前」とかなり早い段階で大学院進学を決めたと回答している。また、これらの分野では学部3年次までに半数以上が進学を決めているなど、STEM系分野は人文系と比較して大学院進学決定時期が早い傾向がみられた(図2-3)。

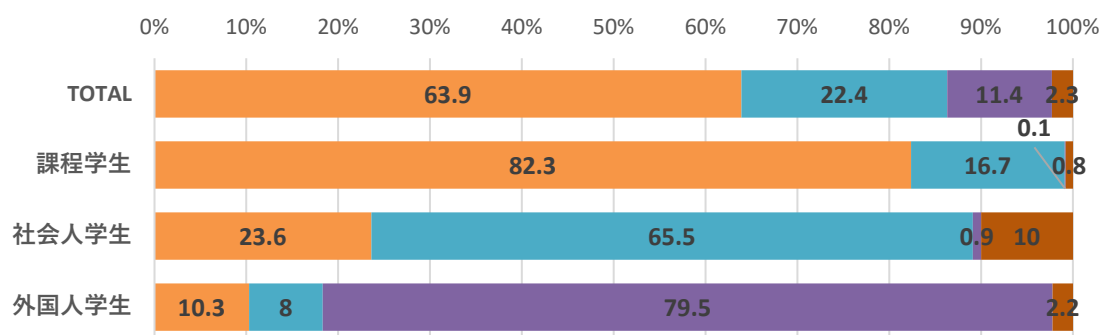
図 2-3 修士課程進学を決めた時期(学問分野別)



## 2-3 自校出身率について

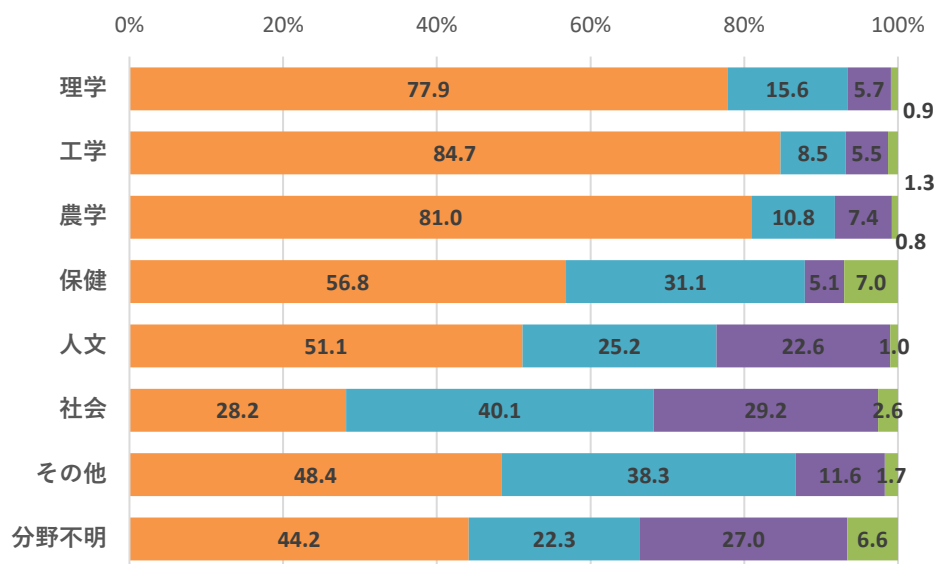
自校出身率を見てみると、全体では「修士課程と同じ大学」と回答した者が 63.9%で最も高かった。学生分類別では、課程学生は「修士課程と同じ大学」と回答した割合が最も高く(82.3%)、次いで「修士課程とは違う国内の大学」(16.7%)、「修士課程とは違う国外の大学」(0.8%)が続いた。一方社会人学生は「修士課程と同じ大学」と回答した割合は 23.6%にとどまり、約 3 分の 2 の 65.5%は「修士課程とは違う国内の大学」と回答している(図 2-4)。分野別では、工学(84.7%)、農学(81.0%)、理学(77.9%)、等 STEM 系分野で自校出身比率が高い傾向がみられた(図 2-5)。

図 2-4 自校出身率 (学生分類別)



■ 修士課程と同じ大学 ■ 修士課程とは違う国内の大学 ■ 修士課程とは違う国外の大学 ■ その他

図 2-5 自校出身率 (学問分野別)



■ 修士課程と同じ大学 ■ 修士課程とは違う国内の大学  
■ 修士課程とは違う国外の大学 ■ その他

### 3. 経済的支援

#### 3-1 ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント

ティーチングアシスタント(TA)は、「優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対するチュータリング(助言)や実験、演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院学生のトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当の支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度」、リサーチアシスタント(RA)は「大学等が行う研究プロジェクト等に、教育的配慮の下に、大学院学生等を研究補助者として参画させ、研究遂行能力の育成、研究体制の充実を図るとともに、これに対する手当の支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的としたもの」とされている<sup>10</sup>。

修士課程におけるTAの経験について尋ねたところ、全体では44.7%がTA経験あり、5.7%がRA経験あり、52.9%はTA,RA経験なしと回答している。学生分類別では課程学生の約3分の2にあたる67.6%がTAの経験があると回答している(図3-1)。学問分野別ではTAは農学分野で最も多く(76.1%)、RAは工学分野(9.2%)で最も多い結果となった(図3-2)。

図 3-1 修士課程在籍時における TA、RA の経験 (学生分類別)

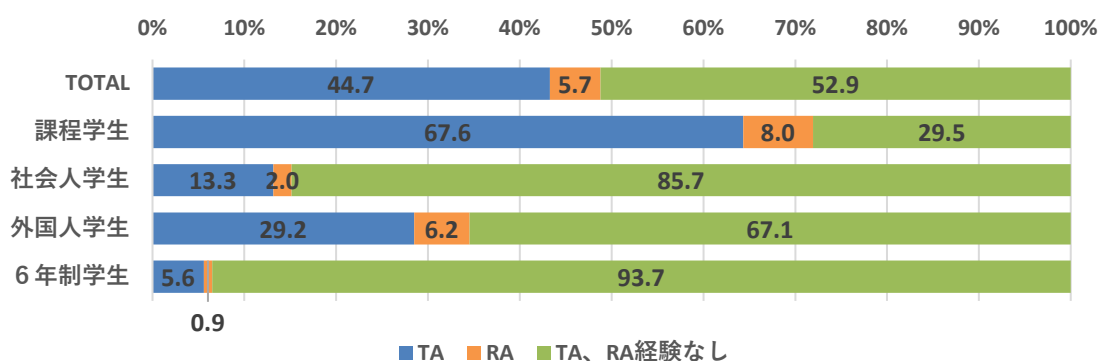
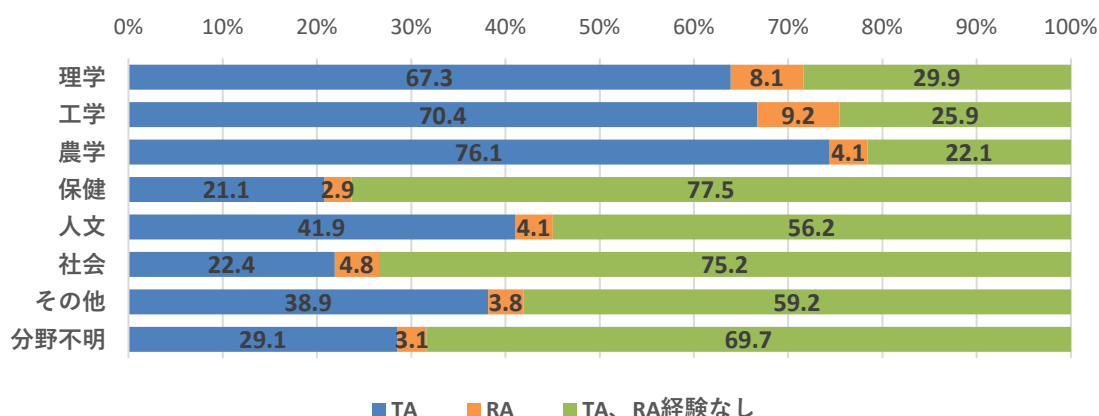


図 3-2 修士課程在籍時における TA、RA の経験 (学問分野別)



<sup>10</sup> [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/attach/1342526.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/attach/1342526.htm)

TA 経験が「ある」と回答した者に、1年間の従事時間を尋ねると、全体の平均は 65.3 時間であった。学生分類別では外国人学生が 80.6 時間とやや多い傾向がみられた(図 3-3)。従事時間詳細をみると、全体では 10 時間以上 30 時間未満が 25.2%と最も高く、次いで 30 時間以上 50 時間未満が 21.8%であった。(図 3-4)。

図 3-3 ティーチングアシスタント (TA) としての 1 年間の平均従事時間 (単位 : 時間)

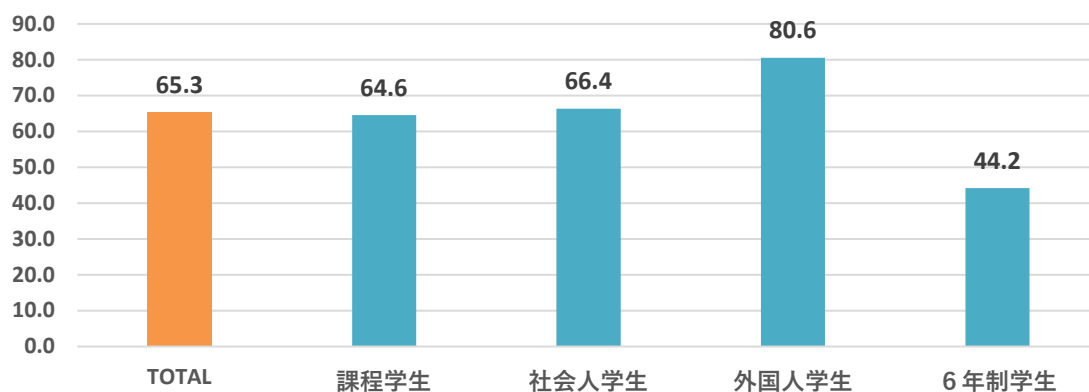
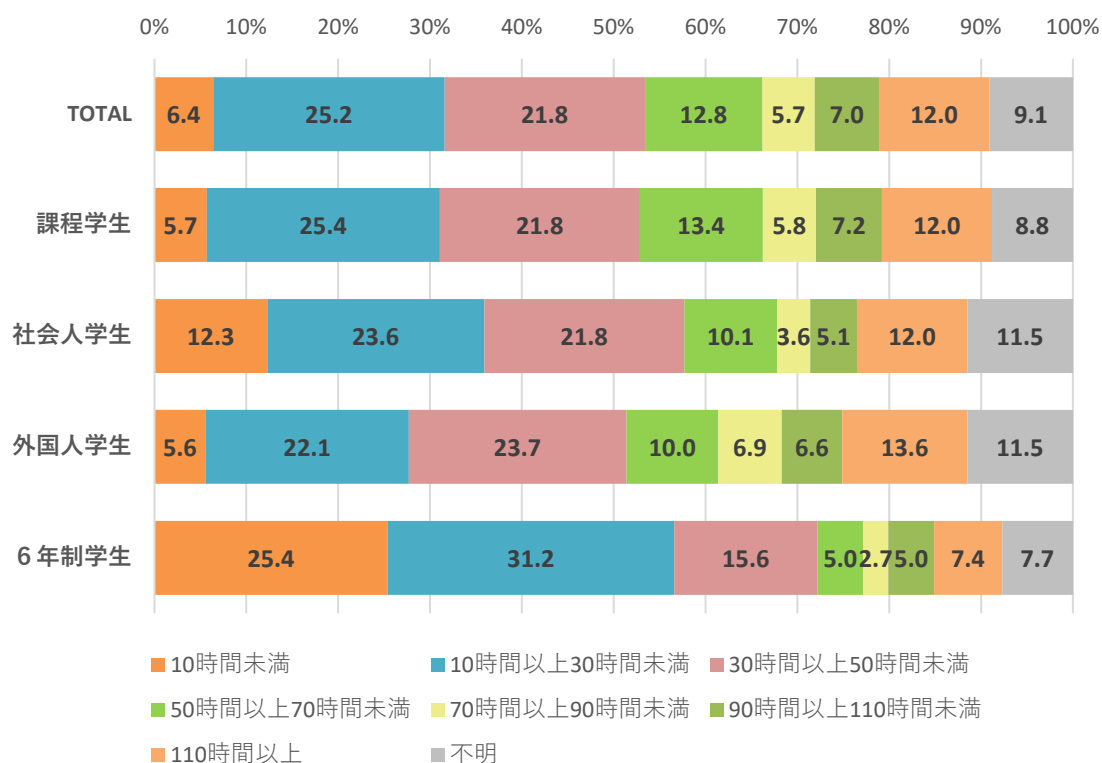


図 3-4 ティーチングアシスタント (TA) としての 1 年間の従事時間 (学生分類別)



TAの職務内容について複数回答で尋ねたところ、全体では「実験・実習時の学生への指導・助言」が64.5%で最も高く、次いで「実験・実習の準備」が61.6%、「学生からの質問対応」が48.0%と続いた。また、その他の自由記述では、試験監督や入試の警備、留学生支援といった回答があげられた(図3-5)。

RAの職務内容は「実験・実習の準備」が43.1%、「実験・実習時の学生への指導・助言」が16.1%、「学生からの質問対応」が7.5%であった。RAの職務についてその他の自由記述では、科研等研究プロジェクトの調査やデータ分析、報告書作成、文書翻訳といった研究補助業務が多くあげられた(図3-6)。

図 3-5 TAの職務内容（複数回答、単位：％）

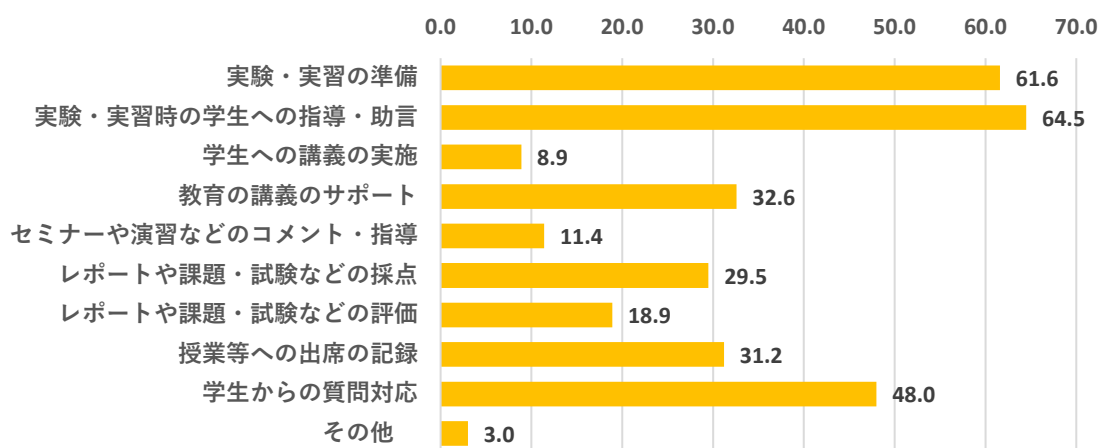
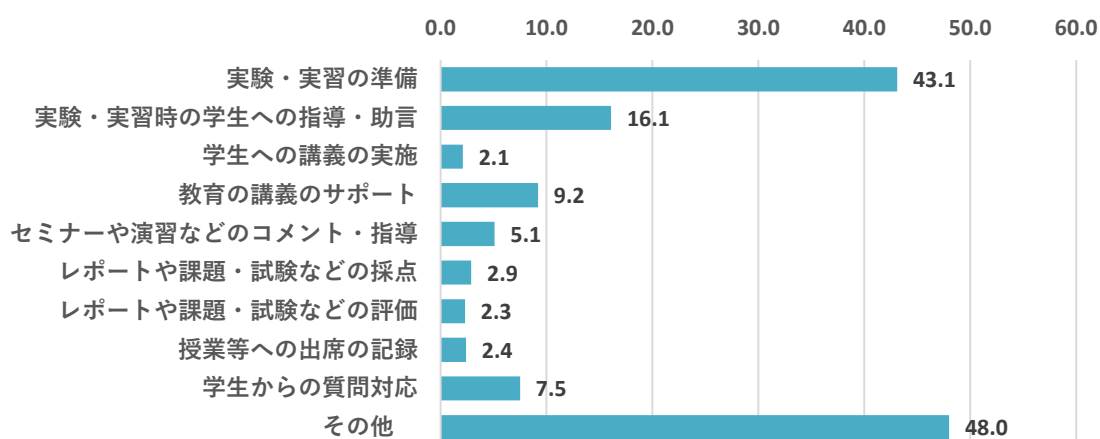


図 3-6 RAの職務内容（複数回答、単位：％）



### 3-2 授業料減免措置

授業料の減免措置について尋ねたところ、全体では21.2%が減免措置を受けていた。学生類型別でみると、外国人学生の割合が最も高く(62.5%)、次いで課程学生(18.2%)、社会人学生(12.3%)、6年制学生(11.5%)の順であった(図3-7)。また、授業料免除を受けていた者に対して総額を尋ねたところ、全体では「50万円以上70万円未満」(21.0%)が最も多く、次いで「30万円未満」(20.2%)、「120万円以上」(19.2%)の順となった。学生類型別では6年制学生で総額120万円以上が最も多かった(61.0%)が、これは修業年限に起因するものと思われる(図3-8)。

図 3-7 授業料の減免措置

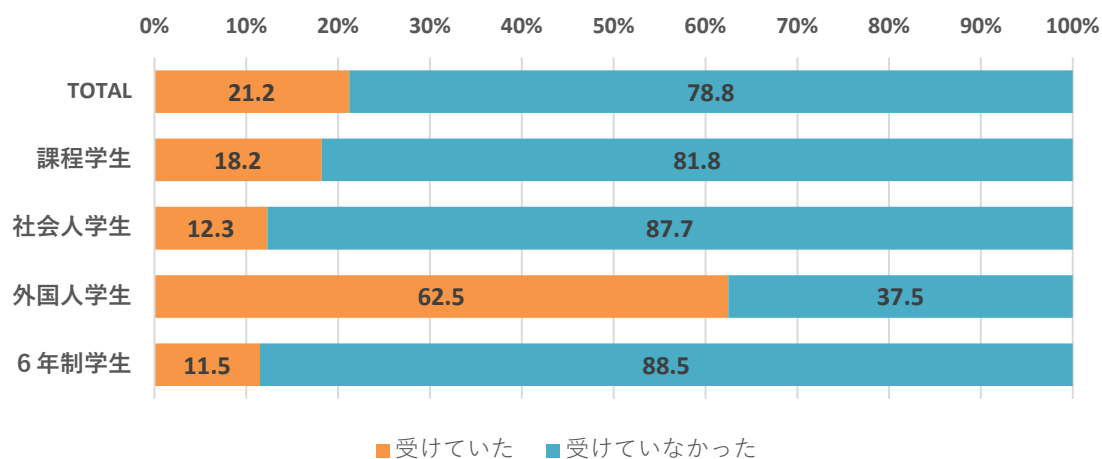
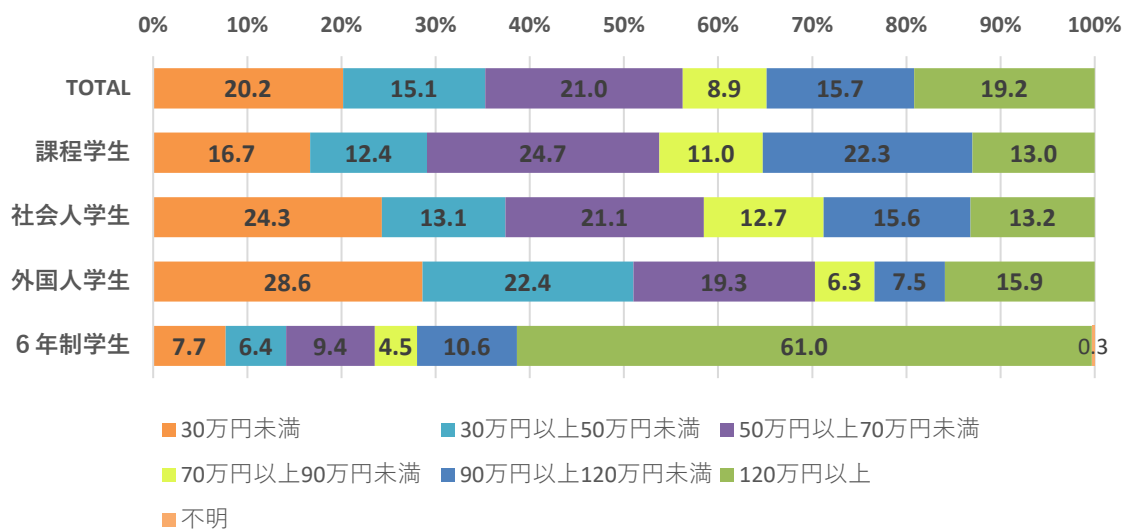


図 3-8 授業料の減免措置（総額、学生分類別）





### 3-3 借入金

返済義務のある奨学金・借入金に関しては、借入金有と回答した者は全体の33.7%であった。学生分類別では課程学生が43.6%と最も高く、続いて6年制学生(30.4%)、社会人学生(16.2%)、留学生(6.4%)の順となった(図3-9)。借入金額は全体では半数近い45.2%が300万円以上と回答した。学生類型別では、300万円以上と回答した割合が最も高かったのは6年制学生(85.6%)、次いで課程学生(37.3%)社会人学生(28.5%)、外国人学生(23.3%)の順であった。(図3-10)。課程学生は借入金のある者の割合も高く、また借入金額も多い傾向がみられた。

図 3-9 借入金の有無 (学生分類別)

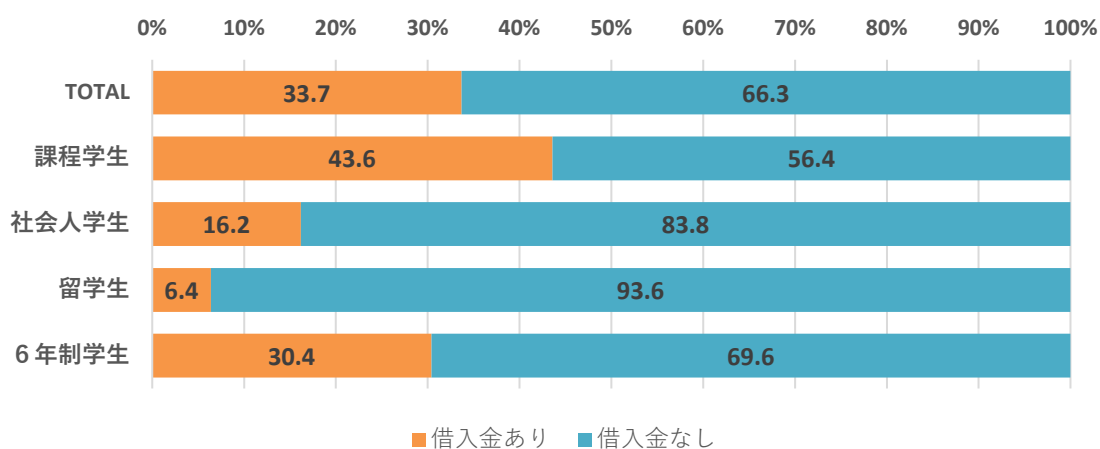
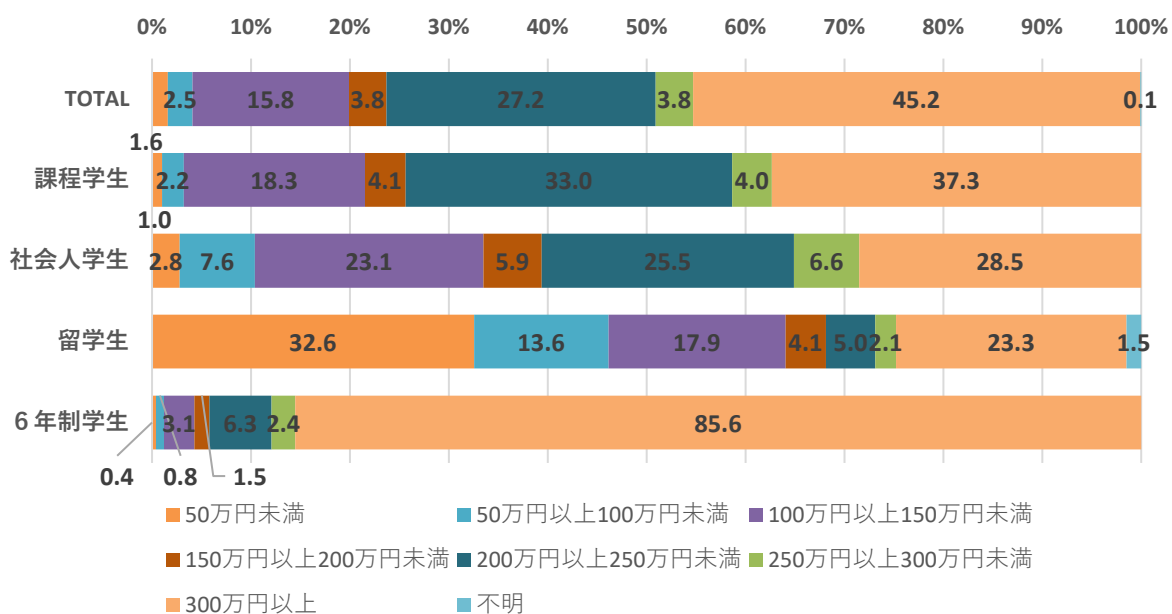


図 3-10 借入金総額 (学生分類別)



## 4. 社会人経験

### 4-1 修士課程在籍前の社会人経験

修士課程在籍前の社会人経験<sup>11</sup>について尋ねたところ、全体としては経験があると回答した者は15.9%であった。分野別では、「社会」分野で社会人が最も多く(42.3%)全体の4割を上回った。次いで「人文」(21.2%)、「保健」(16.6%)の順であった。最も社会人割合が少なかったのは「工学」(3.4%)であった(図4-1)。また、在籍中の就業状況について尋ねたところ、全体では「在職」が55.8%と過半数を占めており、「辞めていた」(36.3%)、「休職」(4.6%)を上回った(図4-2)。

図4-1 修士(6年制)課程在籍前の社会人経験の有無(学問分野別)

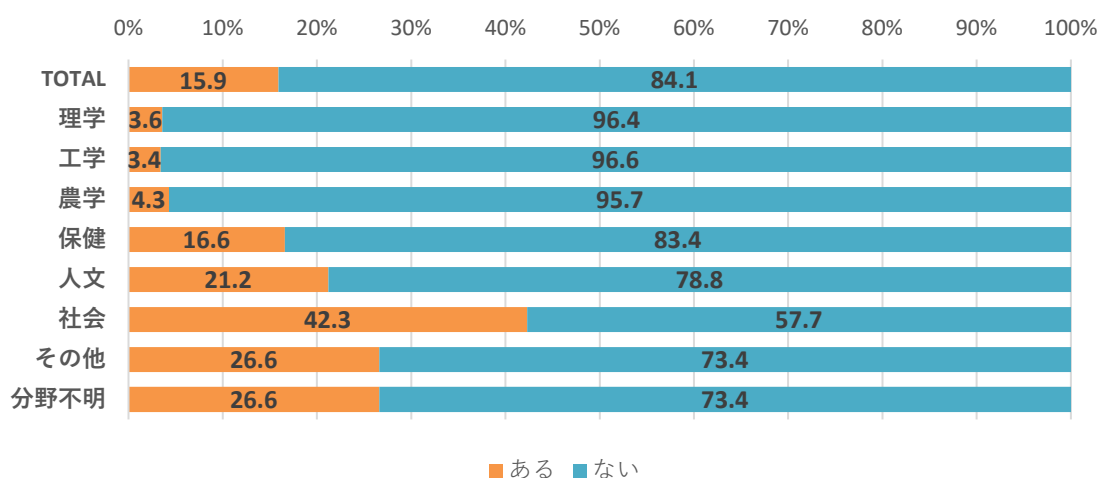
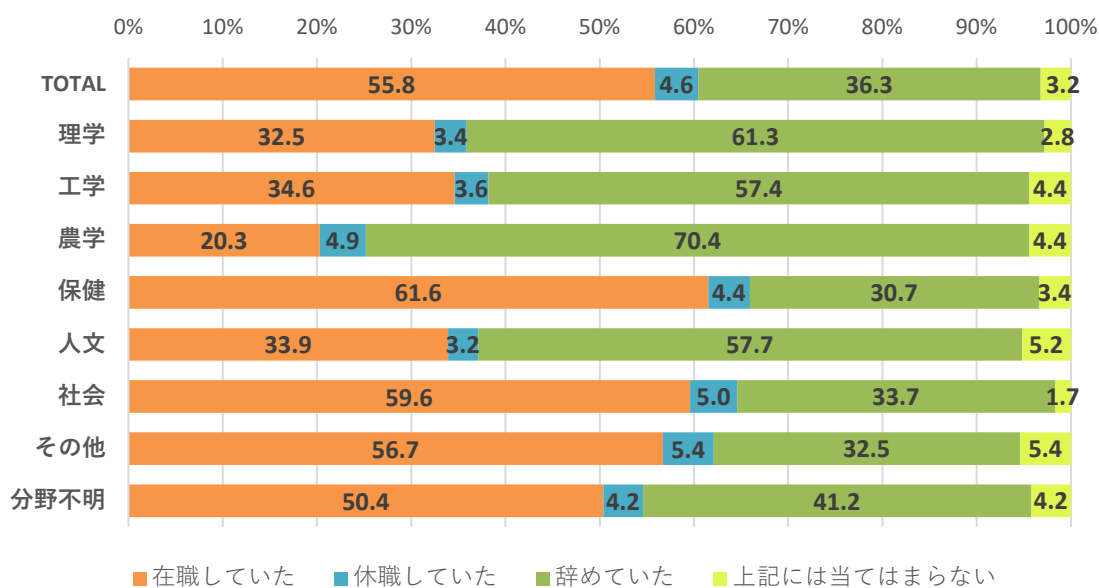


図4-2 修士(6年制)課程在籍中の就業状況(学問分野別)



<sup>11</sup> 「社会人経験」とは、学校教育機関を一旦離れ、経常的な収入を得る仕事の経験等を指す

#### 4-2 修士課程在籍前の就業経験

社会人の経験があると回答した者に、修士課程在籍前の勤務先機関について尋ねたところ、全体では「民間企業」(52.8%)が最も多く、次いで「非営利団体」(24.5%)、「大学等」(9.1%)の順となった。(図 4-3)。学問分野別では保健分野で「大学等」(15.9%)の割合が高かったが、これは勤務医や看護師等の専門職を含むことが主な要因であると考えられる(図 4-4)。

図 4-3 修士課程在籍前の勤務先機関（全体、単位：％）

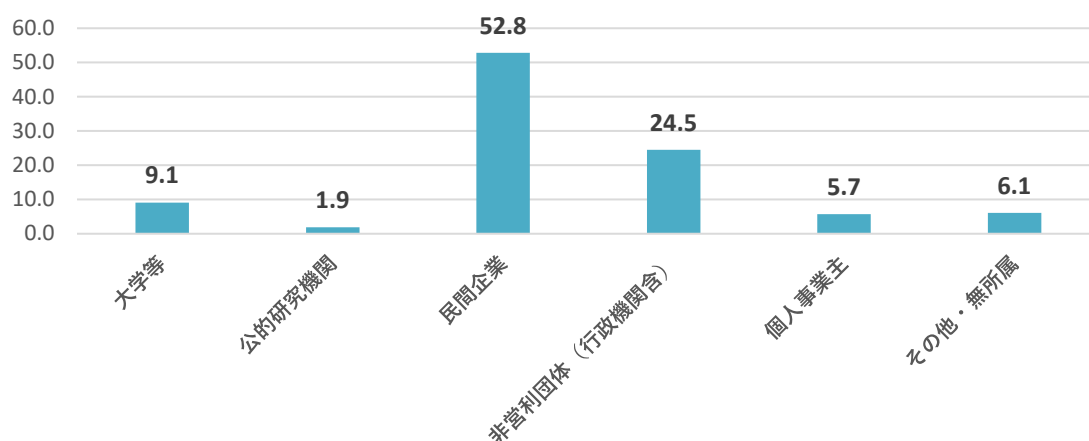
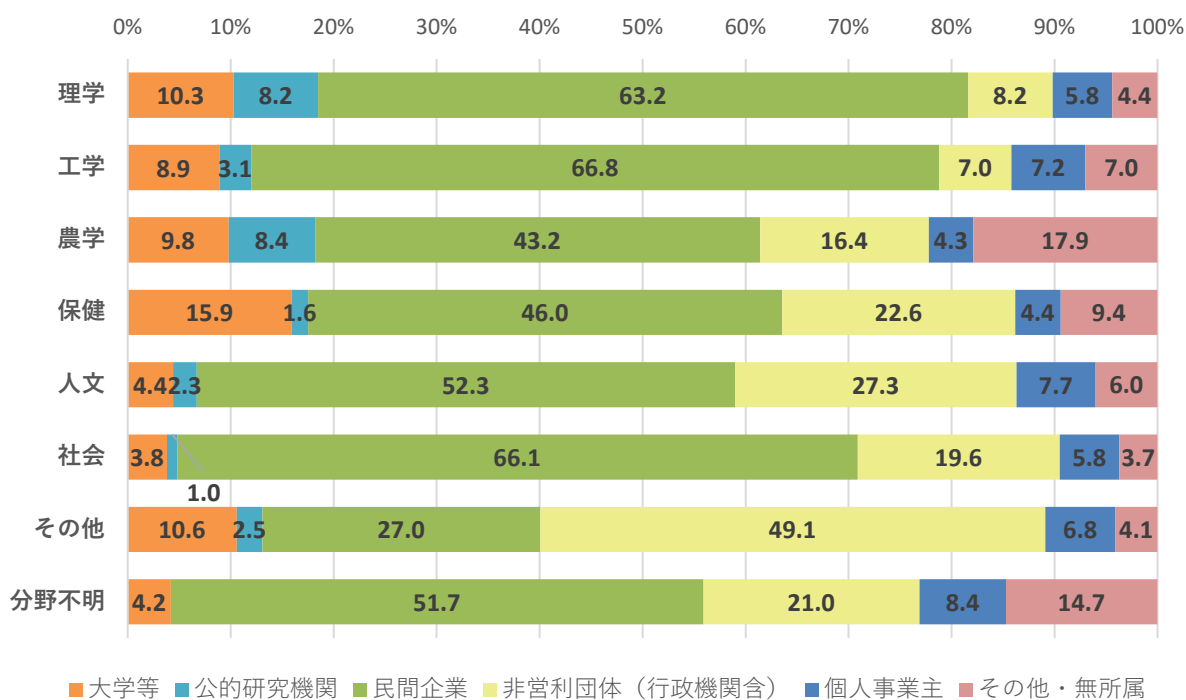


図 4-4 修士課程在籍前の勤務先機関（学問分野別、単位：％）



## 5. 現在の収入状況

### 5-1 収入の有無

現在の収入の有無については、全体では4割近い38.4%が「収入あり」と回答した(図5-1)。収入ありと回答した者のうち給与収入のある者の1か月あたりの収入額は、全体では5万円以下(66.8%)が最も多かったが、社会人では35万円以上が4割以上(41.8%)を占めた(図5-2)。

図 5-1 現在の給与等収入の有無 (学生類型別)

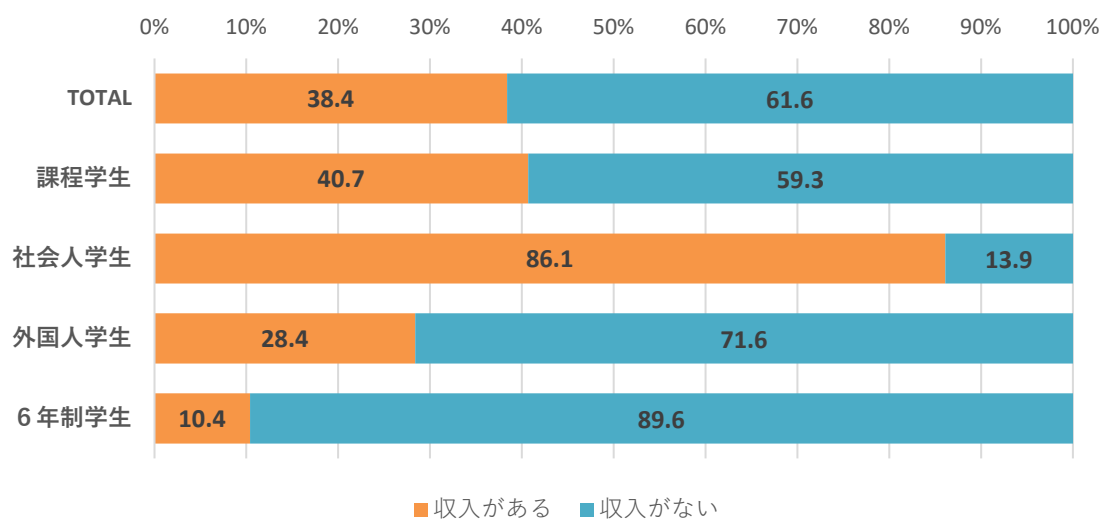
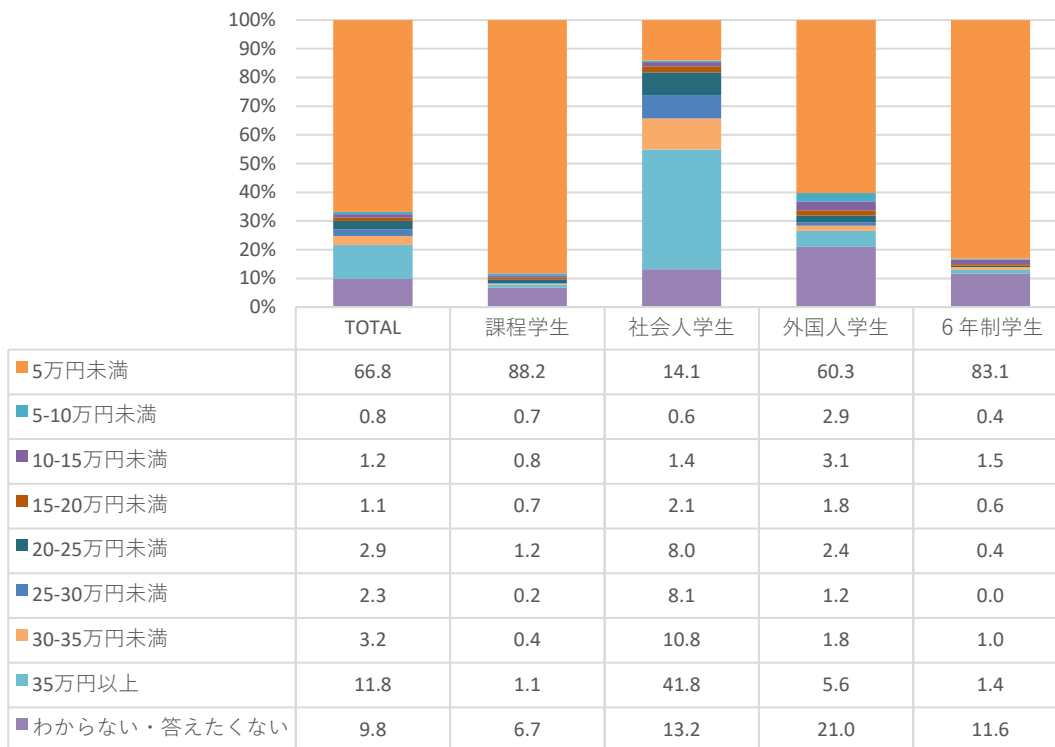


図 5-2 1か月あたりの給与収入額 (学生類型別)



## 5-2 仕送り

親、実家などからの仕送りを受けている者について一か月あたりの金額を尋ねたところ、全体では「5万円未満」が約7割を占めた（図5-3）。またアルバイト収入があると回答した者に一か月あたりの収入額を尋ねたところ、全体では5万円未満（56.4%）が最も多かった（図5-4）。

図 5-3 一か月あたりの仕送り額（学生類型別）

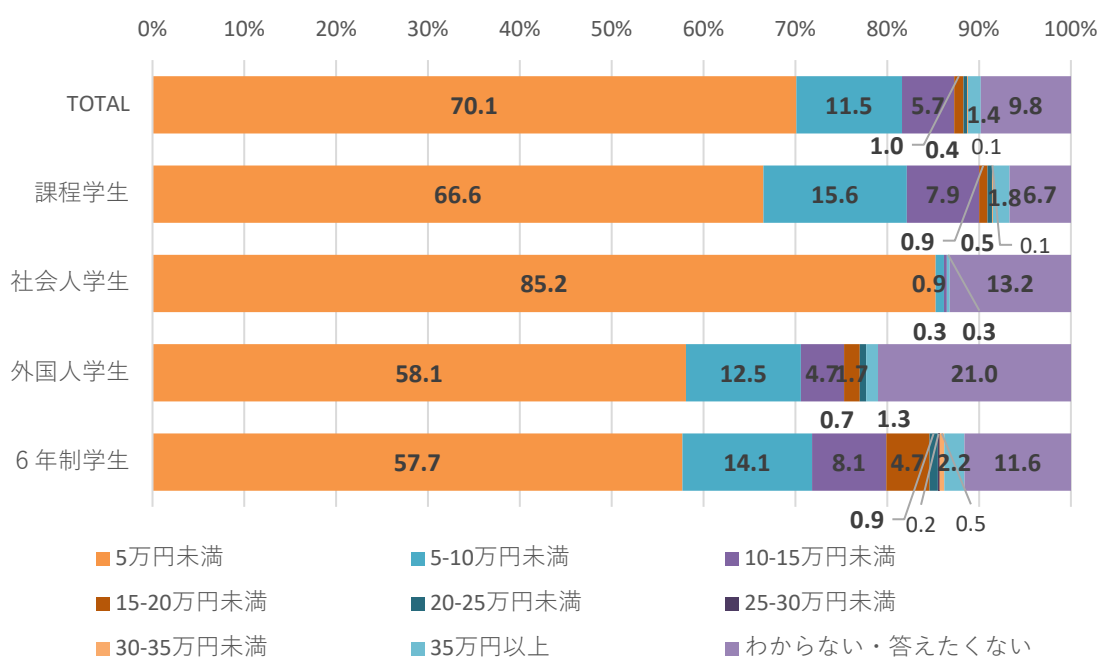
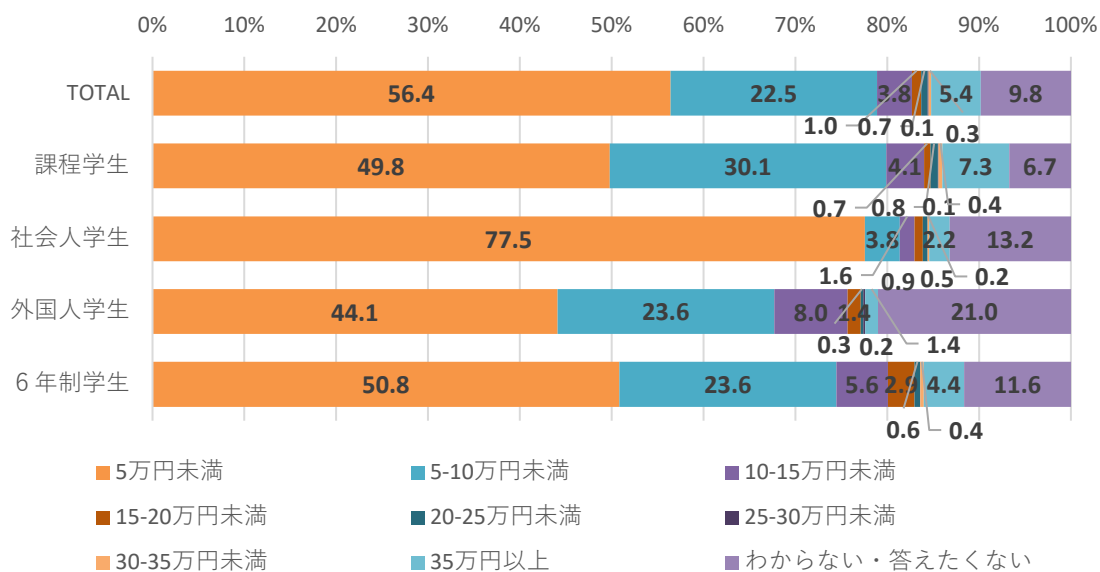


図 5-4 一か月あたりのアルバイト収入（学生類型別）



## 6. 海外経験

修士課程在籍中に、3ヵ月以上海外の大学の研究室に在籍した経験の有無を尋ねたところ、あると回答したのは全体の0.9%であった(図6-1)。前回調査でも1.3%と割合は高くなかったが、今回調査対象者の多くは在籍機関を通じてコロナ禍の影響を受けていることもあり、前回調査よりもさらに低い割合となっている。学生類型別では、外国人学生の割合が最も多く(3.2%)、続いて6年制学生(1.0%)、課程学生(0.6%)の順となった。学問分野別でみると人文分野が1.7%と他の分野と比較してわずかに高かったものの、概ね1%前後に留まった(図6-2)。

図 6-1 海外経験の有無（学生類型別）

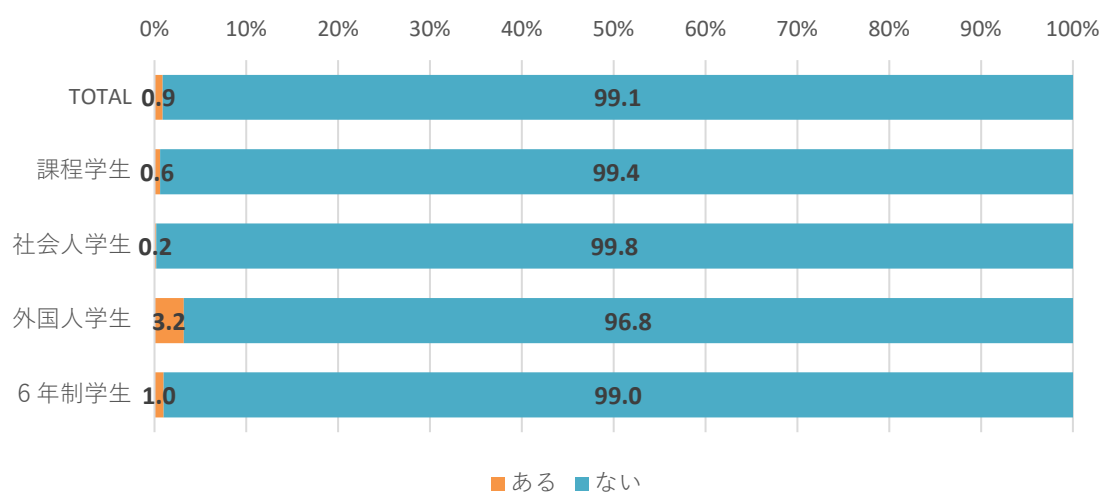
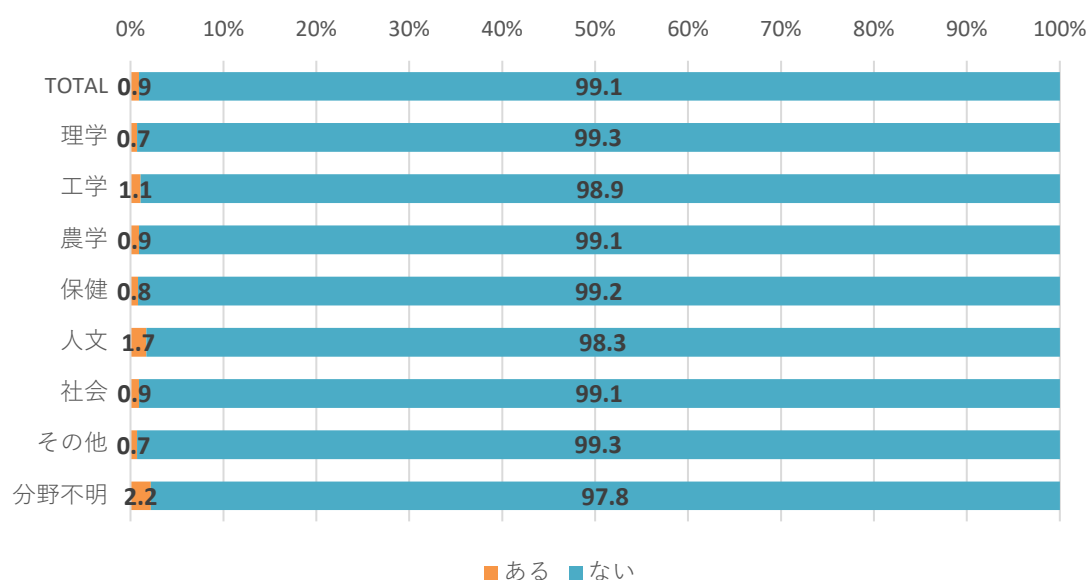


図 6-2 海外経験の有無（学問分野別）



## 7. 満足度

在籍中に経験した「修士課程に関する全般的な満足度」について尋ねたところ、全体ではとてもよい、(19.3%)、まあ良い (51.7%) を併せて約 7 割が良いと回答した (図 7-1)。項目別で最も満足度が高かったのは、「教育・研究の質」で 27.3%が「とても良い」と回答した (図 7-2)。また、「あまり良くない」、「全く良くない」の割合が高かったのは「キャリア開発や進路指導」、「国際性の向上」の 2 項目であった。

図 7-1 修士課程に関する全般的な満足度

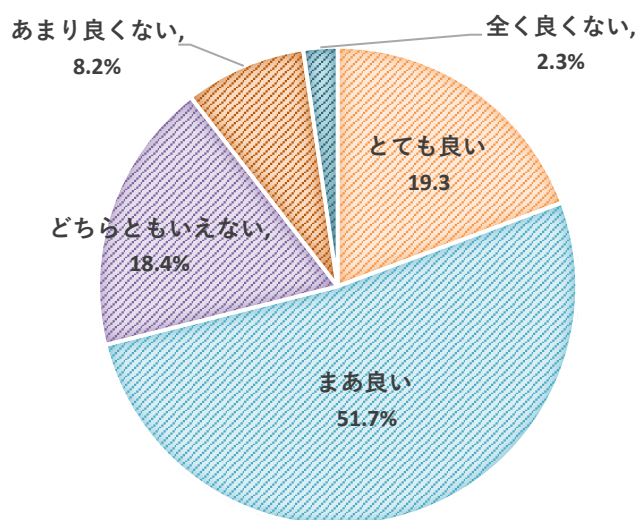
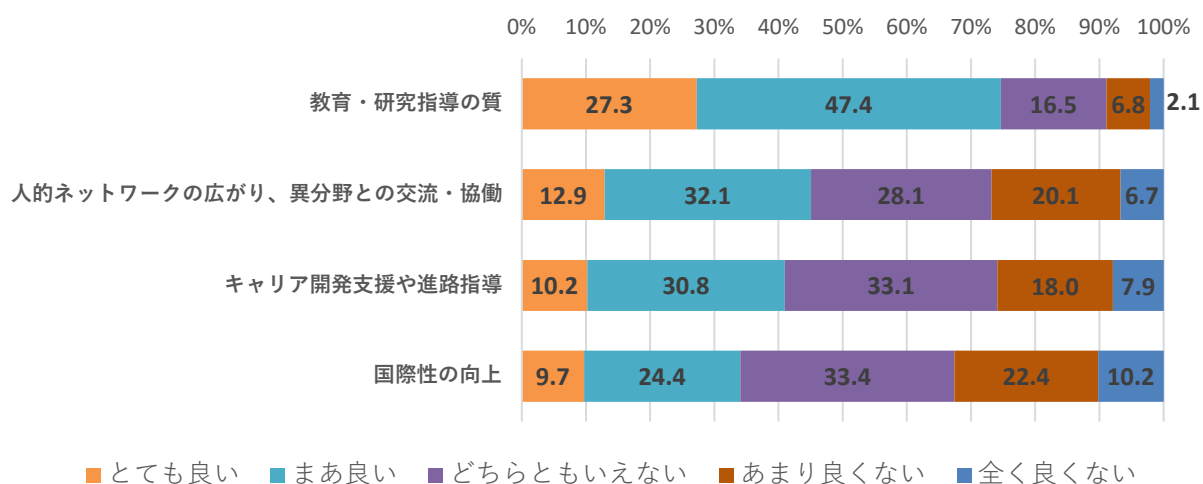


図 7-2 項目別満足度 (全体)



＜教育・研究指導の質＞

教育・研究指導の質の満足度について学生類型別でみると、「とても良い」が最も高いのは外国人学生（51.5%）、続いて社会人学生（31.5%）、課程学生（27.0%）、6年制学生（12.0%）の順であった（図7-3）。分野別では社会学分野で「とても良い」が最も高く（40.9%）、保健分野で最も低い結果となった（図7-4）。

図 7-3 教育・研究指導の質に対する満足度（学生類型別）

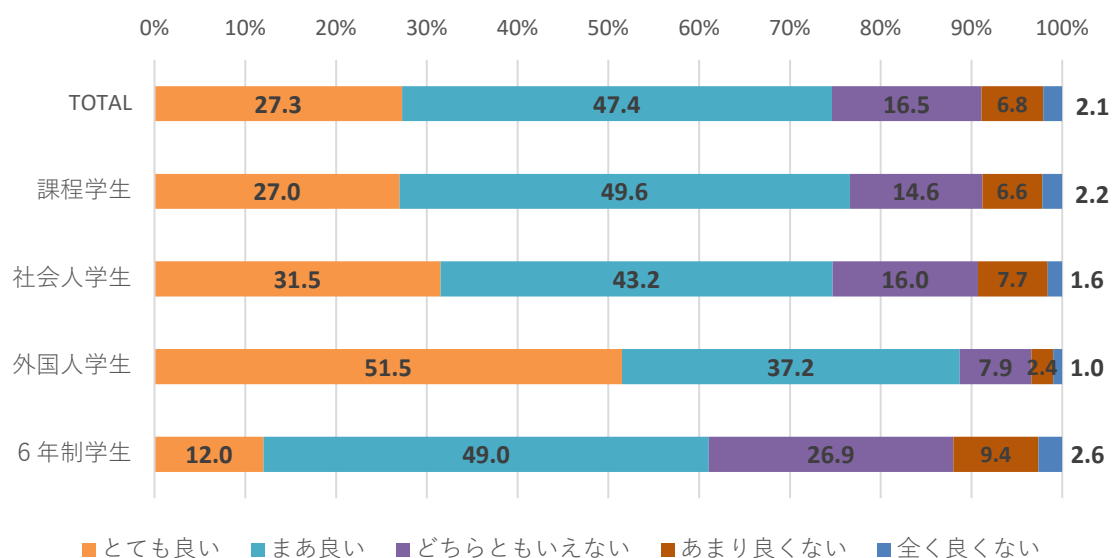
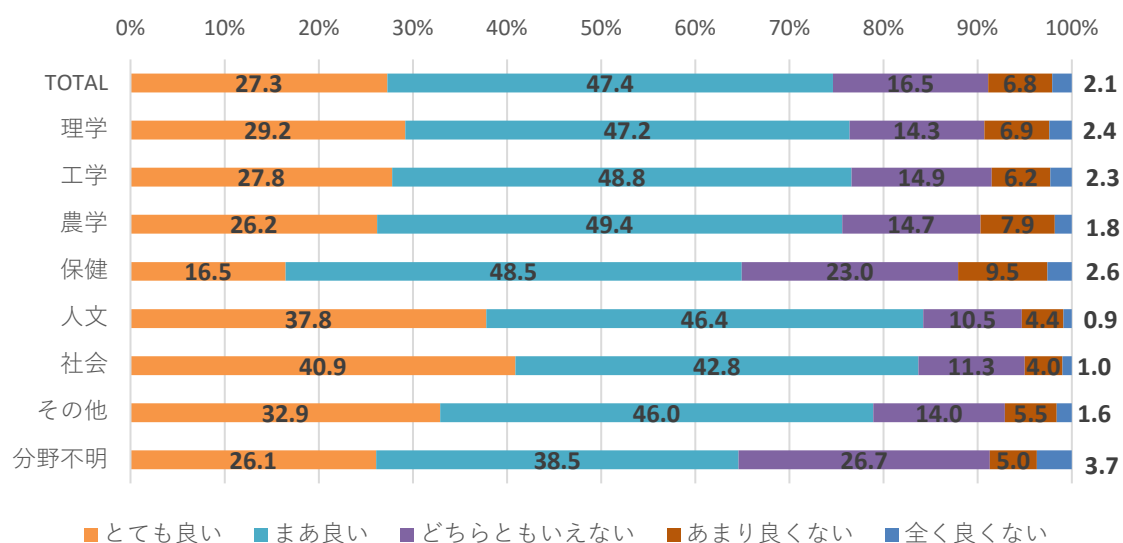


図 7-4 教育・研究指導の質に対する満足度（学問分野別）





＜人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働＞

次に「人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働」の満足度についてみたところ、全体では「とても良い」が12.9%であったのに対し、外国人学生は25.0%とおおよそ2倍であったのに対し、課程学生は11.1%、6年制学生は7.2%と全体平均よりも低かった（図7-5）。分野別では社会分野で「とても良い」が21.8%と最も高かった（図7-6）。

図 7-5 人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働に対する満足度（学生類型別）

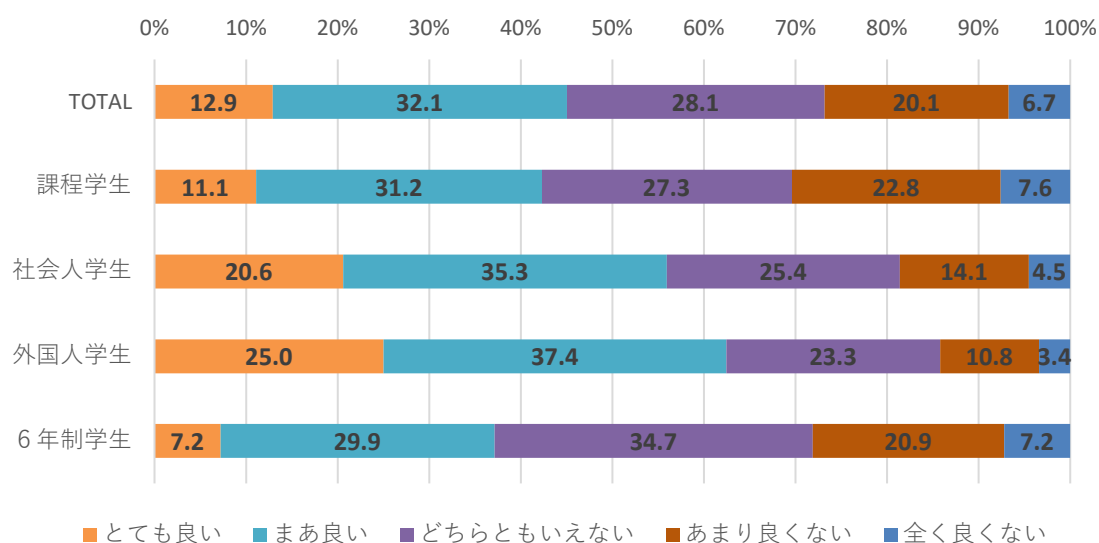
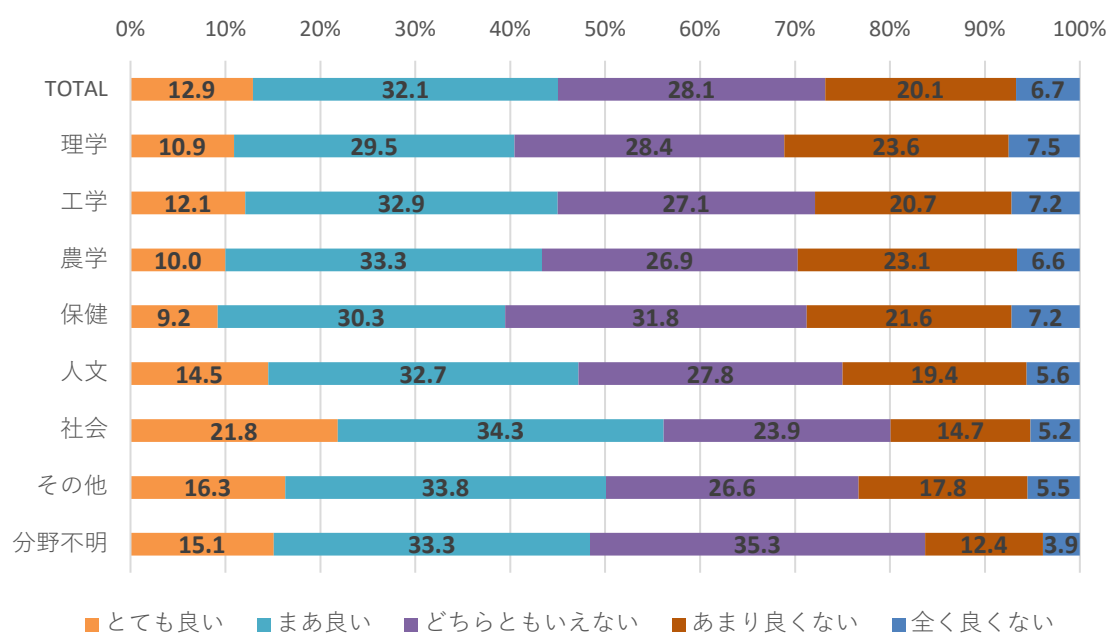


図 7-6 人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働に対する満足度（学問分野別）



＜キャリア開発支援・進路指導＞

続いてキャリア開発支援や進路指導の満足度について尋ねたところ、全体では10.2%が「とても良い」と回答した（図7-7）。学生類型別では「とても良い」が最も高かったのは外国人学生（23.9%）であった。外国人学生は相対的に日本人学生よりも在学中の教育研究環境について肯定的な印象をもっていることが伺われる。

図 7-7 キャリア開発支援や進路指導に対する満足度（学生類型別）

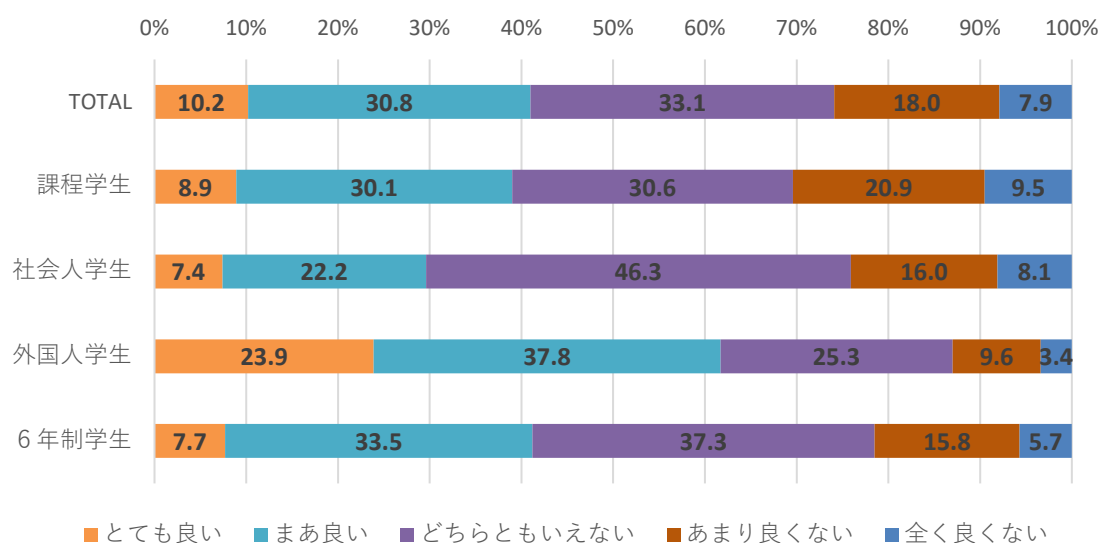
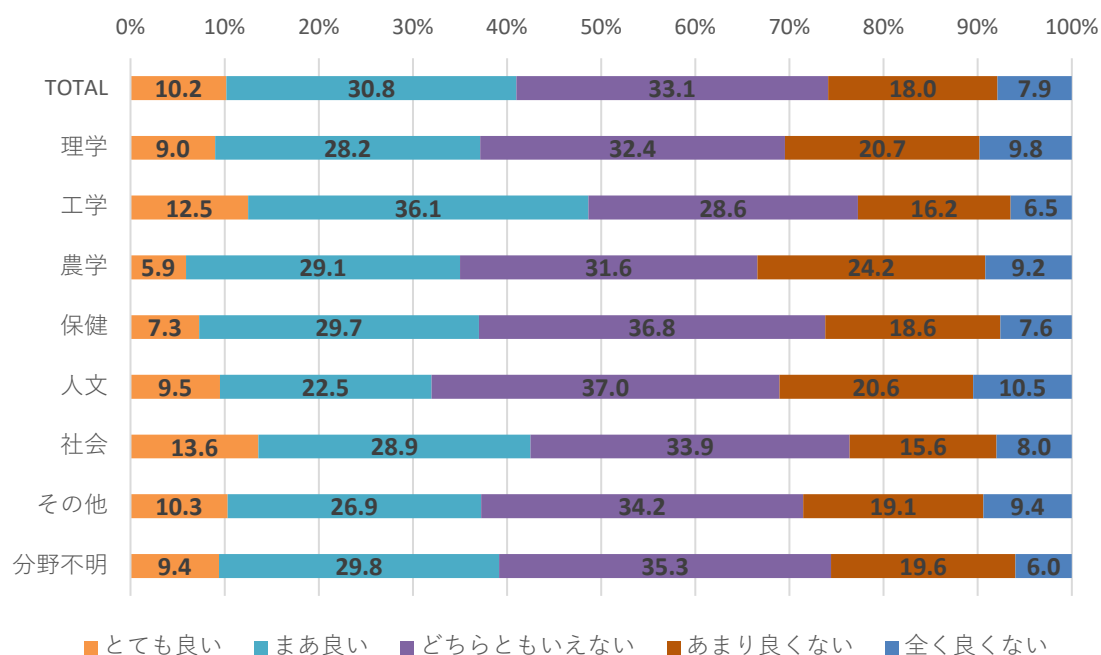


図 7-8 キャリア開発支援や進路指導に対する満足度（学問分野別）



＜国際性の向上＞

最後に、国際性の向上に対する満足度について尋ねたところ、全体では「とても良い」が9.7%と設問項目中最も低かった（図7-9）。学生分類別では6年制学生が「とても良い」が5.4%と最も低く、「全く良くない」（12.9%）の割合も他学生と比較して最も高かった。学問分野別では「とても良い」は社会（17.4%）、人文（12.6%）などで平均を上回る結果となった（図7-10）。

図 7-9 国際性の向上に対する全般的な満足度（学生類型別）

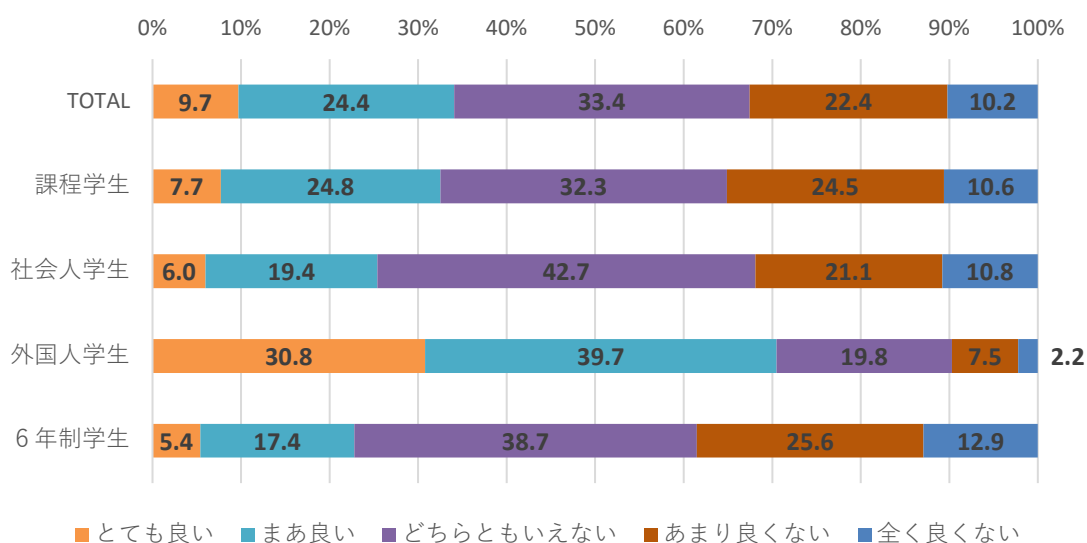
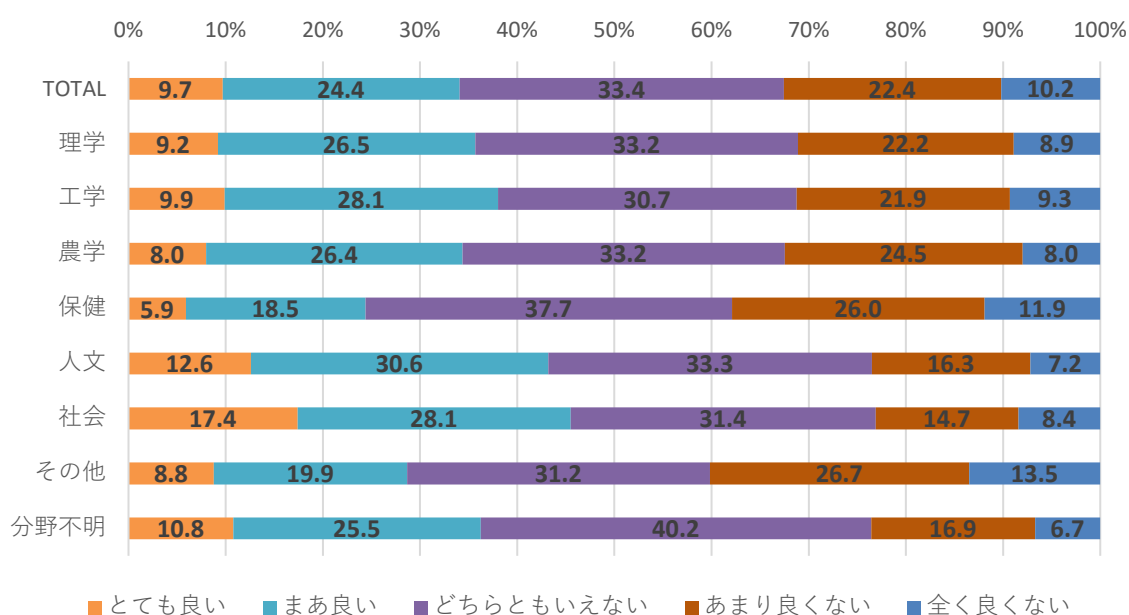


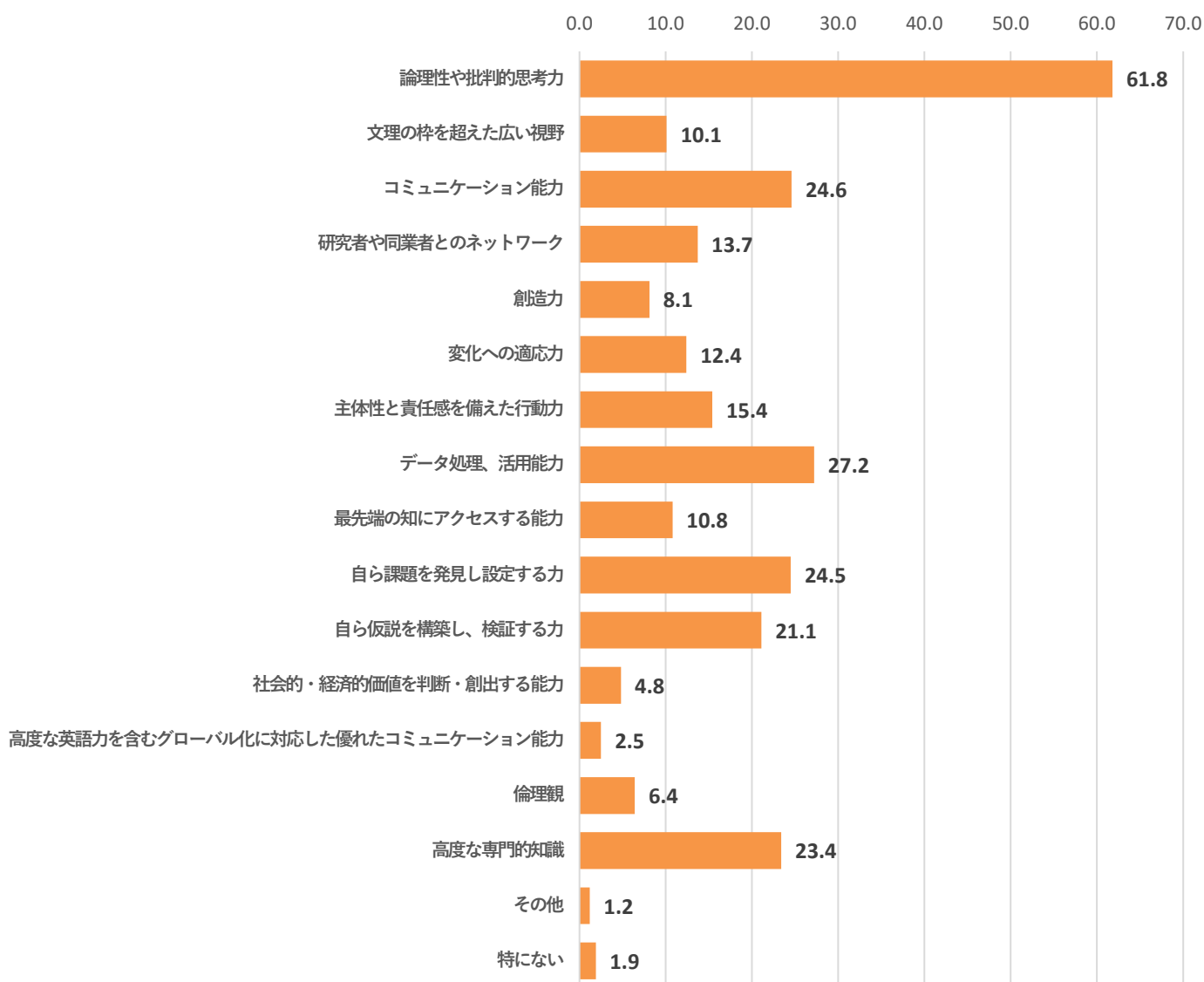
図 7-10 国際性の向上に対する全般的な満足度（学問分野別）



## 8. 今後役に立つと考えられること

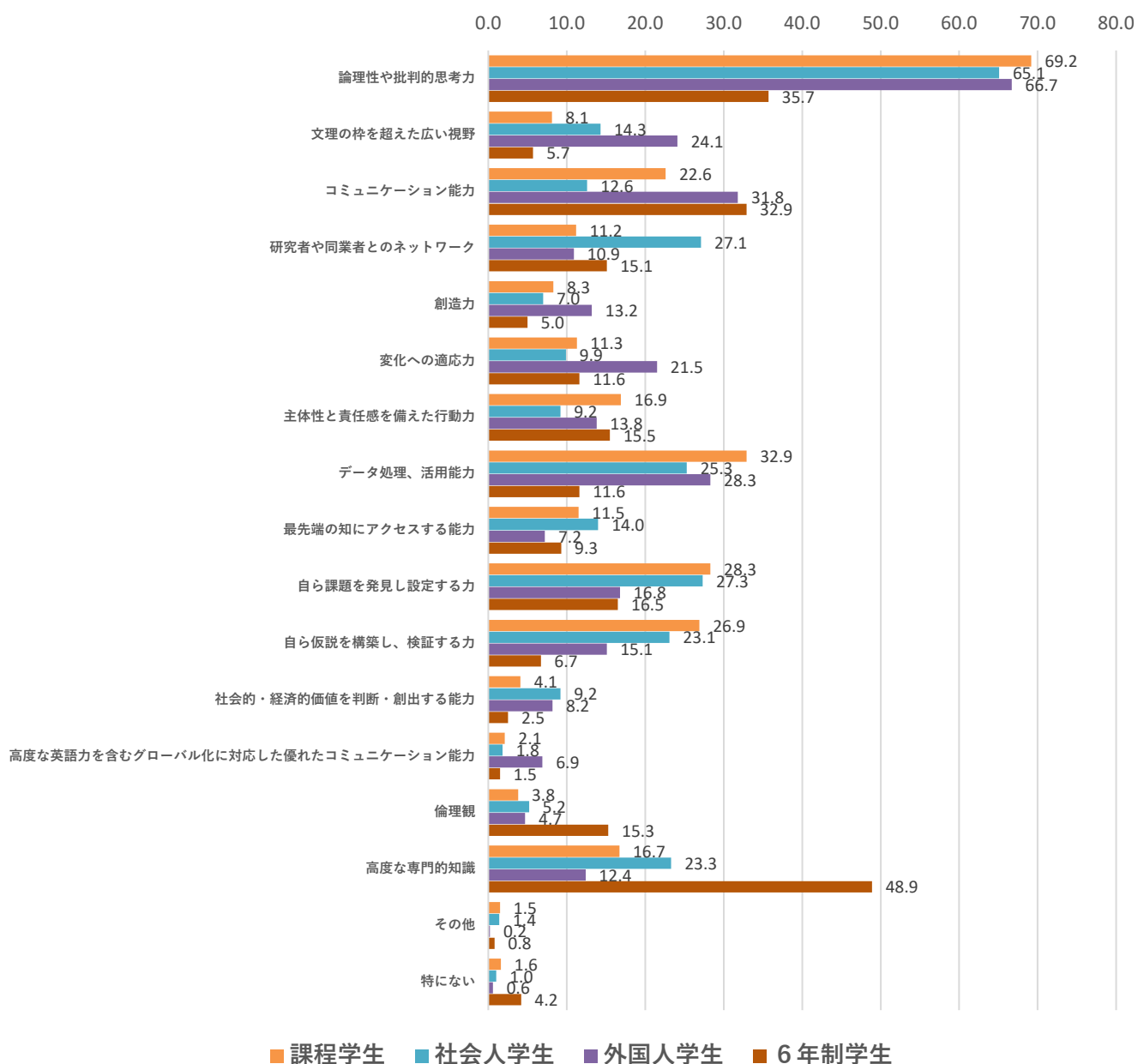
修士課程に在籍して得られていることで、今後役に立つと考えられることについて複数回答で尋ねたところ、全体では回答の多い順に「論理性や批判的思考力」が61.8%、「データ処理、活用能力」が27.2%、「コミュニケーション能力」が24.6%、「自ら課題を発見し設定する力」が24.5%となった(図8-1)。その他の自由記述では、プレゼンテーション能力や文章力等、発信に関する能力が身についたとする回答のほか、忍耐力やストレス耐性等、肉体的、精神的に鍛えられたとする回答も多く見受けられた。

図 8-1 今後役に立つと考えられること（複数回答）



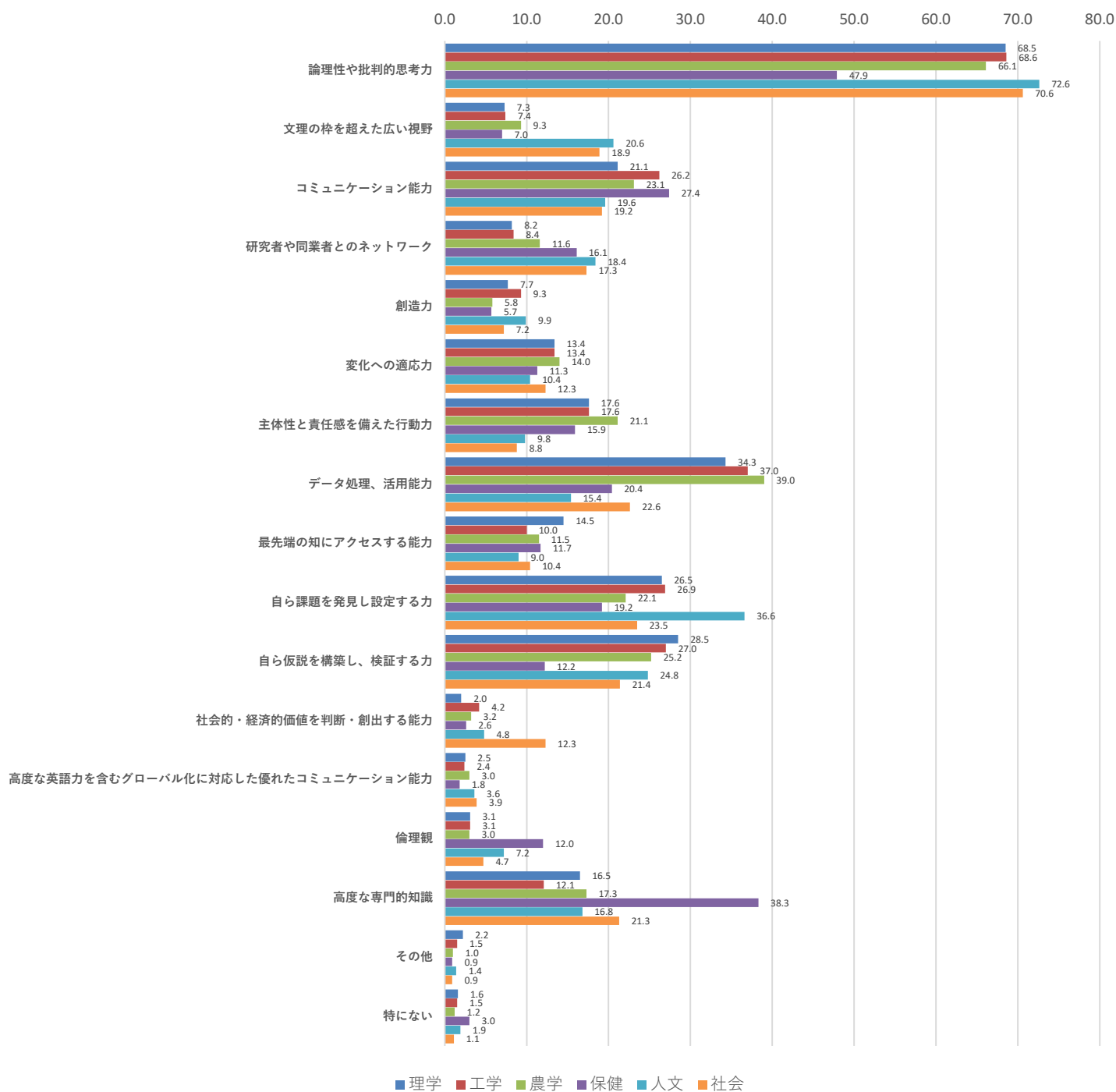
今後役に立つと考えられることについて学生分類別でみると、全体で最も高かった「論理性や批判的思考力」は6年制学生では35.7%にとどまった（図8-2）。一方高度な専門的知識が身についたとする回答は6年制学生で最も高く（48.9%）、続いて社会人学生（23.3%）、課程学生（16.7%）、外国人学生（12.4%）の順となった。社会人学生は「研究者や同業者とのネットワーク」（27.1%）、「社会的・経済的価値を判断・創出する力」（9.2%）が他の学生よりも高い割合となった。

図 8-2 今後役に立つと考えられること（学生分類別 単位%）



今後役に立つと考えられることについて、学問分野別でみると、「データ処理、活用能力」は農学（39.0%）、工学（37.0%）、理学（34.3%）の順で高かった（図8-3）。人文分野は「論理性や批判的思考力」（72.6%）、「自ら課題を発見し設定する力」（36.6%）等の項目で他分野より高い傾向がみられた。

図 8-3 今後役に立つと考えられること（学問分野別 単位%）



## 9. 研究時間

在籍中における平日の1日あたりの平均研究時間について尋ねたところ、全体では5時間以上8時間未満が29.0%と最も多かった(図9-1)。学生類型別では、課程学生の最頻値は5時間以上8時間未満(33.9%)、社会人学生は1時間以上3時間未満(48.9%)、外国人学生は3時間以上5時間未満(34.3%)であった(図9-2)。

図 9-1 平日1日当たりの平均研究時間(全体 単位: %)

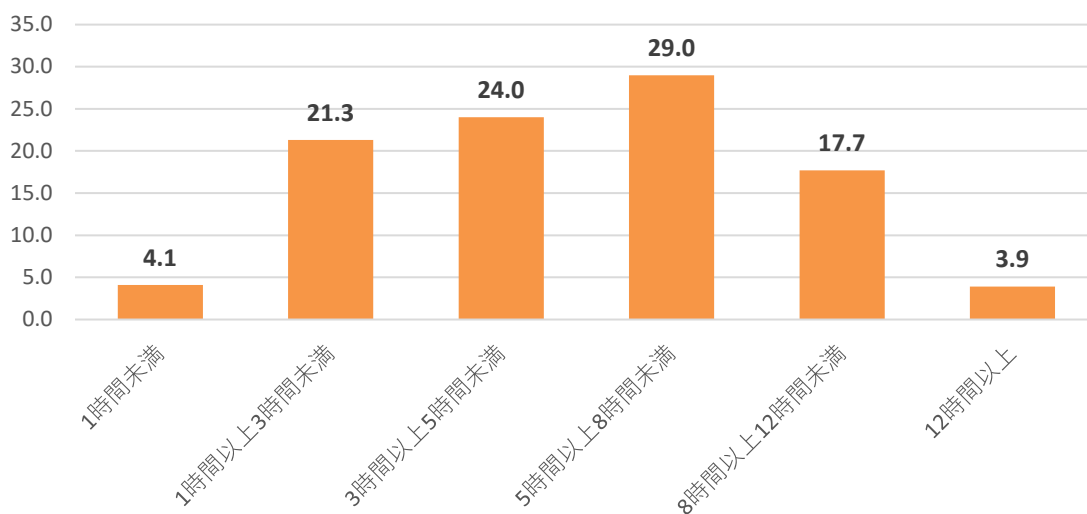
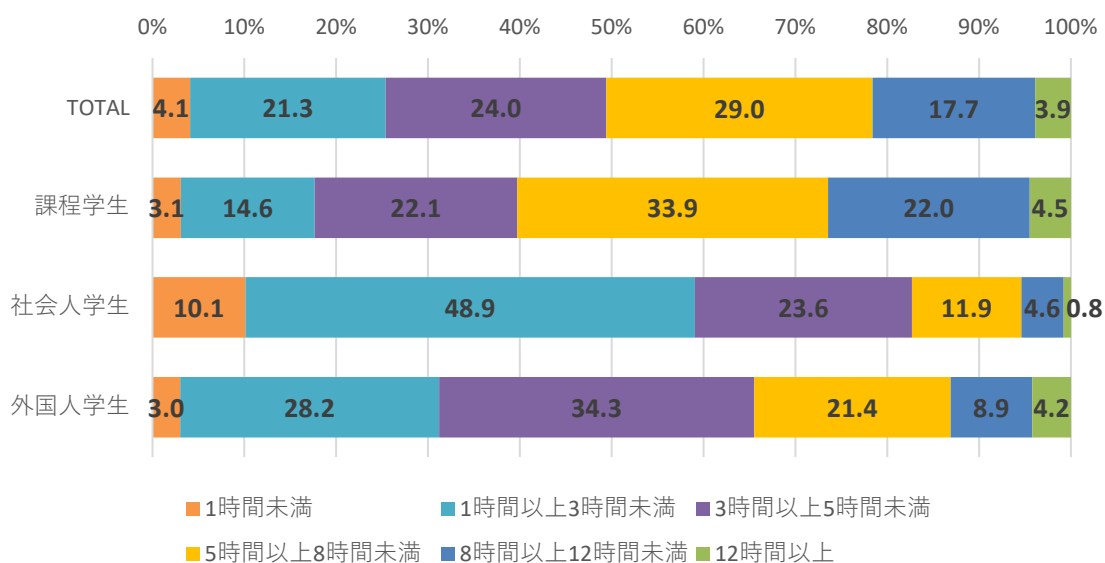
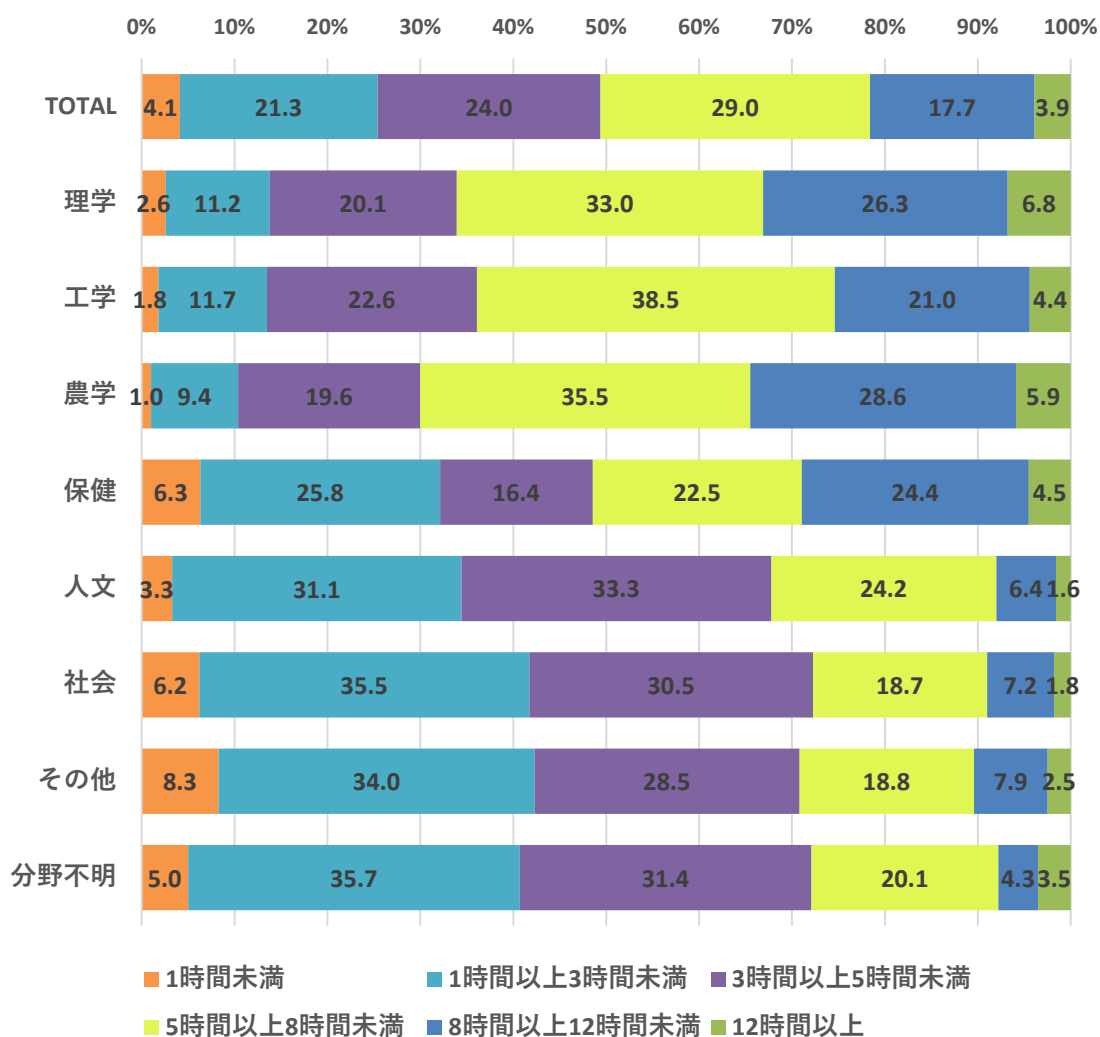


図 9-2 平日1日当たりの平均研究時間



分野別では、理学、工学、農学分野で5時間以上8時間未満が3割強から4割弱、8時間以上12時間未満が2割強から3割弱、保健分野で8時間以上12時間未満、5時間以上9時間未満が共に2割強となった。これに対し、人文分野では3時間以上5時間未満が3割強、5時間以上8時間未満は2割強、社会分野で1時間以上3時間未満と3時間以上5時間未満が共に3割強であった（図9-3）。自然科学は、人文・社会科学より平日の1日当たりの平均研究時間が長い傾向がみられた。

図 9-3 平日1日当たりの平均研究時間（学問分野別）





## 10. 研究成果

修士課程在学中の査読付きの論文数について尋ねたところ、論文有と回答した者の全体の平均は 1.8 本であった(図 10-1)。学問分野別では社会分野が 4.6 本と多く、続いて人文(3.0)、保健(1.4)の順となった。国際共著論文については、全体では平均 0.6 本であった(図 10-2)。学問分野別では社会が最も多く 1.5 本、続いて人文が 0.9 本、農学が 0.6 本であった。

図 10-1 査読付き論文数(学問分野別)

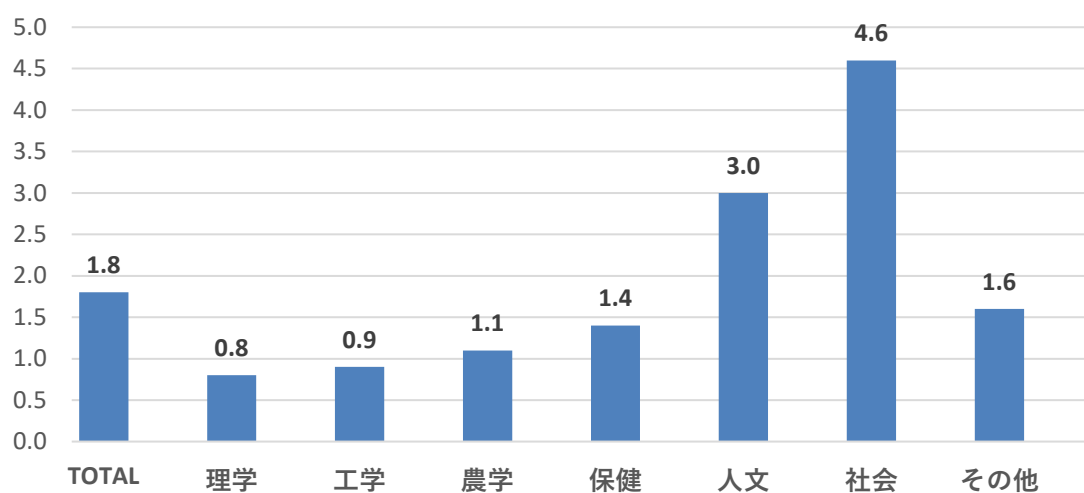
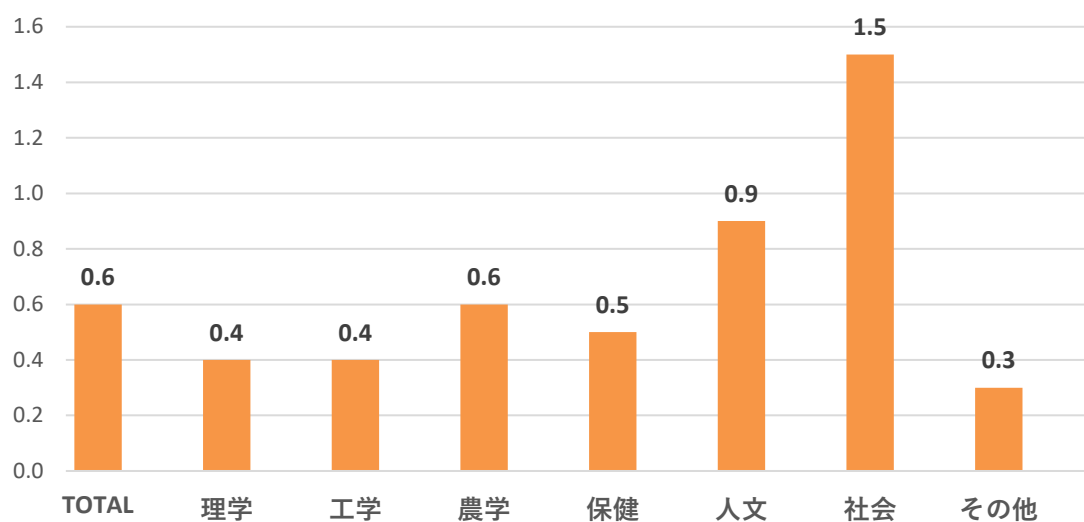


図 10-2 国際共著論文の有無(学問分野別)

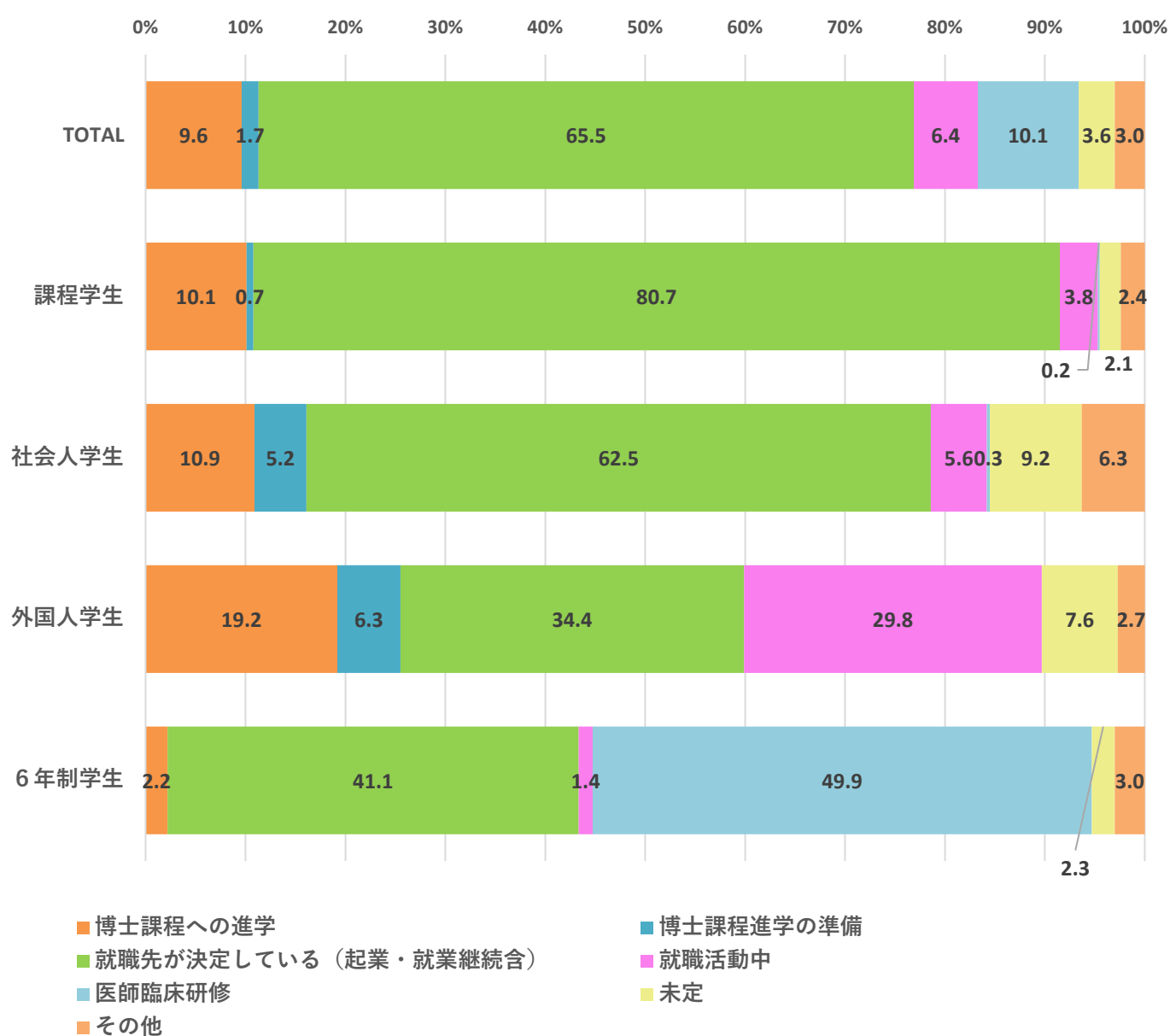


## 11. 進路

### 11-1 進路の状況

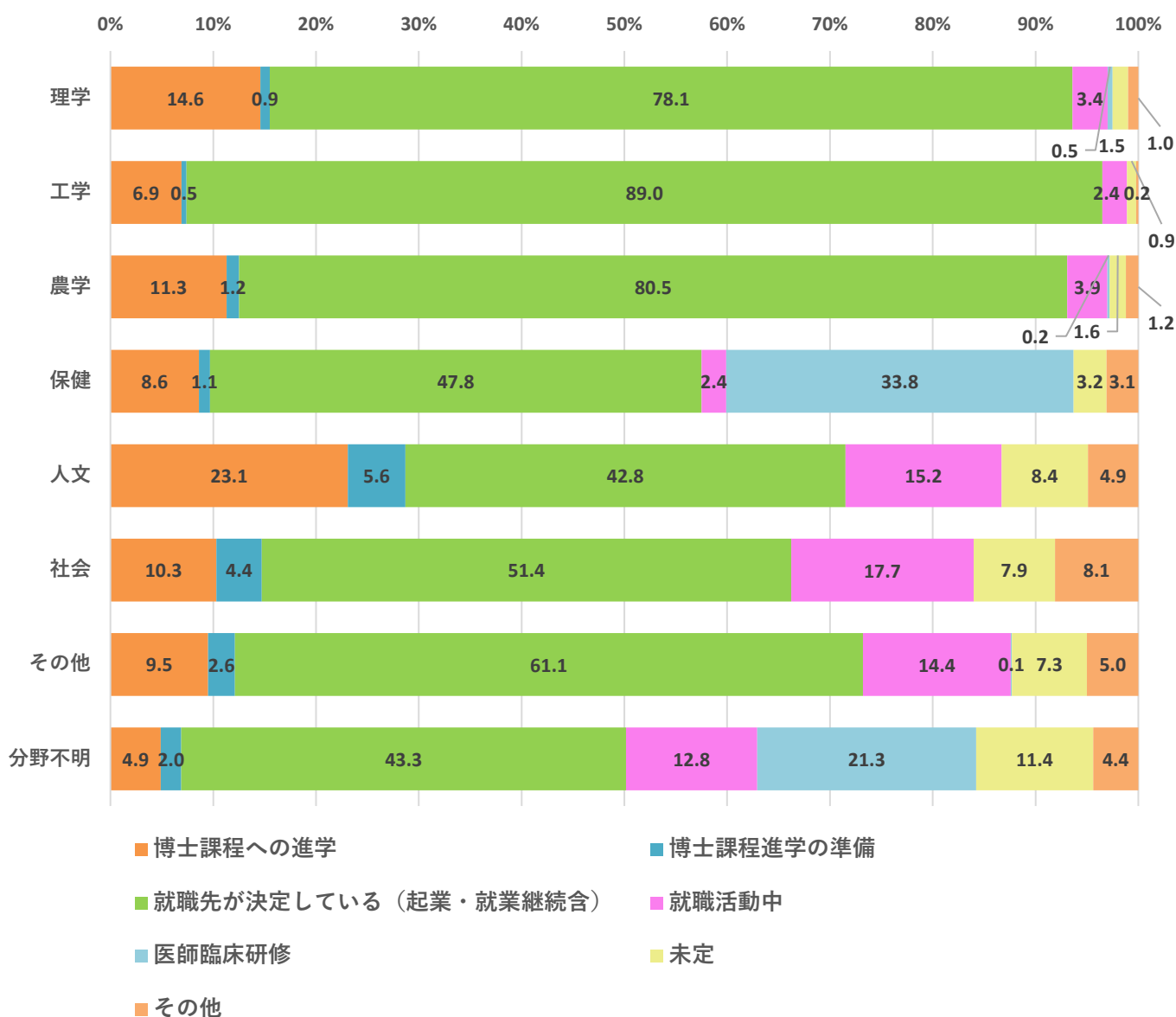
在籍者に進路予定を尋ねたところ、全体では「就職先が決定している」が65.5%で最も多かった(図11-1)。博士課程への進学を予定している者は外国人学生が最も多く19.2%、社会人学生が10.9%、課程学生が10.1%、6年制学生が2.2%となっており、外国人学生で博士課程への進学傾向が強いことが示された。

図 11-1 進路予定 (学生分類別)



学問分野別では、「博士課程への進学」と回答した割合が最も高いのは人文分野(23.1%)、続いて理学(14.6%)、農学(11.3%)の順となった(図 11-2)。企業、就業継続を含め「就職先が決定している」と回答した割合は工学分野が最も高く(89.0%)、続いて農学(80.5%)、理学(78.1%)の順であった。一方、「就職活動中」と回答した者の割合は社会分野で最も高く(17.7%)、続いて人文(15.2%)、農学(3.9%)であった。「未定」と回答した割合と合わせると人文、社会分野で進路未定が2割を超える結果となった。

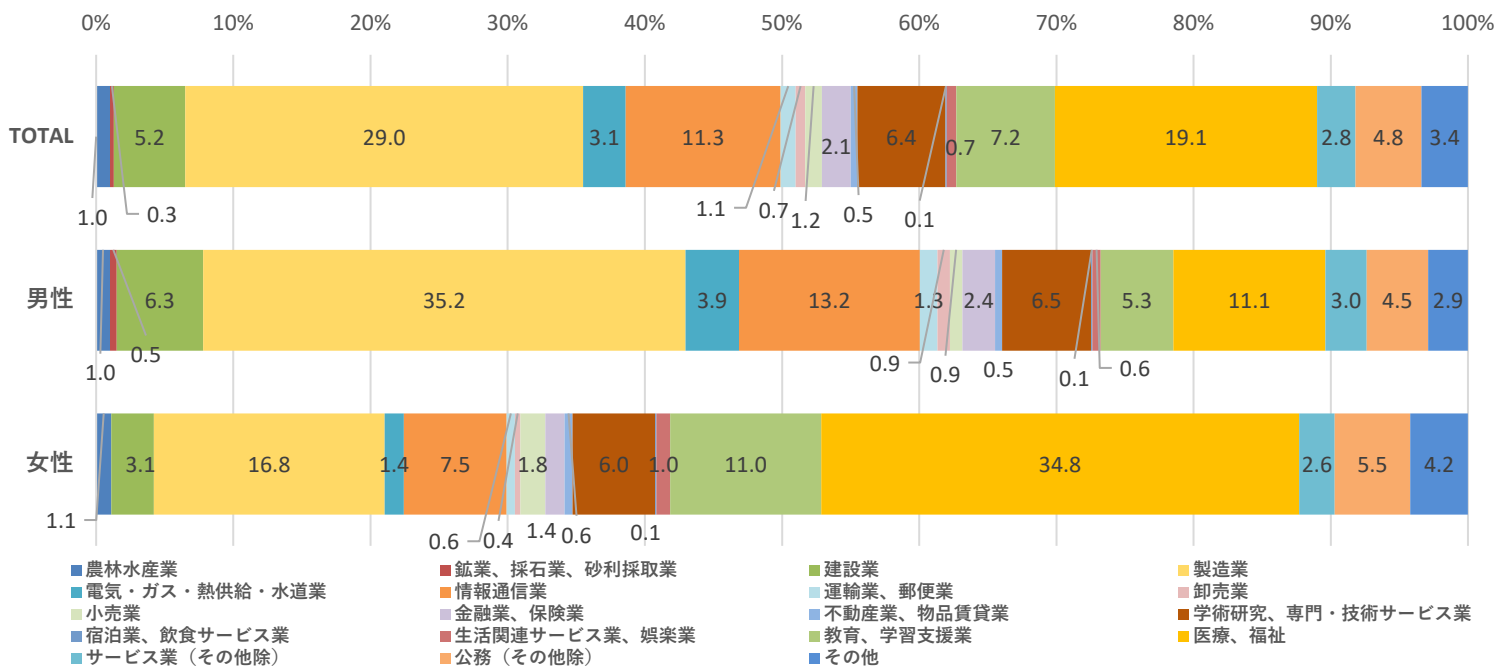
図 11-2 進路予定 (学問分野別)



## 11-2 就職先

「就職先が決定している」と回答した者に、就職先の事業内容について、日本標準産業分類<sup>12</sup>を一部改変した分類から回答してもらったところ、全体では「製造業」が29.0%で最も多く、次に「医療、福祉」19.1%、「情報通信業」11.3%と続いた。(図11-3)。男女別でみると男性は「製造業」の割合が最も多かったのに対し(35.2%)、女性では「医療、福祉」が最も多かった(34.8%)。

図 11-3 就職先の事業内容（男女別）

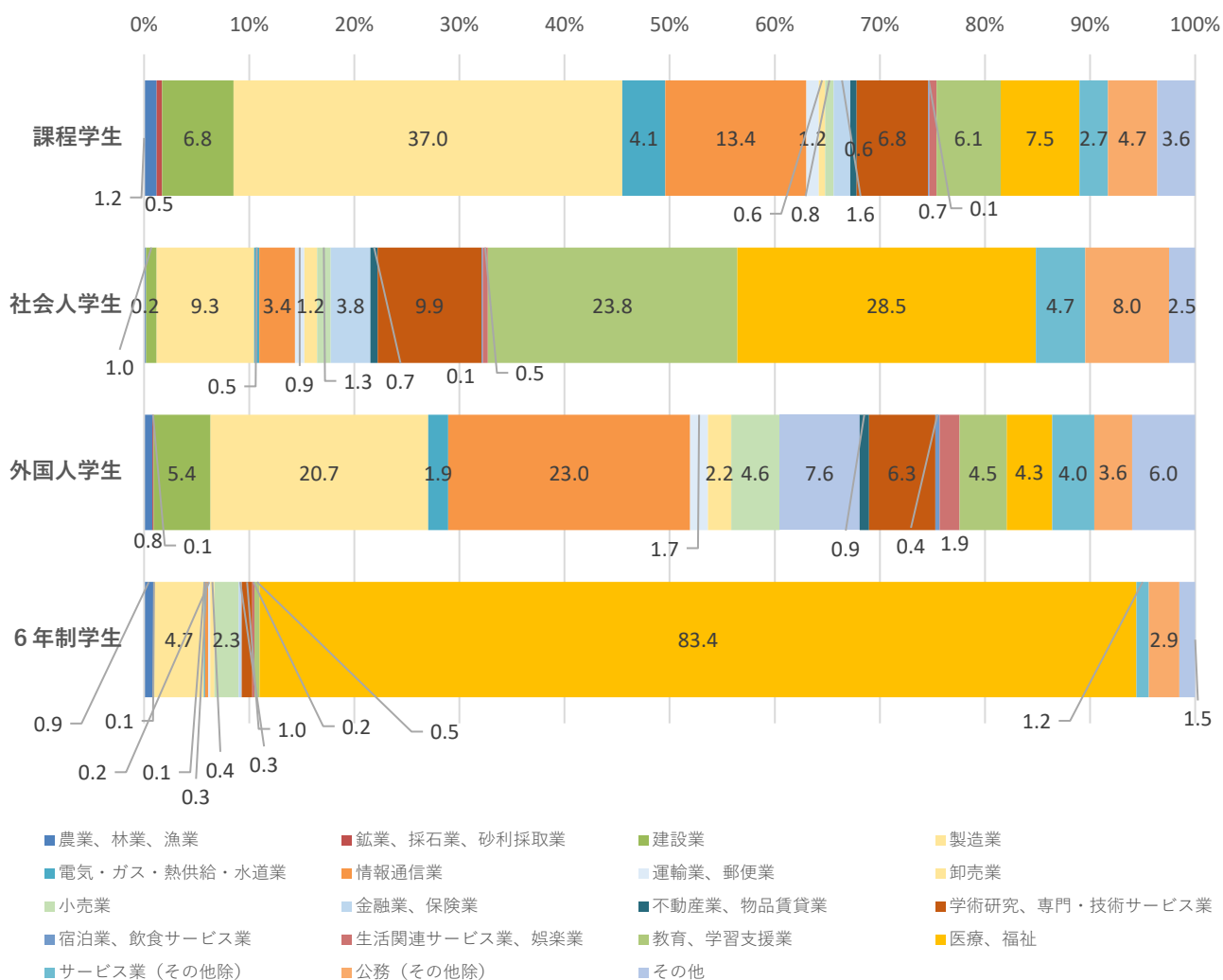


<sup>12</sup> 日本標準産業分類(平成25年10月改定)の大分類を以下のように一部改変している。

日本標準産業分類 大分類	修士課程在籍者調査(雇用先の事業内容)
A 農業, 林業	農林水産業
B 漁業	農林水産業
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	鉱業
D 建設業	建設業
E 製造業	製造業
F 電気・ガス・熱供給・水道業	電気・ガス・熱供給・水道業
G 情報通信業	情報通信業
H 運輸業, 郵便業	運輸業, 郵便業
I 卸売業, 小売業	卸売業 小売業
J 金融業, 保険業	金融業, 保険業
K 不動産業, 物品賃貸業	不動産業, 物品賃貸業
L 学術研究, 専門・技術サービス業	学術研究, 専門・技術サービス業
M 宿泊業, 飲食サービス業	宿泊業, 飲食サービス業
N 生活関連サービス業, 娯楽業	生活関連サービス業, 娯楽業
O 教育, 学習支援業	教育, 学習支援業
P 医療, 福祉	医療, 福祉
Q 複合サービス事業	サービス業(他に分類されないもの)
R サービス業(他に分類されないもの)	サービス業(他に分類されないもの)
S 公務(他に分類されるものを除く)	公務(他に分類されるものを除く)
T 分類不能の産業	その他

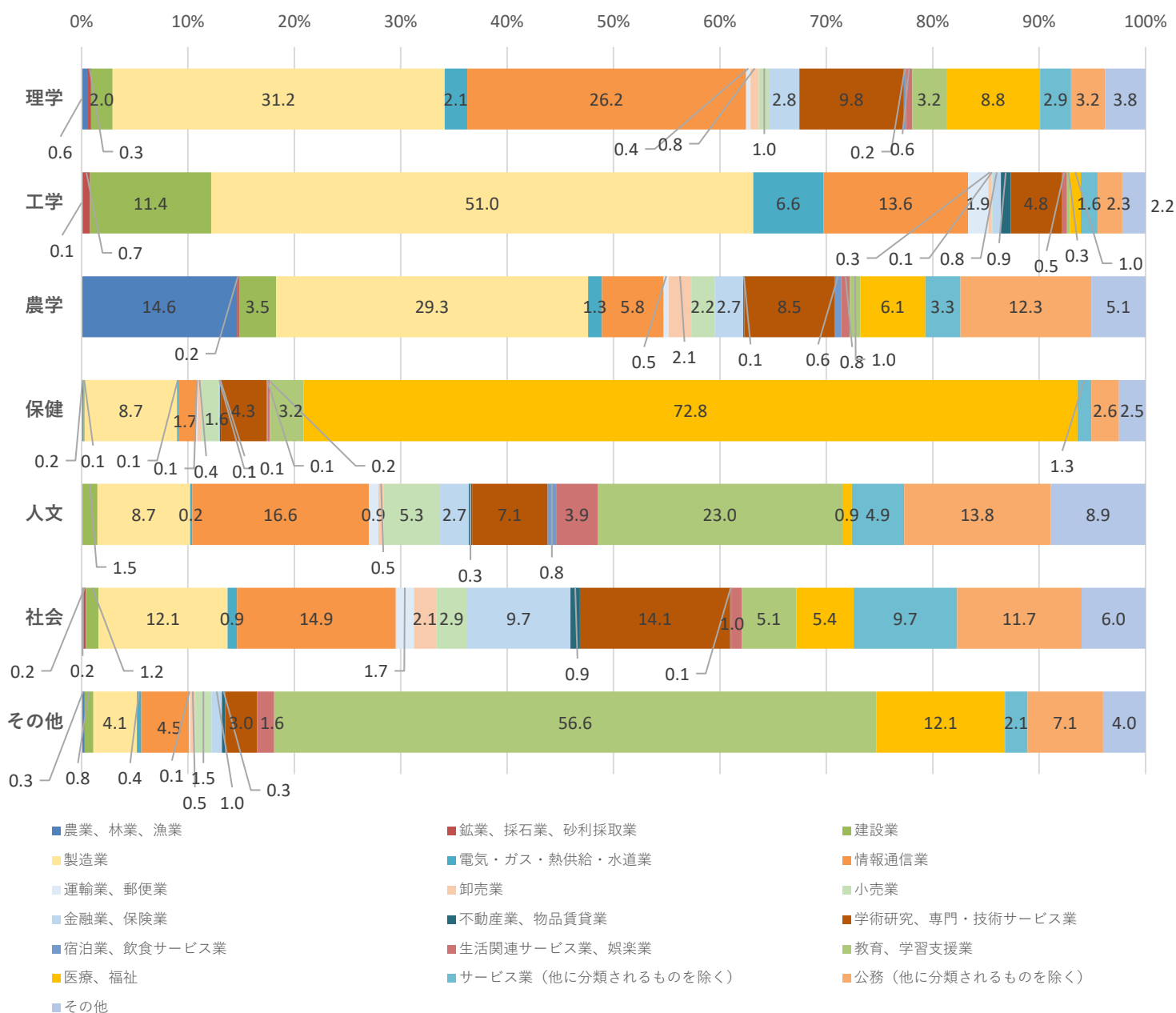
学生分類別でみると、課程学生の就職先は「製造業」(37.0%)、「情報通信業」(13.4%)、「医療、福祉」(7.5%)、「学術研究、専門・技術サービス業」(6.8%)、「建設業」(6.8%)の順で多かった。(図11-4)。社会人学生は「医療、福祉」(28.5%)が最も多く、「教育・学習支援業」(23.8%)、「学術研究、専門・技術サービス業」(9.9%)が続いた。外国人学生は「情報通信業」(23.0%)が最も多く、続いて「製造業」(20.7%)、「金融業、保険業」(7.6%)となった。6年制課程学生は8割以上が「医療、福祉」(83.4%)となっており、その他分野への就職割合はいずれも5%以下に留まった。

図 11-4 就職先の事業内容 (学生分類別)



学問分野別では、理学は「製造業」(31.2%)、「情報通信業」(26.2%)、「学術研究、専門・技術サービス業」(9.8%)の順で多かった(図11-5)。工学は「製造業」が51.0%と半数以上を占めており、続いて「情報通信業」(13.6%)、「建設業」(11.4%)の順となっている。また、農学では「農業、林業、漁業」が14.6%、人文では「教育、学習支援業」が23.0%を占めるなど学生の属性、研究分野により就職先の傾向に大きな違いがあることがわかる。

図 11-5 就職先の事業内容(学問分野別)



### 11-3 就職先の仕事

「就職先が決定している」と回答した者に、最新の「日本標準職業分類<sup>13</sup>」の中分類で就職先の仕事を尋ねたところ、全体では「製造技術者(開発)」(19.4%)が最も多く、続いて「薬剤師」(10.3%)、「情報処理・通信技術者(システム管理者、通信ネットワーク技術者)」(8.9%)の順であった(表 11-1)。男女別でみると、男性は「製造技術者(開発)」(24.5%)が最も多く、女性は「薬剤師」(21.0%)が最も多い結果となった。

表 11-1 就職先の仕事(男女別) \* 上位5種を色付け

	全体	男性	女性
管理的公務員	1.9	2.0	1.6
法人・団体役員	0.6	0.6	0.7
法人・団体管理職員	0.8	0.7	0.8
その他の管理的職業従事者	0.8	0.8	0.7
研究者(自然科学系)	5.5	5.6	5.4
研究者(人文科学系)	0.2	0.1	0.4
農林水産技術者	0.4	0.4	0.5
製造技術者(開発)	19.4	24.5	9.3
製造技術者(開発を除く)	5.5	6.8	2.9
建築・土木・測量技術者	4.9	5.9	2.9
情報処理・通信等技術者(システム管理者、通信ネットワーク技術者)	8.9	10.8	5.2
医師	0.3	0.4	0.2
歯科医師	0.1	0.1	0.1
獣医師	0.7	0.4	1.1
薬剤師	10.3	4.9	21.0
保健師、助産師、看護師	2.1	0.6	5.2
医療技術・保健医療従事者(診療放射線技術師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、はり師等)	3.0	2.9	3.3
社会福祉専門職業従事者(保育士、福祉相談指導等)	0.5	0.2	1.1
法務従事者(裁判官、弁護士、司法書士他)	0.3	0.2	0.4
経営・金融・保健専門職業従事者(公認会計士、税理士、社会保険労務士等)	1.9	2.2	1.4
経営・業務コンサルタント	2.9	3.0	2.5
学校教員(幼稚園) 特別支援等学校含む	0.4	0.3	0.7
学校教員(小・中学校) 特別支援等学校含む	2.9	2.4	4.0
学校教員(高等学校) 特別支援等学校含む	1.5	1.4	1.9
学校教員(高専、短大)	0.2	0.1	0.4
学校教員(大学、大学院)	0.7	0.3	1.5
その他の教員	0.5	0.3	0.8
宗教家	0.1	0.1	0.0
著述家、記者、編集者	0.4	0.4	0.5
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	0.5	0.3	0.7
音楽家、舞台芸術家、俳優等	0.0	0.0	0.1
その他の専門的職業従事者(図書館司書、学芸員、カウンセラー等)	1.1	0.5	2.3
一般事務従事者(庶務事務員、人事事務員、受付、秘書)	1.6	1.2	2.4
会計事務従事者(経理事務員等)	0.7	0.8	0.6
生産関連事務従事者	0.3	0.3	0.4
営業・販売事務従事者	3.4	3.2	3.9
外勤事務従事者(集金人、調査員)	0.0	0.0	0.0
運輸・郵便事務従事者	0.2	0.2	0.1
事務用機器操作員	0.0	0.1	0.0
商品販売・営業職・販売類似職業従事者(小売店主、販売員等)	0.8	0.8	0.9
家庭生活支援・介護サービス職業従事者	0.1	0.0	0.3
保健医療・生活衛生サービス職業従事者	0.3	0.2	0.7
飲食物調理、接客従事者	0.0	0.0	0.1
居住施設・ビル等管理人	0.0	0.1	0.0
その他サービス職業従事者	0.8	0.6	1.1
自衛官・司法警察職員、その他の保安職業従事者	0.3	0.4	0.1
農・林・漁業技術者	0.2	0.2	0.2
生産設備制御・機械組立設備制御・監視従事者	0.8	1.1	0.2
製品製造・加工処理・機械組立・整備・修理従事者	1.7	2.3	0.7
製品・機械検査・生産関連・生産類似作業従事者	1.4	1.8	0.7
鉄道・自動車・船舶・航空機運転・その他輸送事業者	0.6	0.8	0.2
定置・建設機械運転・建設・電気・土木工事従事者	0.8	1.0	0.4
その他	6.4	5.8	7.5

<sup>13</sup> 平成 21 年 12 月統計基準設定 [https://www.soumu.go.jp/toukei\\_toukatsu/index/seido/shokgyou/21index.htm](https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/shokgyou/21index.htm)

学問分野別では、理学は「情報処理・通信等技術者」(24.9%)が最も多かった。「製造技術者(開発)」は工学(38.0%)、農学(14.0%)で最も多く、保健では「薬剤師」が44.3%を占めた(表11-2)。人文は「営業・販売事務従事者」(13.3%)が最も多く、社会は公認会計士等を含む「経営・金融・保健専門職業従事者」(14%)が最も多い結果となった。

表 11-2 就職先の仕事(学問分野別) \*上位5種を色付け

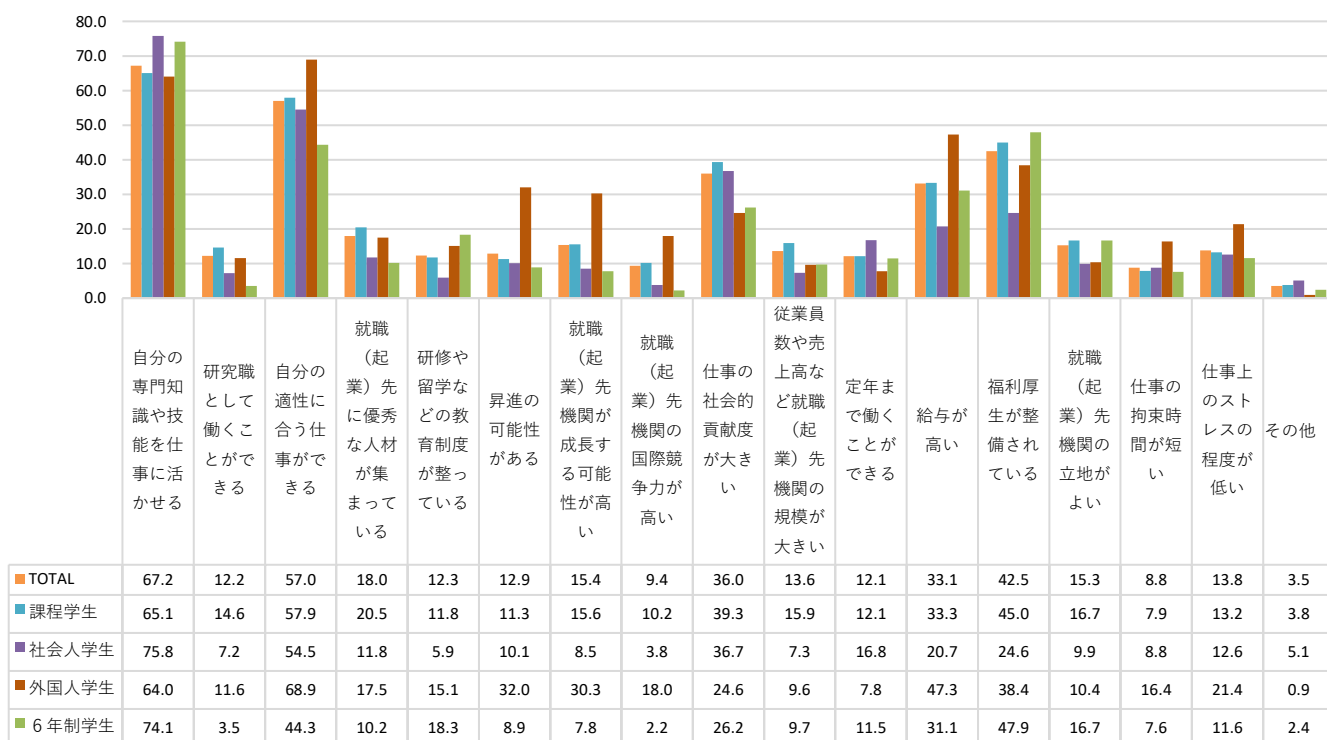
	理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
管理的公務員	1.3	1.1	3.5	0.5	4.3	6.2	2.1
法人・団体役員	0.3	0.2	1.5	0.3	0.8	2.8	0.5
法人・団体管理職員	0.2	0.4	0.6	0.3	2.9	2.7	1.1
その他の管理的職業従事者	0.1	0.5	0.7	0.2	2.0	3.6	0.4
研究者(自然科学系)	11.3	5.2	12.6	7.1	0.0	0.4	0.4
研究者(人文科学系)	0.2	0.1	0.6	0.0	2.2	0.3	0.6
農林水産技術者	0.4	0.1	6.1	0.0	0.0	0.1	0.0
製造技術者(開発)	20.4	38.0	14.0	5.2	0.7	1.1	1.2
製造技術者(開発を除く)	5.2	10.7	5.7	1.4	0.3	0.4	0.5
建築・土木・測量技術者	1.9	11.0	3.7	0.0	0.5	0.4	0.8
情報処理・通信等技術者(システム管理者、通信ネットワーク技術者)	24.9	11.4	5.0	0.8	8.6	7.9	2.6
医師	0.0	0.0	0.1	1.1	0.0	0.3	0.0
歯科医師	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
獣医師	0.1	0.0	10.7	0.1	0.0	0.0	0.0
薬剤師	5.8	0.1	0.0	44.3	0.0	0.3	0.7
保健師、助産師、看護師	0.0	0.0	0.0	9.4	0.0	0.5	0.5
医療技術・保健医療従事者(診療放射線技術師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、はり師等)	0.4	0.0	0.8	12.0	0.3	0.6	2.7
社会福祉専門職業従事者(保育士、福祉相談指導等)	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.7	3.1
法務従事者(裁判官、弁護士、司法書士他)	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.7	0.4
経営・金融・保健専門職業従事者(公認会計士、税理士、社会保険労務士等)	1.5	0.3	0.6	0.0	0.3	14.0	0.4
経営・業務コンサルタント	3.1	1.9	1.5	0.8	4.4	10.9	2.0
学校教員(幼稚園) 特別支援等学校含む	0.1	0.0	0.0	0.1	0.9	0.1	4.5
学校教員(小・中学校) 特別支援等学校含む	0.7	0.1	0.2	0.3	3.8	0.6	30.0
学校教員(高等学校) 特別支援等学校含む	1.8	0.1	0.4	0.1	9.5	1.1	10.4
学校教員(高専、短大)	0.1	0.0	0.0	0.3	0.3	0.3	1.0
学校教員(大学、大学院)	0.2	0.0	0.0	1.7	1.2	0.8	2.0
その他の教員	0.1	0.0	0.3	0.4	3.3	0.7	2.0
宗教家	0.0	0.0	0.0	0.1	1.9	0.1	0.0
著述家、記者、編集者	0.2	0.0	0.3	0.4	4.2	1.1	0.7
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	0.2	0.3	0.0	0.0	0.2	0.3	3.3
音楽家、舞台芸術家、俳優等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.4
その他の専門的職業従事者(図書館司書、学芸員、カウンセラー等)	0.2	0.1	0.3	0.7	5.7	0.7	7.6
一般事務従事者(庶務事務員、人事事務員、受付、秘書)	0.7	0.2	1.9	1.0	7.7	5.7	3.2
会計事務従事者(経理事務員等)	0.1	0.1	0.2	0.1	0.8	5.4	0.2
生産関連事務従事者	0.4	0.1	0.5	0.2	0.9	1.0	0.4
営業・販売事務従事者	3.1	1.3	7.7	2.0	13.3	9.2	3.3
外勤事務従事者(集金人、調査員)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0
運輸・郵便事務従事者	0.2	0.2	0.3	0.0	0.6	0.3	0.0
事務用機器操作員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
商品販売・営業職・販売類似職業従事者(小売店主、販売員等)	1.0	0.3	2.5	0.3	4.9	2.2	0.8
家庭生活支援・介護サービス職業従事者	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.4	0.4
保健医療・生活衛生サービス職業従事者	0.3	0.0	0.4	1.1	0.2	0.1	0.1
飲食物調理、接客従事者	0.1	0.0	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0
居住施設・ビル等管理人	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他サービス職業従事者	1.1	0.4	1.3	0.4	1.8	1.0	1.8
自衛官・司法警察職員、その他の保安職業従事者	0.1	0.2	0.2	0.2	0.0	1.2	0.3
農・林・漁業技術者	0.4	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0
生産設備制御・機械組立設備制御・監視従事者	0.6	1.7	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0
製品製造・加工処理・機械組立・整備・修理従事者	1.7	3.2	1.7	0.5	0.4	0.1	0.5
製品・機械検査・生産関連・生産類似作業従事者	1.6	2.3	2.4	0.7	0.6	0.4	0.2
鉄道・自動車・船舶・航空機運転・その他輸送事業者	0.2	1.1	0.1	0.1	0.5	0.4	0.0
定置・建設機械運転・建設・電気・土木工事従事者	0.3	1.7	0.5	0.0	0.1	0.1	0.0
その他	7.4	5.1	8.0	5.1	8.7	10.6	6.8



## 11-4 就職先選択の理由

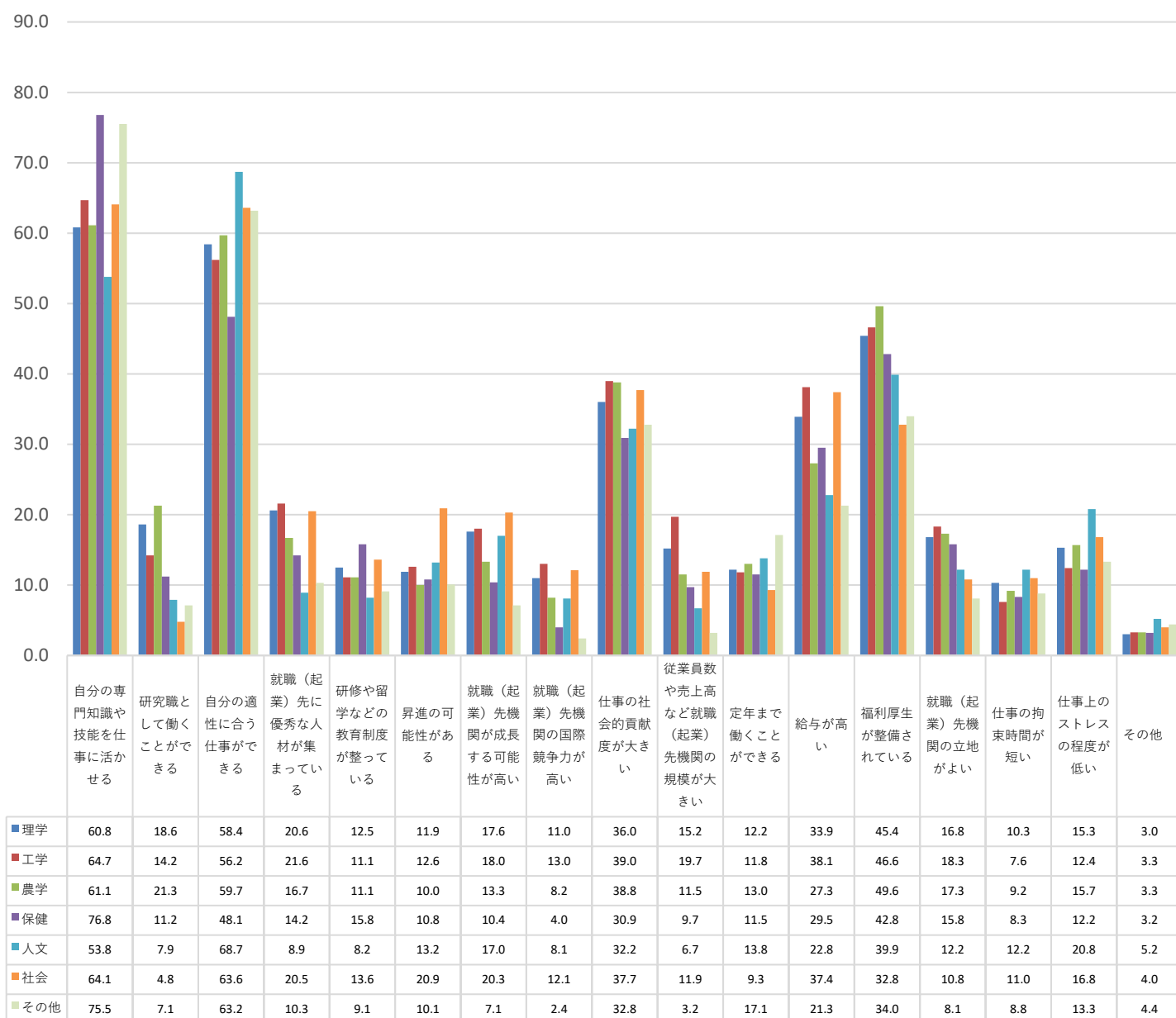
「就職先が決定している」または「就職活動中」と回答した者に、就職先を選ぶ際に、重視した（重視する）ことを尋ねると、全体では「自分の専門知識や技能を仕事に活かせる」が67.2%で最も高く、次いで「自分の適性にある仕事ができる」が57.0%と続いた（図11-6）。学生類型別でみると、課程学生は「自分の適性に合う仕事ができる」（57.9%）、「仕事の社会的貢献度が大きい」（39.3%）、「福利厚生が整備されている」（45.0%）といった項目で平均を上回った。社会人学生は「自分の専門知識や技能を仕事に活かせる」が75.8%と最も高く、「自分の適性に合う仕事ができる」（54.5%）、「仕事の社会的貢献度が大きい」（36.7%）が続いた。外国人学生は「給与が高い」（47.3%）、「昇進の可能性がある」（32.0%）、「就職先機関が成長する可能性が高い」（30.3%）、「仕事上のストレスの程度が低い」（21.4%）等の項目において他の学生よりも回答割合が高かった。

図 11-6 就職先を選択する際に重視した（する）事項（学生分類別）



学問分野別でみると、「自分の専門知識や技能を仕事に活かせる」は保健(76.8%)で7割を超えており、続いて工学(64.7%)、社会(64.1%)の順となった(図 11-7)。「研究職として働くことができる」は農学が21.3%と最も高く、続いて理学(18.6%)、工学(14.2%)、保健(11.2%)の順となった。「自分の適性に合う仕事ができる」は人文(68.7%)、社会(63.6%)等人文社会分野で高い傾向がみられた。

図 11-7 就職先を選択する際に重視した(する)事項(学問分野別)



### 11-5 雇用先の入職経路

「就職先が決定している」と回答した者に、就職先の入職経路について尋ねたところ、全体では「就職情報サイト・求人情報専門誌・新聞・チラシ等」が32.2%で最も高く、次いで「大学・大学院（指導教員からの紹介等）」(23.0%)、「機関・企業のホームページ」(18.6%)の順であった(図11-8)。また、起業と回答した者の割合は、全体では0.5%であったが、学生類型別にみると、社会人学生が3.4%と最も高く、次いで外国人学生(1%)、課程学生(0.1%)の順となった(図11-9)。

図 11-8 雇用先の入職経路（全体）

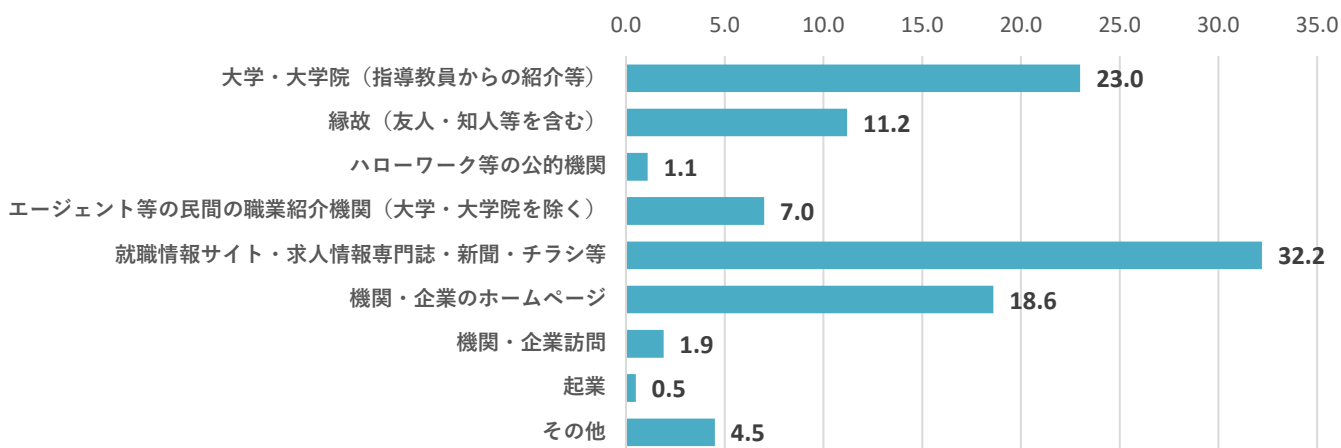
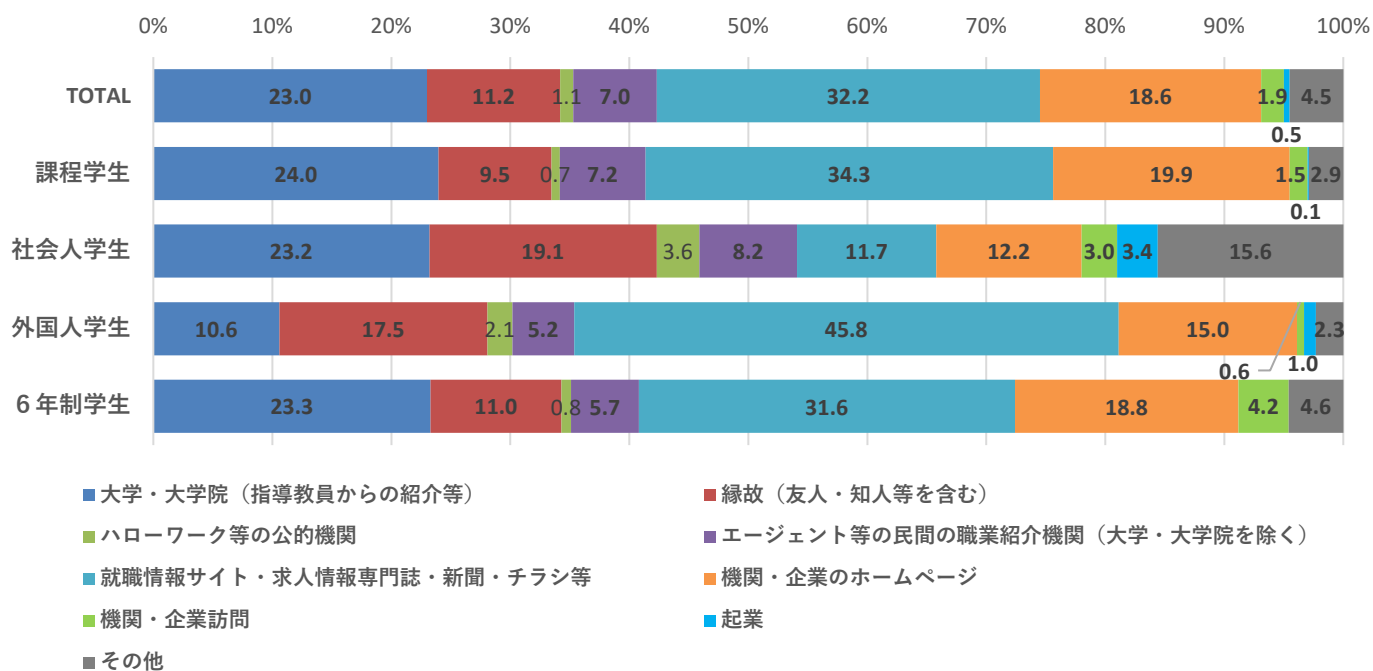
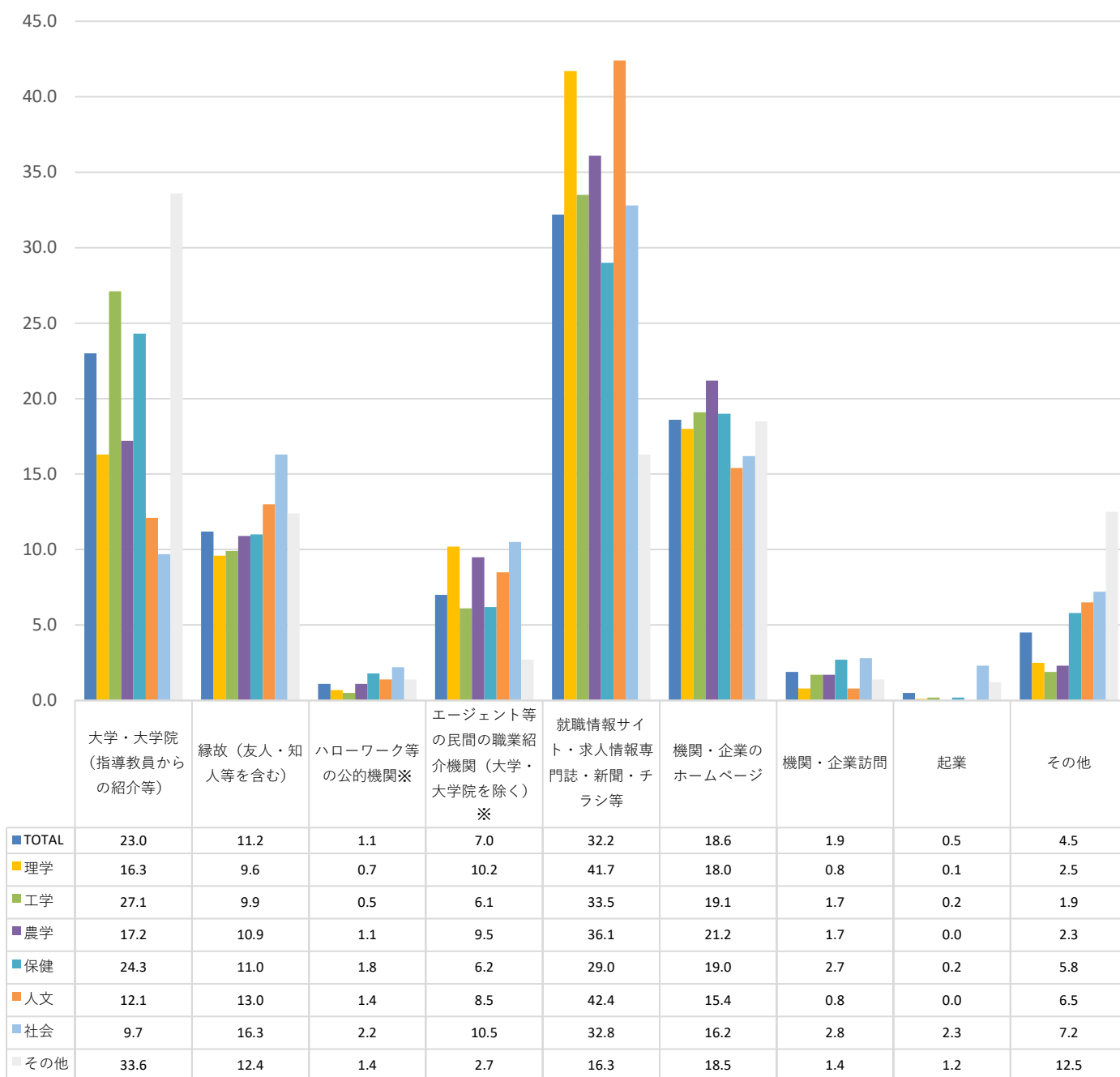


図 11-9 雇用先の入職経路（学生分類別）



学問分野別でみると、「大学・大学院(指導教員からの紹介等)」の割合は工学で最も高く(27.1%)、続いて保健(24.3%)、農学(17.2%)、理学(16.3%)の順となった(図 11-10)。また友人、知人を含む縁故の割合は社会分野で最も高く(16.3%)、続いて人文(13.0%)、保健(11.0%)の順となった。また「起業」と回答した者の割合は社会で 2.3%と最も高く、工学、保健がそれぞれ 0.2%であった。

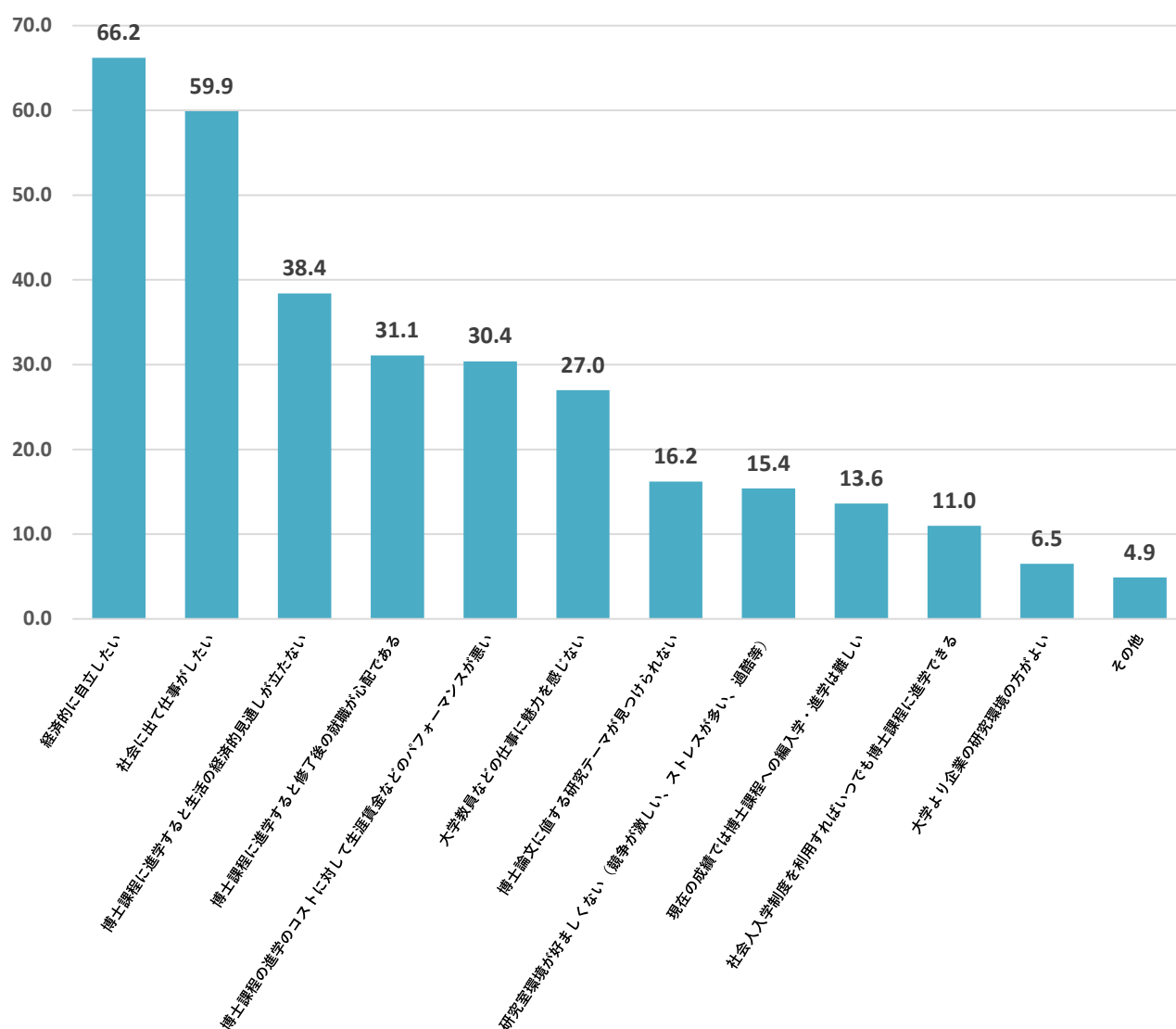
図 11-10 雇用先の入職経路 (学問分類別)



## 11-6 進学ではなく就職を選んだ理由

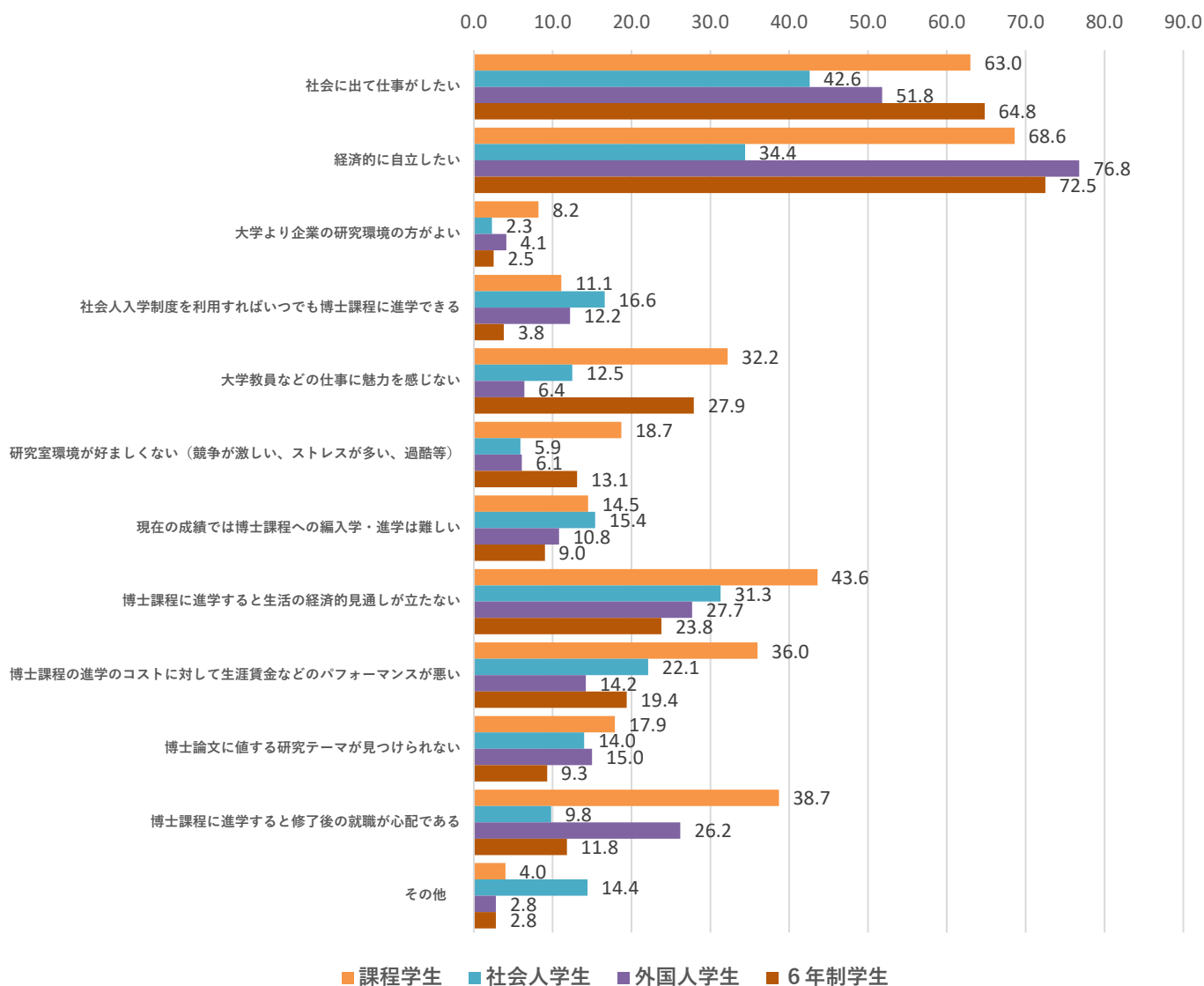
「就職先が決定している」または「就職活動中」と回答した者に、博士課程への進学ではなく就職を選択した理由を尋ねたところ、全体では「経済的に自立したい」が66.2%で最も高く、次に「社会に出て仕事がしたい」が59.9%となった(図11-11)。一方で、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」(38.4%)と経済的な理由を挙げた回答も4割近くあった。また、「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」(31.1%)、「博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い」(30.4%)と博士進学がキャリアや収入にネガティブな影響を与えることを懸念する回答もそれぞれ3割程度挙げられた。

図 11-11 就職を選んだ理由（全体 単位：％）



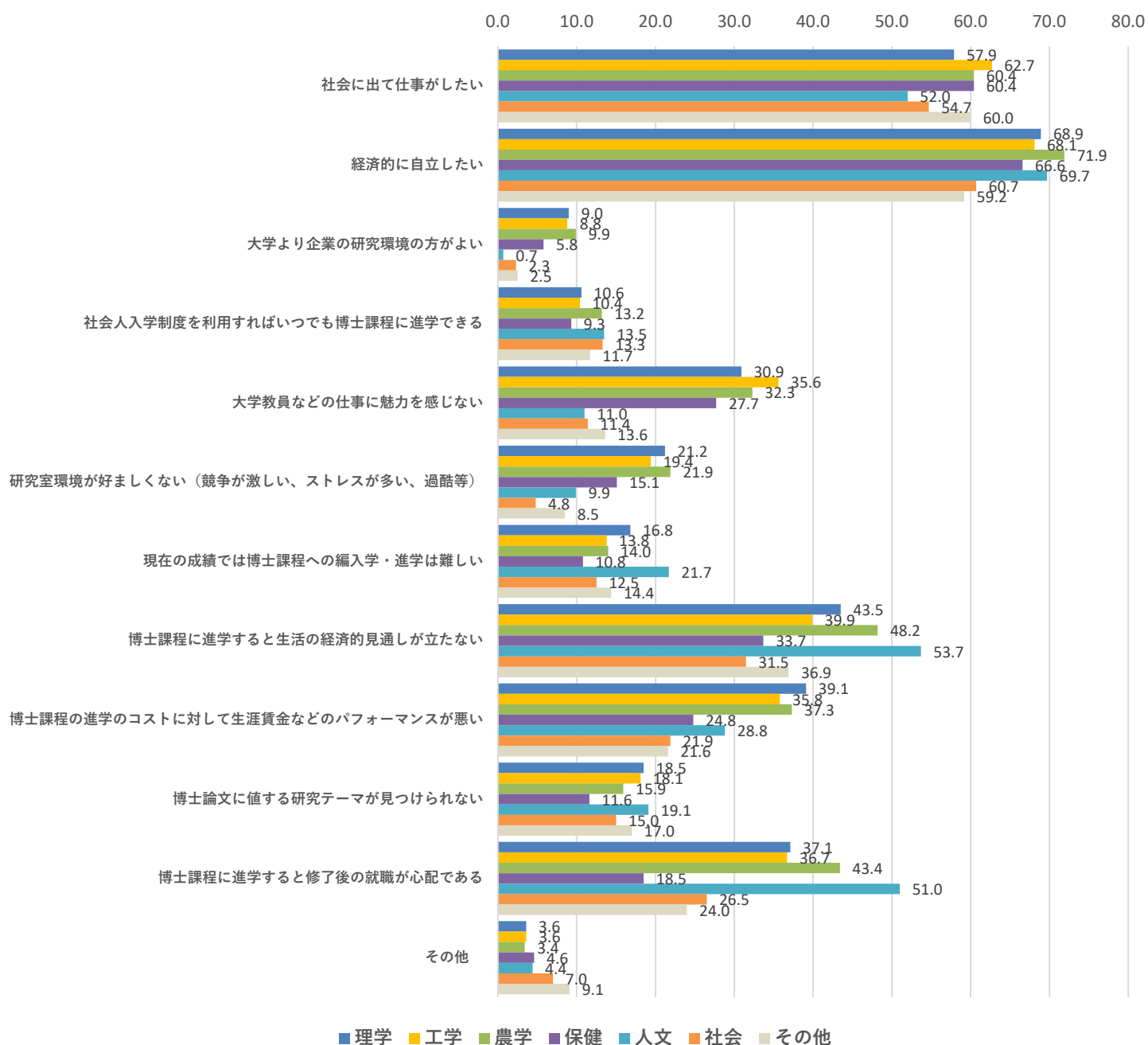
就職を選んだ理由について学生類型別でみると、課程学生では「経済的に自立したい」(68.6%)、「社会に出て仕事がしたい」(63.0%)のほか、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」(43.6%)が4割強とを占めており、他のタイプの学生よりも高い傾向がみられた(図11-12)。また、課程学生は「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」(38.7%)、「博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い」(36.0%)、「大学教員などの仕事に魅力を感じない」(32.2%)の各項目においても他の分類の学生よりも高い傾向がみられた。

図 11-12 就職を選んだ理由(学生類型別 単位:%)



学問分野別では「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」(53.7%)、「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」(51.0%)で人文がそれぞれ5割超となっており、博士課程進学後のキャリアや経済状況についてネガティブな見通しを持っている傾向がみられた(図11-13)。一方「大学教員などの仕事に魅力を感じない」、「研究環境が好ましくない」と回答した割合は工学、農学、理学等理系分野で高い傾向がみられた。

図 11-13 就職を選んだ理由(学問分野別 単位：%)



## 11-7 博士課程への進学検討

「就職先が決定している(起業・現在の勤務先での就業継続を含む)」「就職活動中」「医師臨床研修」「未定」「その他」と回答した者に、在籍中に博士課程への進学を検討したことがあるかどうかを尋ねたところ、全体では「ある」と回答した者が29.5%、「ない」と回答した者が70.5%となった(図11-14)。学生類型別では進学を検討した割合が最も高いのは外国人学生(47.4%)、続いて社会人学生(42.6%)、課程学生(26.1%)、6年制学生(24.2%)の順となった。学問分野別では人文で進学を検討した割合が50.6%と最も高く、続いて社会(36.7%)と文系分野で高い傾向がみられた(図11-15)。

図 11-14 博士課程への進学検討の有無(学生類型別 単位: %)

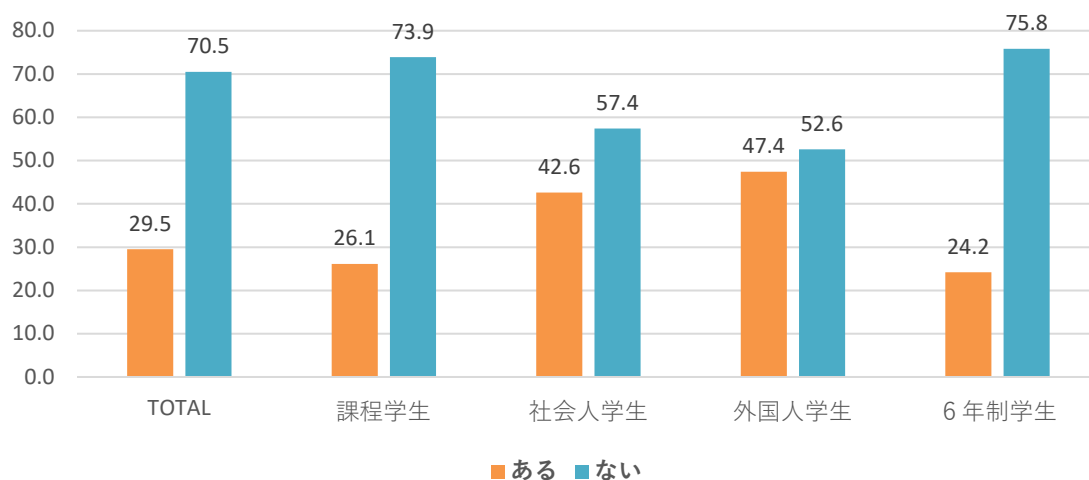
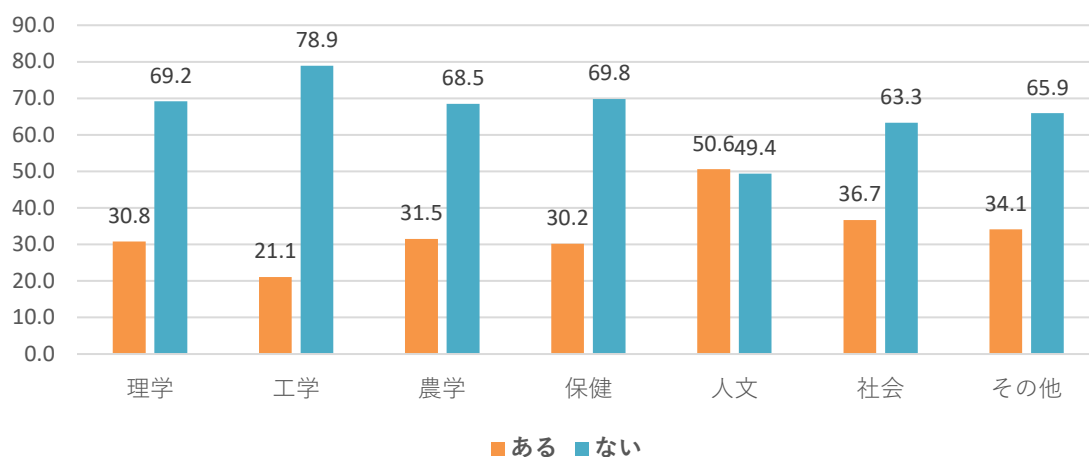


図 11-15 博士課程への進学検討の有無(学問分野別 単位: %)

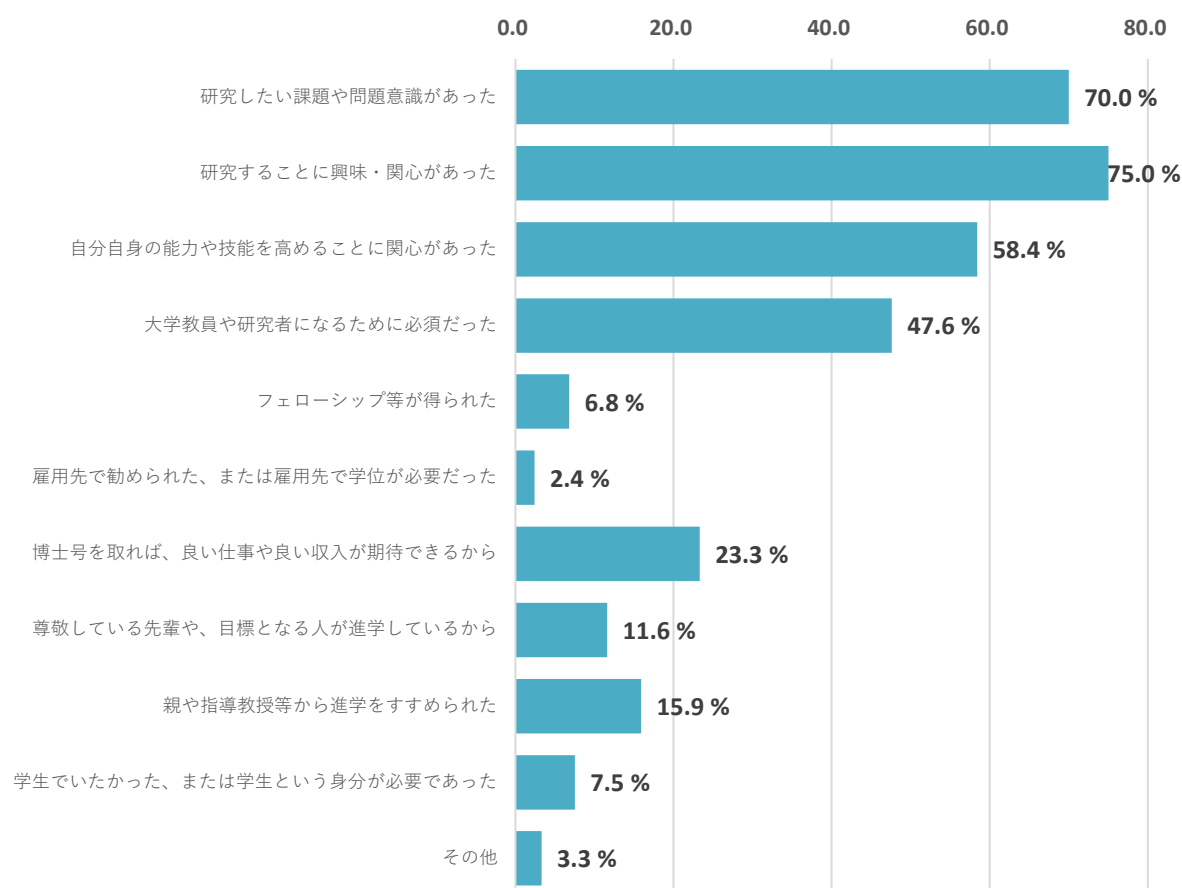




## 11-8 博士課程への進学理由

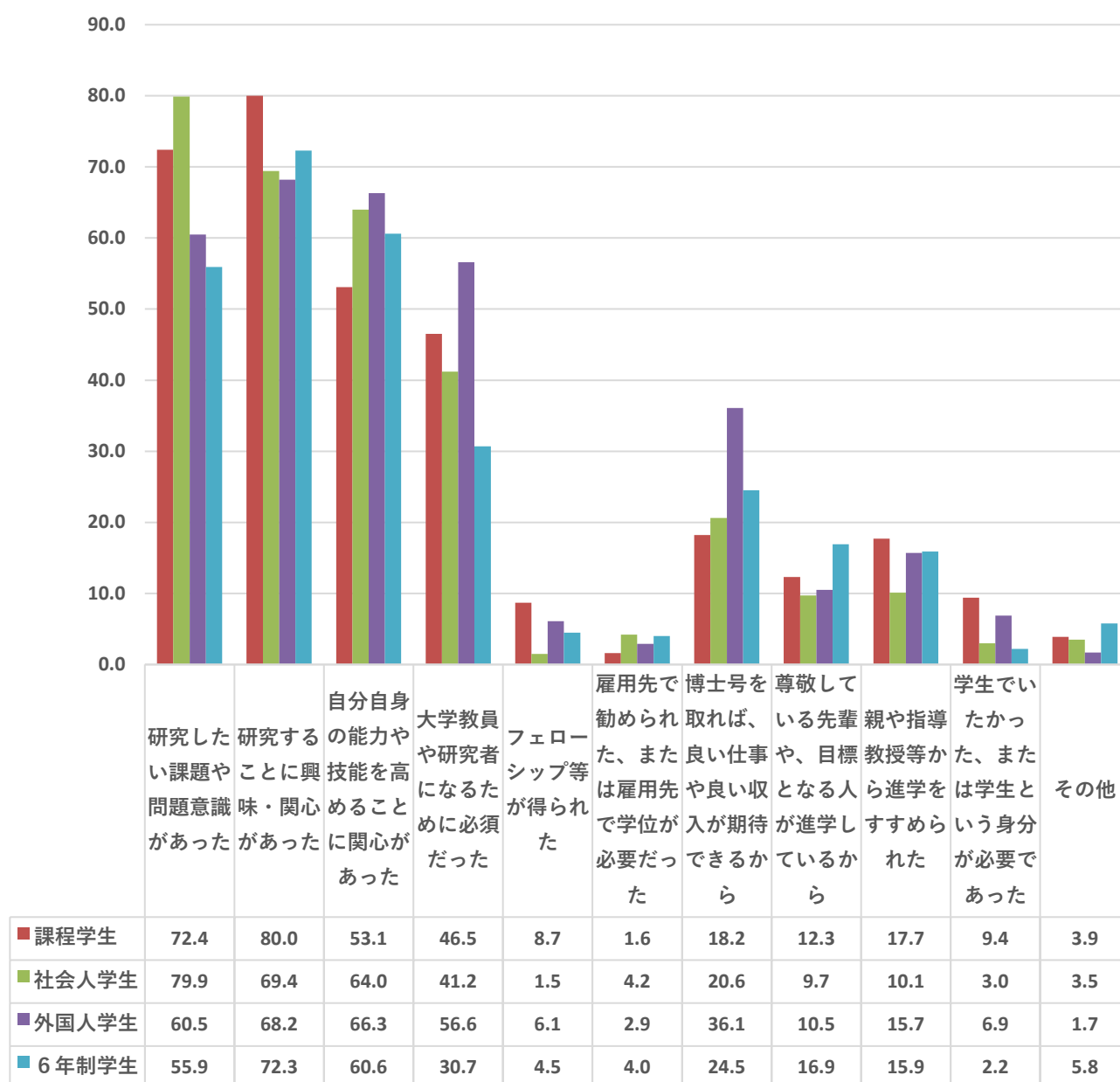
博士課程進学予定者及び博士課程進学準備者に対して、進学理由を尋ねたところ、全体では、「研究することに興味・関心があった」(75.0%)、「研究したい課題や問題意識があった」(70.0%)、「自分自身の能力や技能を高めることに関心があった」(58.4%)、「大学教員や研究者になるために必須だった」(47.6%)の順であった(図 11-16)。一方「フェローシップが得られた」(6.8%)等経済的インセンティブがあったとする回答は少数にとどまった。

図 11-16 博士課程への進学理由 (複数回答)



学生類型別では、「研究したい課題や問題意識があった」と進学に明確な動機があると回答した者の割合は社会人学生で最も高く(79.9%)、次いで課程学生(72.4%)、外国人学生(60.5%)、6年制学生(55.9%)の順となった。一方、「博士号を取れば良い仕事や良い収入が期待できるから」と将来のキャリアや収入を進学動機と回答した者の割合は外国人学生が最も多く(36.1%)、次いで6年制学生(24.5%)、社会人学生(20.6%)、課程学生(18.2%)の順であった(図 11-17)。

図 11-17 博士課程への進学理由 (学生類型別 単位：%)

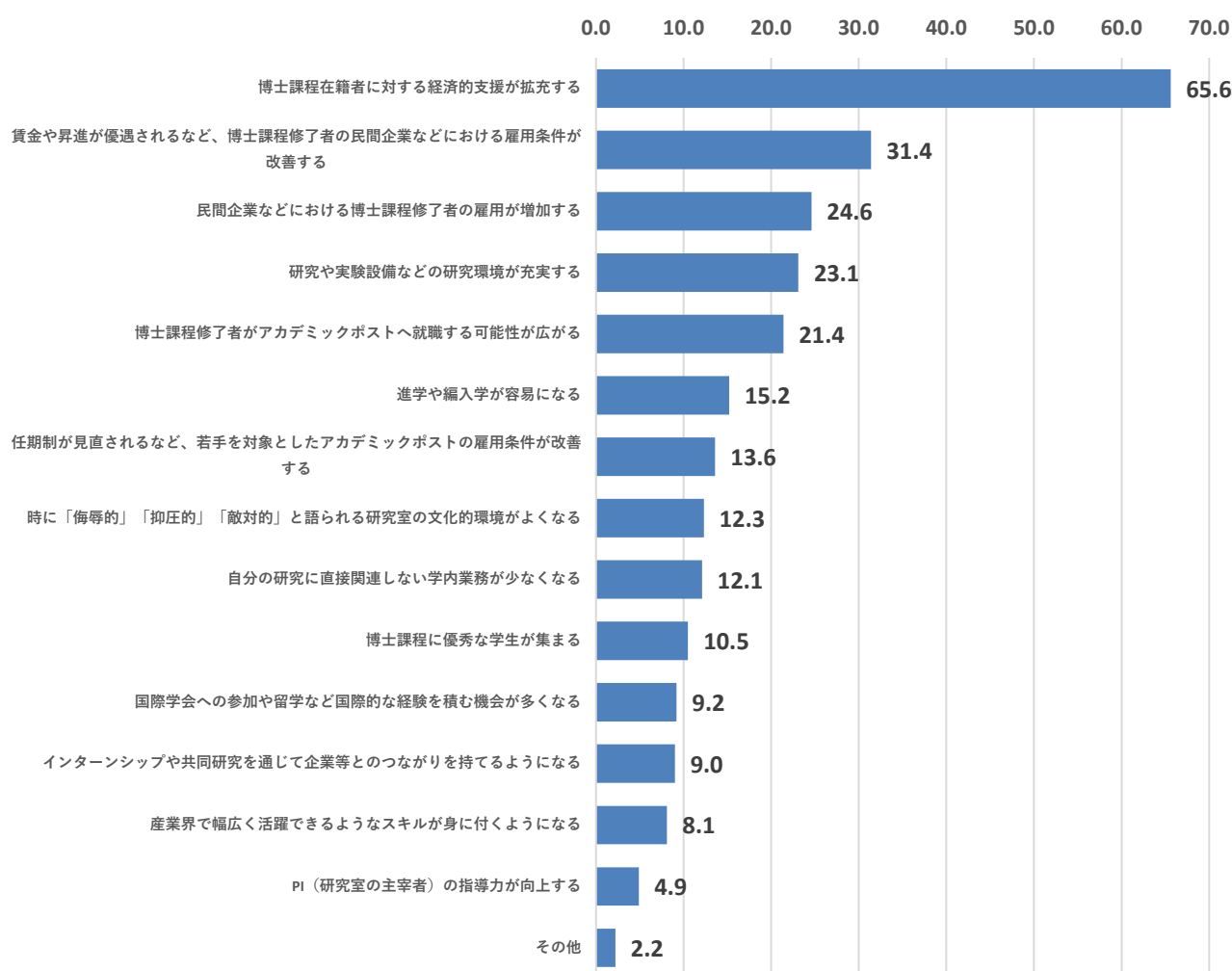


## 12. 博士課程進学に対する政策への提言

### 12-1 博士課程への進学条件

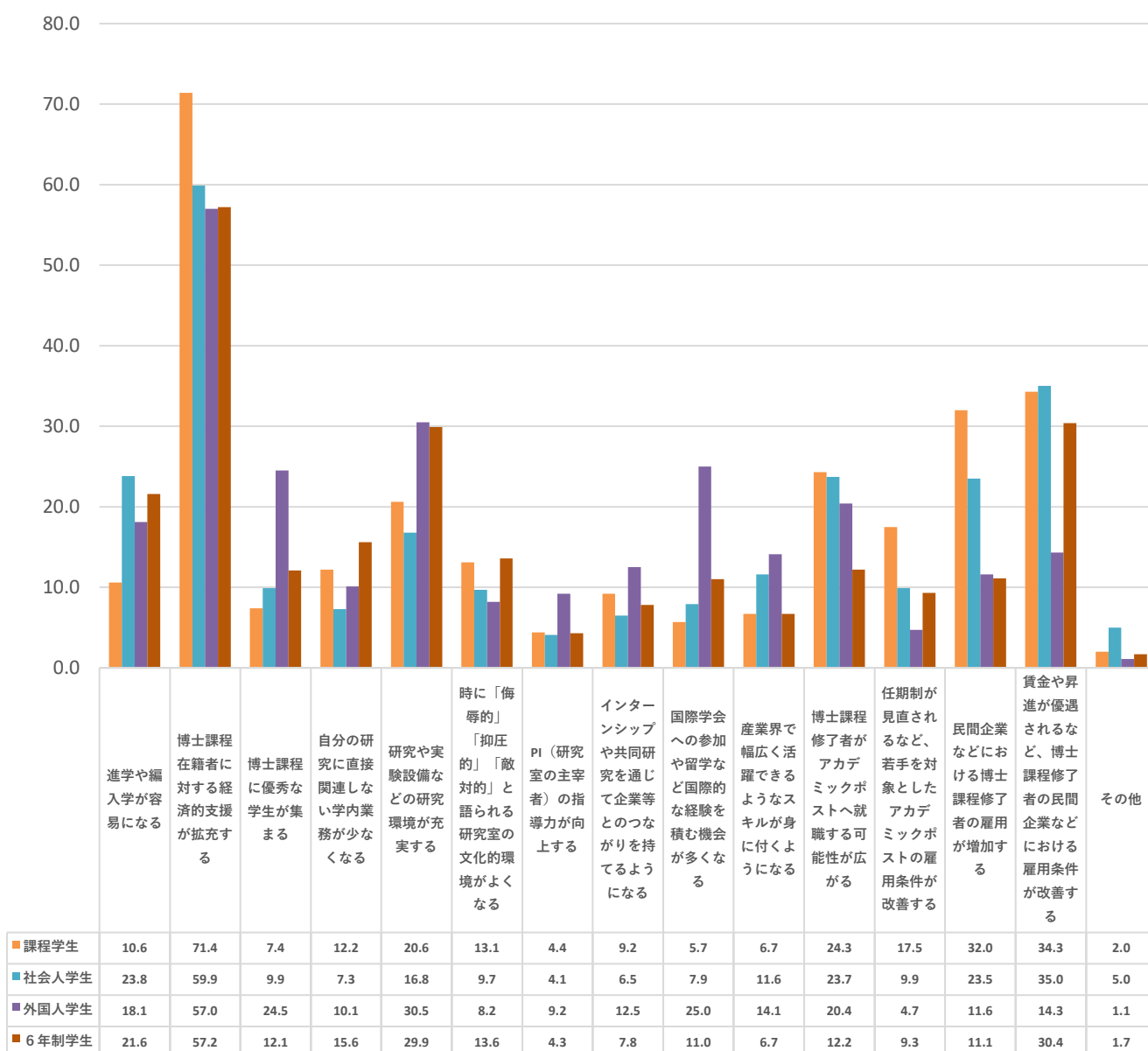
日本国内の大学院博士課程への進学を検討する場合、どのような条件が整うことが重要かを尋ねた。全体では「博士課程在籍者に対する経済的支援が拡充する」(65.6%)が最も多かった。次に多かったのが「賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する」(31.4%)、「民間企業などにおける博士課程修了者の雇用が増加する」(24.6%)など、企業における雇用の拡大や雇用環境の改善を求める回答となった。一方で、インターンシップ経験や産業界で幅広く活躍するためのトランスファラブルスキル獲得についてはいずれも1割以下であった(図 12-1)。

図 12-1 博士課程進学を検討する条件 (全体 単位：%)



学生類型別でみると、課程学生は「博士課程在籍者に対する経済的支援が拡充する」が71.4%と最も高く、続いて「賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する」(34.3%)が続いた(図 12-2)。社会人は「賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する」(35.0%)、「進学や編入学が容易になる」(23.8%)といった項目で他の学生よりも高い割合を示した。外国人学生は「国際学会への参加や留学など国際的な経験を積む機会が多くなる」(25.0%)、「博士課程に優秀な学生が集まる」(24.5%)といった項目が他の学生類型よりも高い傾向がみられた。

図 12-2 博士課程進学を検討する条件 (学生類型別 単位：%)



また、博士課程進学を検討する条件として「その他」に挙げられた自由記述について主なもの<sup>14</sup>をまとめた。大学の教育・研究環境については、働きながら学位取得が可能になるプログラムの拡充や、居住・勤務地域に左右されない通信制での受講、学位取得手段を望む意見が多く見られた。また、在学期間中に企業や他の研究室と交流する機会の拡大等、共同研究や開発に繋がる機会を求める意見もあった。消極的な意見としては、博士進学した場合の将来のイメージが湧かない、進学することによってどのようなメリットがあるのか分からないといった意見も散見された。

経済支援については、従来から指摘されている通り海外の大学院と同等の処遇(研究費等による雇用や学費免除)を求める声が多かった。現行の制度では博士学位取得までの在籍期間を通じて生活費を維持する手段が限られているため、こうした状況を改善する取り組みが急務であると思われる。

また、雇用環境については博士学位取得者の雇用実績やロールモデルが見えない点を指摘する意見もあった。民間企業だけでなく国や地方公共団体等においても、博士学位取得者がどのように雇用され、どういった職位で活躍しているのかについて、学生や社会に発信、周知する姿勢が求められているのではないだろうか。

#### 【博士課程進学を検討する条件(自由記述)】

##### <教育・研究環境>

- 指導教員との関係性が良好であること
- 大学教員の指導技術、対人能力の向上
- 働きながら博士学位を取得できる手段の拡大
- 博士課程のプログラムが在職者に適応したものになること
- 在籍者個人に対する経済的支援も大切だが、研究費の支援も今以上に必要
- 修士課程は働きながらなんとか通えたが、博士課程は休職しなければ難しい。博士課程に進学して元の職場に戻れるなら博士課程に進みたい
- 留学生の数が増え、国際競争力のある環境に身を置けること
- 学生期間中に社会に出て実際に業務を行い実務を身に着けることができる
- 博士課程在籍者への精神的サポートの拡充
- 社会人ドクターになりやすい環境が整う
- 居住地に左右されず、継続できる学び方
- 研究内容で類似する研究をする企業ともっと繋がりをもって共同開発や研究、分析が行える環境が整ってほしい
- 所属する大学院だけでなく、所属外大学院の講義も受講でき、および他大学員教員とも関係性が築けるような体制があること
- 結婚などのライフイベントへの考慮(資産形成や育休など)がされること
- 博士課程を修了したあとのイメージが具体的に湧くようにすること。また博士課程におけるメリットを明示すること
- 研究は孤独なので他の博士課程の学生と交流できる環境があること
- コロナで少なくなった対面での学会での企業や他大学との出会いや交流

<sup>14</sup> 内容が重複するものは代表的なもののみを記載し、本調査の趣旨と関係しないもの、特定の個人や団体に対する批判や誹謗中傷にあたるものを除く

- 標準修業年限内で修了できるという見通し。学位取得の年限が不明瞭すぎる
- 社会人経験者や高齢の者も公平に受け入れる入試制度となること
- 博士課程と臨床研修が並行して行える制度の整備
- 大学院生の無給医問題が解決すること
- 論文の読み書き・発表に必要な英語力の向上に対する支援が手厚くなること
- 一研究室内で研究期間を過ぎさせるのではなく、類似研究を行う機関で研究する機会を設けること
- Considerable mental health support for international students

#### <経済支援>

- 大学、大学院と奨学金を借りていたため、博士課程だけではなく学部や修士でも経済支援がないと厳しい
- 完全に費用 給料以外の奨学金などないと家族が反対する
- 20代後半で社会的に独立していないことは、親戚関係で評判が悪い。博士課程は社会的に独立していると思えるよう、給与が支払われるなどの仕事としての側面が必要
- 博士課程在籍中の、大学病院勤務医としての待遇?給与?福利厚生等の改善
- 研究費を給与としてもらえるような仕組みが必要
- 海外同様、学費の支払いがなく、給与が支給される
- 修士、博士への給付型奨学金を拡充すること

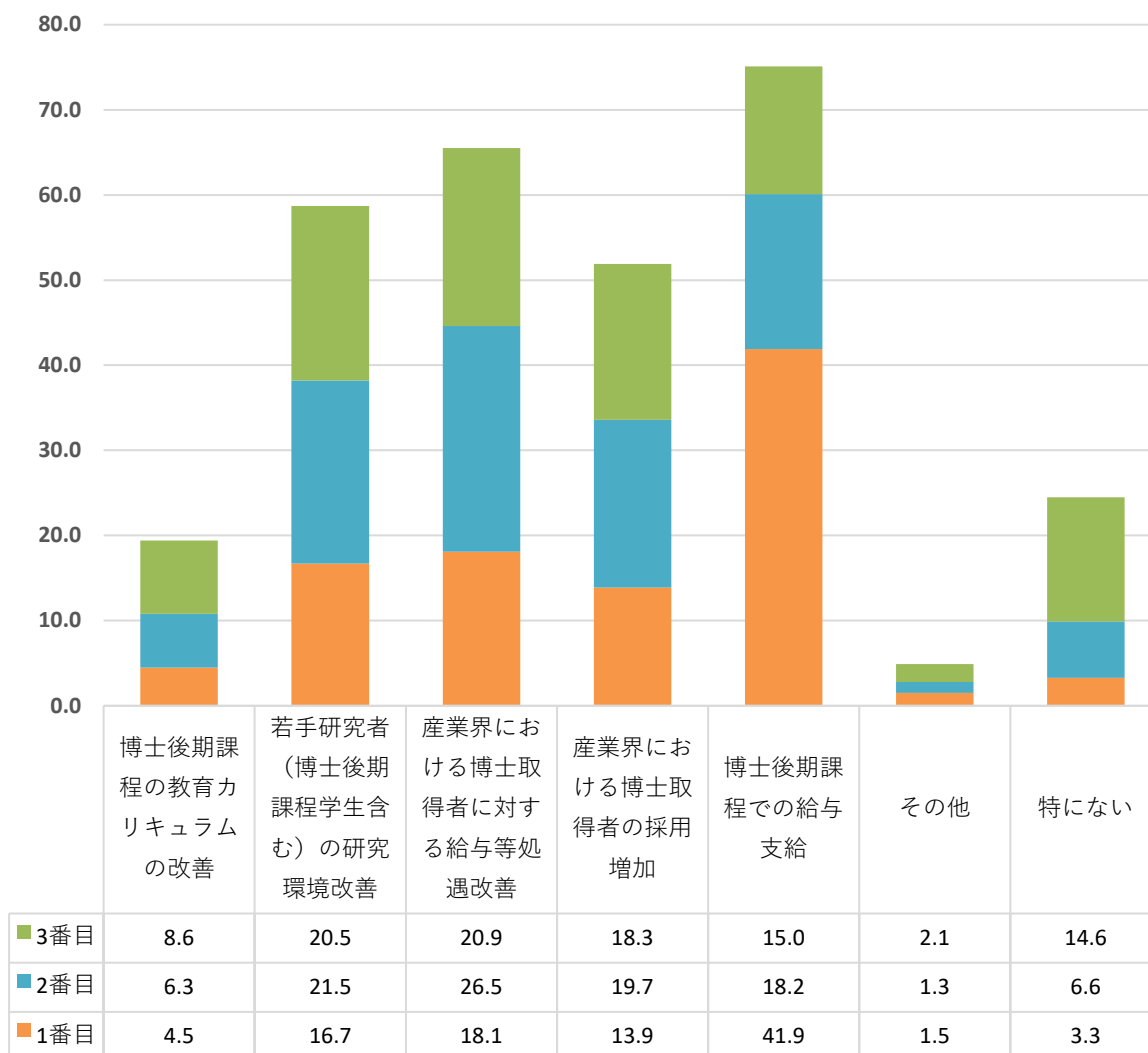
#### <雇用環境>

- 民間企業での博士課程修了者の無期雇用の採用実績が向上すること
- 博士課程修了後の社会経済的地位がより安定的な社会になること
- 外国人なので、製薬会社などの研究職と開発職は内定されない
- 公務員などにおいても学位を元にした賃金条件の見直しがある
- 多様なロールモデルが数多く輩出されること
- 国や地方公共団体において、博士課程修了を条件とする任用や配置等の専門職の道が用意されること
- 博士課程に進学しながら働けるような企業が増えること
- 大学での女性の働きやすさが改善されること
- 文系の研究への理解。企業で文系の研究をすることに理解が得られにくい。
- 企業の人事部に博士後期課程出身者がいること
- 仕事を継続しながらの進学は時間の確保が困難となるため、民間病院の勤務条件や待遇等の改善・検討が必要

## 12-2 博士課程進学者増加のための政策

博士課程の魅力を高め、博士課程進学者を増加させるために効果的な施策について上位3つを尋ねたところ、1番効果的だと思う施策は「博士後期課程での給与支給」が最も高く、次いで「産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善」、「若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善」、「産業界における博士取得者の採用増加」の順となった(図12-3)。その他の自由記述回答では、「給付型奨学金の採用数・給付額増加」、「奨学金返還免除や授業料免除の拡充」、「博士前期課程での給与支給」等経済的支援の手段、範囲の拡大を求める意見が多く寄せられた。また、「就労しながら博士号を取得する手段の拡大」、「仕事との両立ができるカリキュラム編成」等、働きながら研究や学業を続けるための環境整備を求める意見も多く見受けられた。

図12-3 博士課程進学者増加のために重要な政策



また、博士課程進学者増加のために重要な政策として「その他」に挙げられた内容について下記の通り整理した。

#### 【経済的支援】

- 修士課程からの給与支給/奨学金支給
- 博士課程の授業料の無償化
- 博士課程学生への給与・奨学金支給の内定時期を早める
- 海外渡航費や論文掲載費などの金銭的援助
- 修士課程論文や博士課程論文の出版化の支援(必要経費及び編纂など)
- 学費や留学の経済的支援
- 給付型奨学金の採用数・給付額増加
- 学費が低くなること。進学するとなるとやはりお金がかかり、親への負担を考えると進学ではなく就職を選んでしまうと考えられる
- 修士課程で得られる奨学金・フェローシップが少なすぎるので、博士以前に修士にすら辿り着けないので、修士課程の経済状況を改善してほしい
- 奨学金返還免除や授業料免除の拡充
- 日本学生支援機構の給付型奨学金の対象に修士・博士課程を加える
- Funding for students who have financial limitations
- Providing PhD programs as full-time work opportunity (like systems found in Europe e.g., Netherlands)

#### 【教育・研究】

- 海外の同業者との繋がり
- 海外留学(研究員、インターン等)がし易くなること
- 交換留学など研究室という閉鎖された空間ではなく外で研究しやすくなる制度の拡充
- 就職に直結する、企業との共同研究
- 主任指導教員以外とのコンスタントな共同研究
- 修士課程での研究・進路に関するサポートの充実
- 博士課程を出た後のポストに関する支援
- 学部生と院生(博士課程)の積極的な交流または情報交換
- 博士後期課程修了後に民間企業で活躍している方たちの話を聞く機会
- 企業と研究室の交流の機会を増やす
- 社会に利益還元する大学院の取り組みを行なう(企業とコラボレーションし社会貢献等)
- ビジネススキル、コミュニケーションスキルのプログラム実施
- 博士課程学生に実務に役立つ能力を身に付けさせる
- 希望する講義を”大学院横断的に選択及び受講”できるような制度見直し
- 研究室という閉鎖的環境でのハラスメント、いじめなどをなくすこと
- 博士課程学生に向けたメンタルヘルス対策の充実
- 仕事との両立ができるカリキュラム編成
- 指導教員依存の博士課程プログラムの改善
- 全ての教員が教育学、指導方法を学ぶ
- 研究室という閉鎖的環境でのハラスメント、いじめなどをなくすこと
- 起業環境の整備
- 博士課程進学後の具体的キャリアの提示。具体的にどこの大学や企業にいて、こんなポストがあるという情報の開示
- 医療の国家資格を持っている場合に、研究と臨床経験を同時に進行できる制度



- 海外大学院への進学支援制度の構築
- 全国の大学病院で大学院生の無給医問題が完全に解消されること
- A program to help foreign researchers with finding residence and help with bureaucracy
- creating a better accommodation environment for foreign students, i.e., provide more available dormitories, move dormitories to more convenient location
- Improving the inter-university research network to help candidates find advisors

#### 【社会人学生への支援】

- 就労しながら博士号を取得する手段の拡大
- 働きながらも通信制や定時制のように院に通うことが出来る制度
- 社会人大学院生をHUBにして、大学院と就労先との産学連携や共同ベンチャー設立を促す企業への税制優遇または研究成果実現へむけた支援者と費用給付施策

#### 【雇用環境(アカデミア)】

- 安定的なアカデミックポストの整備と拡充
- 国立研究機関における研究ポストの拡充
- 博士課程修了後の任期なしのアカデミックポストの増加
- 女性研究者の働きやすさ改善
- 博士課程修了者が大学に残って研究し続けられる環境の整備

#### 【雇用環境(民間、公共部門)】

- 働きながら博士後期課程に進学できる経済的、時間的支援
- 会社を辞めずに大学院に通うことのできる制度の確立
- 政府や国家/地方自治体機関職員に博士課程修了者を多く採用する事
- 国立研究所等、公務員としての研究者のポストを増やす
- 専門性を生かせる職種の増加(公務員も含む)
- 博士課程に進む者が在籍する中小企業への支援
- 小中教員が生活を維持しながら研究者になれる課程の拡充
- 場所に縛られすぎない働き方ができるシステム作り
- 企業やベンチャーとの交流の機会の増加
- Increasing collaboration between university and industry
- 年齢によって就職が不利になるような状況を改善すること。現在は経済的理由で博士後期課程への進学を諦めている学生が少なからずおり、そうした学生が社会人になってから自らのキャリアを考えた時に、仕事を辞めて再就職するのは大きなリスクとなっている
- 日本の企業の意識の改革(コスト削減のために研究費の削減を勧めるなど目先の利益優先ではない持続的な開発ができるような環境を整えて欲しい)

#### 【その他】

- 理系出身の政策立案者(官僚・会社役員など)の増加
- 小学校の科学教育を強化する
- 幼少期の科学教育の支援
- 地方在住者や遠隔居住者がリモートで学位を取れるようになる環境の整備
- リカレント教育への支援(休復職がしやすいこと、経済的な心配がないことなど)
- Provide dormitory near university

### 13. 自由記述より

本調査では調査票の最後に自由記述欄を設けており、数多くの意見が寄せられた。集計結果のみでは得られない回答者の生の声の代表的なものを抽出し、「政策」、「研究」、「教育」、「雇用」、「社会人」、「女性」、「経済支援」、「コロナの影響」、「本アンケートについて」のカテゴリごとに整理した。回答者の生の声を伝えるため、記載をそのまま掲載している。

#### 【政策】

- 博士課程の進学を推進するだけでなく、企業に在籍しながら社会人博士を取る方々を支援するために企業への支援も是非検討頂きたいです
- 博士課程の待遇があまりに悪く、人材が海外の待遇の良い研究機関に流出していると感じています。このため、経済的な面での支援を中心に政策を検討して下さると大変うれしく思います
- 政府にアンケートの調査の結果をもとに、適切な行動を速やかに始めて深刻な問題を解決してほしいです
- 修士、博士進学、在籍者は経済的に困窮する方が多いと聞きます。政府として支援金や特別給与などを行い、少しでもお金をかけ、学生を助け、科学技術の進歩につなげてほしい
- 現状はやはり国内のアカデミアに残るより、企業研究へ行くか海外の研究室へ行くかを選ぶ方が、環境的にも金銭的にも良いと考える。政府が資金をアカデミアにもっと投資しないと、日本の研究力は低下の一途を辿るのみ
- 文科省の博士課程の環境を改善しようという意思が感じられ、大変嬉しく思います。アンケートを活用し結果が還元されることを期待しております

#### 【研究】

- 優秀な人ほど日本の博士課程やアカデミアでは稼げないと察して逃げてしまう現状による日本の将来的なアカデミックレベルの衰退を懸念しています
- 海外への技術流出や頭脳流出などの原因の一つに博士課程や研究職の待遇の悪さや実学重視の社会の空気があるように思います
- 日本は技術や研究に対して資金を出し過ぎのような気がします。このままでは優秀な研究者がどんどん海外に逃げていくのでは無いでしょうか
- 優秀な研究者が海外に流出している現状を踏まえて、まず、既存の優秀な研究者を国内に囲い込むことそして、彼ら彼女らが国内に留まりうるための経済的支出(研究費+給与)を惜しまないこと。次世代の研究者が育つ環境を整えること。
- 博士課程での経済的な事情ばかり取り沙汰されているが、研究室におけるハラスメント行為やそれに類する行為が横行していることが最も問題だと思う。研究室はクローズドな社会であるため、教授が無自覚に学生を傷付けても明らかにならない
- 修士の段階で実績を出すのは本人の能力よりも研究分野や研究室の環境が左右する

## 【教育】

- 医師の博士課程への進学方法の柔軟性を高めてほしいです。臨床研究医コースは魅力的ですが、effort の 50%以上を研究に充てるとなると外科領域の科では中々難しいと思われま
- 教職大学院を増やし、教育学研究科を減少させていくのは如何なものかと思ひます。高等学校などでは教科ごとの教育学など専門的知識を得ることが必要。再検討を願ひます
- 薬学部に関して 6 年制は失敗だったと思ひます。薬剤師として地位や給与が上がるわけでもなかったため、4 年制のままだった方が博士課程進学者は多かつたと思ひます
- 医学部は構造的に研究医が生まれにくくなつて思ひます。統計的な裏付けがなく申し訳ありませんが、医学部に入学する人間の 6 割ほどが医者家系と思われま。彼らは親の跡を継ぐためおおよそ臨床医になります。2 割ほどは奨学金を借りて居るため臨床医になります。残りは医学部を奨学金なしで卒業できて医者とは関係ない裕福な方です。どういった人が研究医になつて居るのか疑問に思ひます
- ビジネススクールと呼ばれるところの内容と質が大学によって、かなり差があることに疑問を感じて居ます。修士の学位なのに、修士論文を作成して居ない大学による MBA と、修士論文を作成して通つて居る MBA が同等に扱われるのは不自然です。文科省での承認など、海外 MBA と同等になるような厳しさを持って対応いただくことを検討いただきたい次第です

## 【雇用】

- 企業の硬直した採用制度(一括採用、学歴重視、新卒重視)を改めないかぎり、博士を取り巻く環境は厳しい。中途採用を増やし、年功序列を廃すことで、30 歳手前から働き始めても不利にならないと思へることが大事である
- 修士課程・博士課程人材が評価されるためには、産業界が博士課程を活用する土壌が不可欠かと思ひます
- 大学教員の採用に関して年齢制限を設けず、実務家教員の育成にも力を入れてほしいと思ひます
- 修士課程を修了して企業就職することを決めたが、学士卒と修士や博士卒とで、それほど給与に変化がない現実に直面した。給与はそれすなわち労働者に対する期待・評価だと思ひるので、新卒学生に対する給与の現実は、社会的な修士、博士卒の学生に対する期待や評価が低いことを裏付けて居るように思われる
- 修士生が博士課程に進学するかどうかは所属する教授やポスドクの方々の姿が一番影響して居ると思ひます。博士取得者のアカデミックにおける待遇が改善され、今よりも給与や労働環境が魅力的な職にならなければ、博士課程進学者を増加させることは難しいと思ひます
- 文系分野の研究であっても働きながら研究できる仕組みを企業に推進してほしいと思ひます。企業にとつても有益と考えま
- 博士後期課程卒業後の進路が不安で進学を断念し、民間企業への就職を決めた。進路の不

安がなければ博士後期課程に進学する割合も増えるのではないかと考える

- 人文社会科学専攻の場合修士課程ならまだ民間就職ができるが、博士課程進学を選択すると途端に難しくなる。これでは富裕層しか博士課程に進学しないであろう
- 企業の博士号取得者への待遇が改善しないと、日本での博士課程進学者は増えないか海外に行ってしまうと思います
- 医学分野における無給医という現象には大変心苦しい思いです
- 現在の文系、学部卒が中心の企業・官公庁では、博士取得者の能力や専門性の評価すら難しい気がします
- Career options are extremely limited for foreign students in Japan. in Academia it is almost impossible to compete with Japanese students who already know the ins and outs of the university systems and already develop deep relationships with professors who will hire them immediately after graduation.

#### 【社会人】

- 社会人入学というだけで、全ての奨学金や支援の対象外となる現実に、この先を思い描くことができませんでした。どうか、多様性に柔軟に対応していただける制度をご検討頂きたいです
- 研究課題や社会的な課題への意識は、社会に出ずに進学する若者よりも、社会人が多く抱えているので、その社会人が考える具体的な課題を解決するための研究に対する支援は公益性が高いと思います
- 地方公務員であっても博士課程に対する給与の支援、業務免除の制度を整えば、より多くの地方公務員が博士課程へ進学し素晴らしい研究成果をあげることができると思います。国家公務員のような制度が地方公務員にもあれば良いと思います
- 教育の世界の話になりますが、現職のまま修士に行くことは非常に意義深く、促進されるべきだと思います。ストレートマスターでは現場の感覚がないため、教育現場の実践研究が進みません
- 経営学を学んだ私としては、社会人を経験してから大学院へ進んだのは得るものが大きかったと感じます。土日の通学や、研究費の優遇は社会人としては重要だと感じました
- 進学したくても出来ない学生がたくさんいます。私も社会人になってから、お金を貯め、社会人入試で進学しました
- 若手に留まらず、実務家の経験からの研究にも期待してほしい。
- リカレント教育の進展などもあり、シニア(60歳以上の高齢者含む)の研究活動への支援や、シニア研究者の活用なども重要な課題だと思われます。若手とシニアのコラボが日本に残された数少ないチャンスかもしれません
- 働きながら大学院に通学する社会人学生として、奨学金や授業料減免制度の基準が、若い学生と同じなので審査上不利になっていると感じます

- 社会人と並行して通学できる大学院(夜間)などが少ない
- 社会人に対する経済的援助(奨学金等)が限定的であるため、研究活動(または専門知識の修得)をさらに継続して進めることが経済的に困難ともなっているかと思われます

### 【女性】

- 女性研究者を増やそうとする動きをポジティブにみています。しかしながら分野ごとに男女比が違う(電気電子系と生物系等)にも関わらず、単純にすべての学部、学科で女性研究者を増やそうとすると、性別を理由に正しく実力が評価されない可能性があると思っています。
- 博士課程進学は、どちらも年齢的にライフイベントが多くある時期で、男性と女性でまた少し事情が変わってくると思います。例えば男性は給与やその後の任期制が気になるし、女性は結婚出産と博士課程や任期制の時期が重なってその後のポストや業績数にも関係してくることが心配の種です
- 育児や家庭生活を営むことを考えると、学費、研究費は子育てと比べ優先順位が低くなります。(特に女性)博士に進みたくても、今後の子育てにかかる費用を考えると自分に費やすことに億劫になります。もっと支援があれば、学修意欲や選択につながります

### 【経済支援】

- 博士課程に対する支援を拡充しようとする試みはとても良いと思います。しかし、修士課程の学生に対しても金銭面の支援があれば嬉しいと思いました
- 博士課程に行く人達は親がお金を持っているイメージの方々ばかりです。本当は、行きたくてもお金が足りないから諦める人も多いのではないかと思います
- 博士課程は本当に無職とかかわらないです。修士までは親が面倒を見てくれる場合が多いと思いますが、博士まで面倒を見てくれることは少ないのではないのでしょうか
- 博士課程で研究するにあたり、経済的に自立できるシステムになってほしいと思います
- 博士課程後期に進学したかったが、日本学生支援機構からの奨学金が膨大な金額になるため、断念せざるを得なかった
- 海外では PhD student に給与があるのに対し日本では奨学金を取れるか取れないかわからないところで進学を決めなければならない点がアカデミック敬遠の大きな理由になっていると思います
- 大学生と比べて、修士課程や博士課程の方への経済的支援は少ないよう感じます。また、同じ修士課程や博士課程でも、大学からストレートに上がってきた若い方と比べて、社会人から入ってくる方への経済的支援は更に少ないよう感じます
- 博士課程に進学予定ですが、進学にあたって経済的な面で不安が多くあります。学部・修士で奨学金を800万近く借りており、今後もその額が増えることが恐ろしいです。
- 研究には奨学金ではなく、研究給付金が必要。特に私の分野ではフィールドワークを多投す

ることから、就業者といえども経済的に困っており、資金不足による十分な研究活動ができないことがある。ぜひ早急に博士後期課程進学者への研究費支給を検討いただきたい

- 私立の医療系は学費が高く、両親への負担も大きいです。学費補助の制度をもっと多くの人が使えるように拡張してほしいです
- むやみに補助金の政策を増やすなどして博士課程に進学する学生を増やしても、雇用機会や教育機関でのポストがなければ路頭に迷ってしまうと思う。博士課程以降の長期的な選択肢を増やす必要があると思う
- 文系大学院生の社会的受け入れと、研究に対する経済的支援を希望します。研修に必要な資料や文献は全て実費でした。

### 【コロナの影響】

- コロナでほとんどの授業がオンラインでした。学部の卒業式も謝恩会もなく、最近は大学院の謝恩会も中止になりとても残念です
- 修士課程の二年間ずっと新型コロナウイルスの影響で図書館が思うように利用できなかったり、オンライン授業だったりで、普通的情況ではありませんでした
- コロナ禍で学生同士の関わりがほとんど出来ない状態で 2 年間に過ぎてしまった。本来の状況であれば得られた経験・人間関係が得られなかったことは、休職して収入を止めていた上では、とても残念だった
- コロナの環境下において、研究を断念せざるを得ない状況になり、不完全燃焼のまま卒業が決まりました
- 本来は留学をするつもりでしたが、コロナによって留学を断念せざるを得ない状況だったことがとても残念です
- 国際交流・学会経験や研究環境はコロナ禍によって最悪の 2 年間と言わざるを得ませんでしたのでその点はデータ上考慮されることを願います
- この 2 年間はコロナの影響で施設が使用できなかったり横のつながりの授業が中止、実習も一部中止など、やむを得ないが非常に残念なものであった。この 2 年での結果は特殊なものになるのではないかと思います
- 入学直前にコロナ禍に突入した学生であるため、一度も大学院に行き授業を受けていません。直接的な学生交流や教員との面会も全くありません。孤独な通信教育と同等と思う 2 年ほどの学生生活を送りました。本調査にイレギュラーなデータとなるかもしれません
- コロナ禍における研究活動は困難なものがあつた。国立国会図書館、地方公共図書館、大学図書館の利用も通常より制限があつた。修士の学生にも便宜を図ってもらえればよかった
- I am incredibly sad for current ban on arrival of students. I have not been able to enter Japan for almost 15 months which destroyed my education career

### 【本アンケートについて】

- 解答前に解答目安時間があると良い
- 適度な質問量だった。フィードバックまでもらえると回答し甲斐を感じる
- 今回、調査に回答することで、自分が自分の勉強や研究に対してどのように考えているのかを振り返る、良い機会になりました。この調査の結果を、ぜひ良い形で政策に活かしていただきたいと思います
- 修士課程の2年間は最初から最後までコロナ禍だったので、それを考慮した質問であつたらよかつたなと思います
- 学生目線の意見を求める公的アンケートはありそうでなかったものであると感じており、意見を述べる機会をいただけたことを嬉しく思います
- 少数でもよいのでヒアリングなどに基づいて、多い意見を選択肢にしてくれるとうれしい
- 修士課程・6年生学科在籍者へ直接聞き取りを行うことで、より良い方法で日本の研究力を高めようとする取り組みを行うことは今後も必要不可欠であると考えています
- 現場の声を聴こうとくださって感謝いたします。今後も修士や博士課程を経験した方だけではなく、現在進行形で在籍している学生の考えを大切にいただけると嬉しいです
- 実態調査はとてもいい試みだと思う。定期的に内容の見直しを行い、該当学生へアンケートを行ってほしい
- いままで修士課程、博士課程、若手研究者を対象とした調査が少なく、データの拡充や今後アカデミックに関わる人口を増やすために必要な調査だと思いますのでぜひ継続してください
- 単線キャリアが前提の選択肢だが複線キャリアも想定したほうがよいのでは
- 選択形式の解答だけでなく、記述式の回答で、現在の博士課程や研究機関、国の研究機関に対する支援などへの意見を答えられる設問が欲しい
- 社会人学生で平日にあまり研究をしていなかった。休日の研究時間を問う設問が無かつたため研究活動の情報が適切に得ることができないのではないか
- 成果物が完成した際に共有いただきたい
- 「経済的」問題で進学をあきらめる方は多いと思いますので、その方面の設問または意見を聞く項目が多いと更に良いかと思います
- 調査の中に修士課程、博士課程での教科書代やフィールドワークに使用した金額など金銭負担の総額という質問項目を増やしてください。日本にある政府によるものも含んだ給付型奨学金制度は修士課程は特に排除されていることが多く、しかし修士課程の学生は学部生よりも研究のために多くの金銭的負担を強いられています
- These kinds of surveys really help to understand the real situation of students.
- The question was direct and clear, easily answerable

## 14. 課題と展望

本調査は、NISTEP が修士課程修了予定を対象として実施したはじめての悉皆調査「修士課程（6年制学科を含む）修了（卒業）者及び修了（卒業）予定者」を対象とした在籍者調査<sup>15</sup>の2回目となるものである。まずは前回に引き続き全国から1万5千件を超える回答をいただき、現役大学院生の生の声を広くお届けする報告書をまとめる機会をいただいたことに感謝を申し上げたい。また、本調査は修士学生の大学院における教育、研究の実態やキャリア選択、アカデミアへの意識等について幅広く尋ねた包括的なアンケート調査であり、回答する側にもかなりの時間と労力が求められている。今後入学する学生達のため、あるいは日本の研究環境の改善を信じて、修了間近の忙しい時期にもかかわらず時間を割いて調査にご協力下さった大学院生の皆様にも心から感謝を申し上げたい。

今回の調査では、2009年にNISTEPが理系大学院生を対象として実施した「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査」（以後2009年調査報告とする）<sup>16</sup>と同じ設問がいくつか用意されている。「進学ではなく就職を選んだ理由」、「在学中の博士課程への進学検討」、「博士課程への進学を考える条件」などがこれにあたる。2009年調査報告では、進学ではなく就職を選んだ理由は「経済的に自立したい」（93.8%）、「博士課程に進学すると修了後の就職が心配である」（75.5%）、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」（69.5%）などとなっており、10年以上経た現在と回答傾向にほとんど変化がない。また、「博士課程への進学を考える条件」においても「博士課程在籍者に対する経済的支援が拡充する」が最多であり、これについても変化は見られない。つまり、修士学生が博士進学を躊躇する原因の多くが経済的な側面にあるということが2009年には明らかになっていたにもかかわらず、この問題は2022年の現在においても解決されていないのである。

現在文部科学省は博士課程学生を中心とした経済支援拡充に力を注いでいるが、政策担当者の皆様にはぜひこうしたデータにも目を向けていただき、修士課程からの経済支援や就業支援といった施策に取り組んでいただきたいと切に願うものである。

また、自由記述では叱咤激励を含む様々なご意見をお寄せいただいたが、この調査の結果を知りたい、フィードバックがほしいといった声も多く寄せられている。担当者としても本調査の結果を報告書で終わらせることなく、関連研究や広報活動を通じて広く皆様に知っていただく努力を続けていきたいと思う。

最後に、本報告書は大学関係者の皆様や現役大学院生の皆様にもぜひ手に取っていただき、各機関での取組や、御自身のキャリアを考える上での参考としていただければ幸いである。今後日本の研究環境が益々よいものとなっていくよう心よりお祈り申し上げます。

---

<sup>15</sup> 文部科学省 科学技術・学術政策研究所「修士課程（6年制学科を含む）在籍者を起点とした追跡調査(2020年度修了（卒業）者及び修了(卒業)予定者に関する報告)」、調査資料 No.310, 2021年6月

<sup>16</sup> 文部科学省 科学技術政策研究所「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査」調査資料 No.165 2009年3月



## 謝 辞

本調査の実施に際し、お忙しい中多数の質問に対して回答にご協力いただき、また率直な御意見を寄せて下さった大学院生の皆様に、心より感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた大学関係者の皆様、調査実査に御尽力いただいたインテージリサーチ株式会社の皆様にも深く御礼申し上げます。皆様の御蔭で無事本報告書を発行することができました。

調査に御協力いただいた皆さまの労力に報いるためにも、本報告書が研究者や政策担当の皆様にも有効活用され、日本の科学技術・イノベーション政策の立案や研究に少しでも資することを切に願っております。また、今後の調査のための御意見や御要望等がございましたら、ぜひお聞かせいただければ幸いです。

最後に、本調査は今後追跡調査等も実施する予定であるため、皆様から個人情報をお聞きしております。自由記述等においても『個人情報の取り扱いについてくれぐれも注意してほしい』由、承っております。個人情報の取り扱いには十分注意致しますので、引き続き追跡調査への御協力を賜れますよう宜しくお願い申し上げます。

## 参考資料

---

- ウェイト作成について
- 調査票

# 修士課程在籍者調査におけるウェイト作成

## 1 ウェイト作成の方法

修士課程在籍者調査 (以下, 在籍者調査) の回収データは 17,525 人である。一方, 令和3年度学校基本調査において, 修士等課程の2年生は 100,011 人であり, 6年生学部の6年生は 25,017 人となっている。回収データの大きさは, 母集団の大きさ 125,028 人に対して 14.0 %にとどまっている。そこで未回収バイアスの補正を目的として, 母集団情報を利用したキャリブレーションによるウェイト作成 (土屋, 2009<sup>1</sup>) を行った。

母集団情報として用いたのは, 令和2年度および令和3年度の学校基本調査である。在籍者調査と変数の定義が同じと考えられる以下の5つの変数に関してキャリブレーションを行った。各変数の, 在籍者調査と母集団情報との対応の詳細は後述のとおりである。

- 性別×研究分野
- 年齢層
- 学生種別
- 大学グループ
- 大学規模区分

キャリブレーション前のウェイトは, どの回収票についても  $w_i = 125,028/17,525 = 7.134$  ( $i = 1, \dots, 17,525$ ) とし, 乗法関数を用いて, キャリブレーションウェイト  $w_i^c = w_i g_i$  を求めた。

- 乗法関数

$$\sum_{i \in s} w_i \{g_i \log g_i - g_i + 1\} \quad (1)$$

得られたキャリブレーションウェイトの分布は図1の上の箱ひげ図のとおりであり, 極端に大きなキャリブレーションウェイトが得られてしまっている。

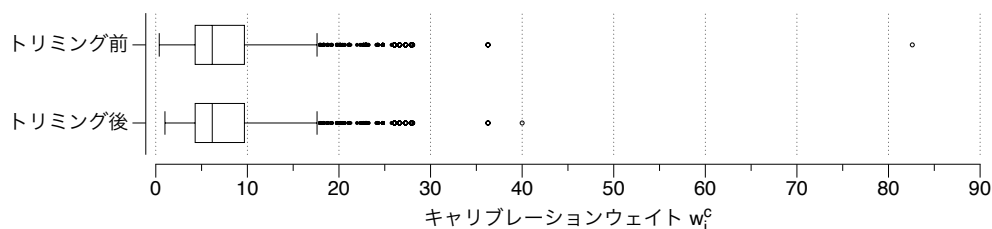


図 1: キャリブレーションウェイトの分布

そこで,  $w_i^c < 1$  のときには  $w_i^c = 1$ ,  $w_i^c > 40$  のときには  $w_i^c = 40$  とトリミングした上で, 全体が  $\sum_s w_i^c = 125,028$  となるよう, トリミングしなかったウェイトについては調整を行った。トリミング後のキャリブレーションウェイトの分布が図1の下である。なお, トリミング前の不等加重効果は  $UWE = 1.3015$  であり, トリミング後の不等加重効果は  $UWE = 1.2960$  である。

<sup>1</sup>土屋 隆裕 (2009) 『概説 標本調査法』, 朝倉書店, 東京。

## 2 ウェイト作成の結果

キャリアブレーションに用いた変数のカテゴリごとの、キャリアブレーション前のウェイト  $w_i$  合計とキャリアブレーションウェイト  $w_i^c$  合計は以下の表のとおりである。

表 1: 性別×研究分野

	人文 男性	社会 男性	理学 男性	工学 男性	農学 男性	医学 男性	保健 男性	家政 男性	教育 男性	芸術 男性	不明 男性
キャリアブレーション前	3,589	8,368	16,209	27,224	3,567	5,850	6,271	7	3,053	835	649
キャリアブレーション後	3,122	11,201	7,973	31,257	3,422	9,927	9,646	40	2,778	909	104

	人文 女性	社会 女性	理学 女性	工学 女性	農学 女性	医学 女性	保健 女性	家政 女性	教育 女性	芸術 女性	不明 女性	合計
キャリアブレーション前	6,342	7,091	6,842	5,094	2,875	3,881	11,101	314	3,339	2,062	464	125,028
キャリアブレーション後	4,691	6,953	2,622	5,401	2,381	4,798	12,804	418	2,686	1,821	75	125,028

表 2: 年齢層

	22歳以下 男性	23歳～27歳 男性	28歳以上 男性	22歳以下 女性	23歳～27歳 女性	28歳以上 女性	6年制	合計
キャリアブレーション前	38,076	18,906	9,717	18,706	12,192	8,476	18,956	125,028
キャリアブレーション後	34,240	25,185	8,061	13,825	12,697	6,000	25,021	125,028

表 3: 学生種別

	課程学生	社会人	留学生	6年制	合計
キャリアブレーション前	69,102	18,456	18,513	18,956	125,028
キャリアブレーション後	71,791	14,156	14,060	25,021	125,028

表 4: 大学グループ

	グループ1	グループ2 国公立	グループ2 私立	グループ3 修士	グループ3 6年制	合計
キャリアブレーション前	10,808	16,138	6,200	75,716	16,166	125,028
キャリアブレーション後	14,152	19,225	7,712	62,280	21,659	125,028

表 5: 大学規模区分

	国立 重点支援①	国立 重点支援②	国立 重点支援③	公立	私立 100人未満	私立 500人未満	私立 1,500人未満	私立 1,500人以上	合計
キャリアブレーション前	28,294	4,487	27,916	7,955	24,306	15,003	13,855	3,210	125,028
キャリアブレーション後	34,893	4,558	23,406	7,933	22,687	12,261	13,532	5,758	125,028

キャリアブレッションに用いた変数ごとの、最終的なキャリアブレッションウェイトの分布は図2のとおりである。

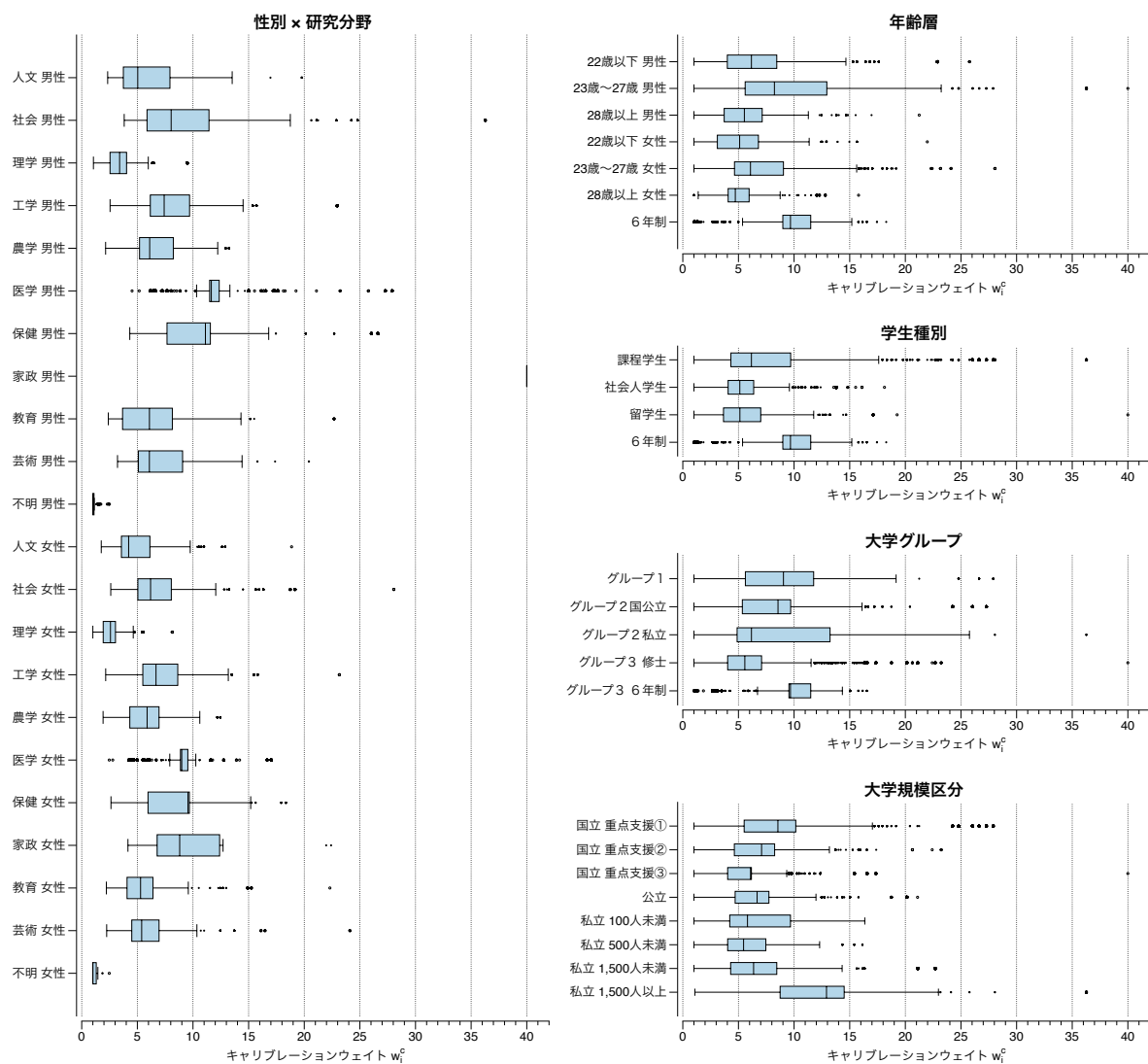


図2: キャリアブレッションウェイトの分布

## 2.1 各変数の定義

### 2.1.1 性別×研究分野

在籍者調査の性別は Q2 による。また、在籍者調査の研究分野は Q10 による。在籍者調査における研究分野と学校基本調査における研究分野の対応は、第3節の表6のとおりである。

### 2.1.2 年齢層

在籍者調査の年齢層は、2019 から Q3 の生年を引いて求める。学校基本調査の年齢層は、令和2年度学校基本調査における入学者の入学時の年齢を用いる。

### 2.1.3 学生種別

在籍者調査の Q7 が「6 年制学科」は「6 年制」とする。Q4 国籍が「日本」以外は「外国人学生」とする。Q14 社会人経験が「ある」は「社会人」とする。残りは「課程学生」とする。

### 2.1.4 大学グループ

グループ 1： 東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学

グループ 2 国公立： 北海道大学、筑波大学、千葉大学、東京工業大学、金沢大学、名古屋大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学

グループ 2 私立： 慶應義塾大学、早稲田大学、日本大学

グループ 3 修士： 上記以外の全ての大学、不明の修士課程等

グループ 3 6 年制： 上記以外の全ての大学、不明の 6 年制学部

### 2.1.5 大学規模区分

国立 重点支援①： 北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、東京農工大学、東京工業大学、一橋大学、金沢大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学

国立 重点支援②： 筑波技術大学、東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京学芸大学、東京芸術大学、東京海洋大学、お茶の水女子大学、電気通信大学、奈良女子大学、九州工業大学、鹿屋体育大学、政策研究大学院大学、総合研究大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学

国立 重点支援③： 上記以外の国立大学

公立： 公立大学

私立 100 人未満： 修士課程在籍者数が 100 人未満の私立大学

私立 500 人未満： 修士課程在籍者数が 100 人以上 500 人未満の私立大学

私立 1,500 人未満： 修士課程在籍者数が 500 人以上 1,500 人未満の私立大学

私立 1,500 人以上： 修士課程在籍者数が 1,500 人以上の私立大学

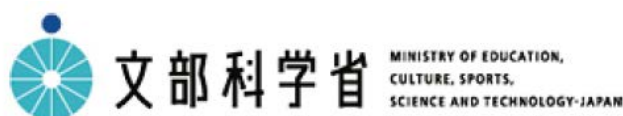
### 3 資料

以下の表6は、在籍者調査における分野と学校基本調査における分野の対応表である。

表 6: 分野の対応表

修士在籍者調査		学校基本調査	
対応のためのコード		対応のためのコード	
C	1 [理学] 数学		人 文 科 学
C	2 [理学] 情報科学	A	文学
C	3 [理学] 物理	A	史学
C	4 [理学] 化学	A	哲学
C	5 [理学] 生物	A	その他
C	6 [理学] 地学		社 会 科 学
C	7 [理学] その他 (分類不能を含む)	B	法学・政治学
D	8 [工学] 機械・船舶	B	商学・経済学
D	9 [工学] 電気・通信	B	社会学
D	10 [工学] 土木・建築	B	その他
D	11 [工学] 応用化学		理 学
D	12 [工学] 応用理学	C	数学
D	13 [工学] 原子力	C	物理学
D	14 [工学] 材料	C	化学
D	15 [工学] 繊維	C	生物
D	16 [工学] 航空	C	地学
D	17 [工学] 経営工学	C	原子力理学
D	18 [工学] その他 (分類不能を含む)	C	その他
E	19 [農学] 農学		工 学
E	20 [農学] 農芸化学	D	機械工学
E	21 [農学] 農業工学	D	電気通信工学
E	22 [農学] 農業経済	D	土木・建築工学
E	23 [農学] 林学	D	応用化学
E	24 [農学] 林産学	D	応用理学
E	25 [農学] 獣医・畜産	D	原子力工学
E	26 [農学] 水産	D	鉱山学
E	27 [農学] その他 (分類不能を含む)	D	金属工学
F	28 [保健] 医学	D	繊維工学
G	29 [保健] 歯学	D	船舶工学
G	30 [保健] 薬学	D	航空工学
G	31 [保健] 看護	D	経営工学
G	32 [保健] その他 (分類不能を含む)	D	工芸学
A	33 [人文] 文学	D	その他
A	34 [人文] 史学		農 学
A	35 [人文] 哲学	E	農学
A	36 [人文] その他 (分類不能を含む)	E	農芸化学
B	37 [社会] 法学・政治	E	農業工学
B	38 [社会] 商学・経済	E	農業経済学
B	39 [社会] 社会学	E	林学
B	40 [社会] その他 (分類不能を含む)	E	林産学
A	41 [その他] 心理学	E	獣医学畜産学
H	42 [その他] 家政	E	水産学
I	43 [その他] 教育	E	その他
J	44 [その他] 芸術・その他		
K	45 [不明] 不明		
K	99		

調査票(2021年度修士課程修了予定者)案  
Japan Masters Students Profiling (JM-Pro)



\*\*\*\*\* 本調査のねらいと概要 \*\*\*\*\*

我が国では、大学院修士課程を修了される方が約7万5千人、大学院博士課程を修了される方が約1万5千人、おられます。しかし、科学技術イノベーションの重要な担い手である大学院修士課程及び博士課程を修了された皆様のキャリアパスが不透明であることが、科学技術基本計画等において指摘されております。科学技術・学術政策研究所(NISTEP)では、今回、修士課程修了者の皆様のキャリアパスを把握することを目的に「修士課程修了者追跡調査」を実施します。本調査は、2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)に修士課程を修了する予定の方全員を対象にしており、修士課程に進学した理由、修士課程における経済的支援状況、修士課程修了後の進路状況等の把握を目的としております。調査の負荷軽減の工夫、個人情報保護には万全を期すよう努めておりますので、御協力戴きます様、宜しくお願い申し上げます。なお、本調査結果については、報告書の刊行と同時にNISTEPのホームページに掲載する予定です。

- 調査に対して、ご意見やご提案がありましたら、最後の設問にご記入ください。
- X月X日(X曜日)までに御返送下さい。

■個人情報の取り扱いについて

(1)利用目的

本調査により回答いただいた個人情報を、以下のために利用します。

- i. 大学院修了後のキャリアの追跡
- ii. 大学院における活動及び職業等の状況に関する調査・分析・学術研究
- iii. 大学院における活動及び職業等の状況に関する統計の作成
- iv. 大学院修了者が活躍するための政策立案
- v. i からivに関する各種調査、依頼、情報提供のための通信・連絡

※収集したデータは統計的に処理され、個人が特定されるような情報は一切公開されません。

(2)安全のための措置

文部科学省は、個人情報について、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律、その他関係する法令に基づき、適切に取り扱うものとし、個人情報の漏えい、滅失又はき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じるものとします。

(文部科学省科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ)

※この調査は、NISTEPより委託を受けてXXXが実施しております。



Q1 あなたの性別を選択してください。(回答は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

Q2 あなたの生まれた年を西暦でお答えください。(回答は半角数字で入力)

西暦( )年
--------

Q3 あなたの国籍・地域を選択してください。(回答は1つ)

1 日本	12 タイ
<北・中・南米>	13 インドネシア
2 アメリカ合衆国	14 ベトナム
3 カナダ	15 バングラディッシュ
4 ブラジル	16 マレーシア
<欧州(ヨーロッパ)>	17 インド
5 フランス	<オセアニア>
6 ロシア	18 オーストラリア
7 ドイツ	<アフリカ>
8 イギリス	19 エジプト
<アジア>	20 ケニア
9 中国	<その他>
10 台湾	21 その他 国名:( )
11 韓国	

Q4 あなたが在籍している大学院(修士課程)の種別を選択してください。

1 国立	3 私立
2 公立	

Q5 あなたが在籍している大学院(修士課程)をご記入下さい。

大学院名	
------	--

Q6 あなたが在籍している研究科(修士課程)をご記入下さい。

研究科名	
------	--

Q7 あなたの出身大学(学部)についてご記入ください。

1 修士課程と同じ大学
2 修士課程とは違う国内の大学

3 修士課程とは違う国外の大学

4. その他(具体的に:)

Q8 修士課程在籍時のあなたの研究分野に最も近いものを、以下から選択してください。(回答は1つ)

<p>&lt;分類:理学&gt;</p> <p>1 数学</p> <p>2 情報科学</p> <p>3 物理</p> <p>4 化学</p> <p>5 生物</p> <p>6 地学</p> <p>7 その他理学 (分類不能を含む)</p> <p>&lt;分類:工学&gt;</p> <p>8 機械・船舶</p> <p>9 電気・通信</p> <p>10 土木・建築</p> <p>11 応用化学</p> <p>12 応用理学</p> <p>13 原子力</p> <p>14 材料</p> <p>15 繊維</p> <p>16 航空</p> <p>17 経営工学</p> <p>18 その他工学 (分類不能を含む)</p>	<p>&lt;分類:農学&gt;</p> <p>19 農学</p> <p>20 農芸化学</p> <p>21 農業工学</p> <p>22 農業経済</p> <p>23 林学</p> <p>24 林産学</p> <p>25 獣医・畜産</p> <p>26 水産</p> <p>27 その他農学 (分類不能を含む)</p> <p>&lt;分類:保健&gt;</p> <p>28 医学</p> <p>29 歯学</p> <p>30 薬学</p> <p>31 看護</p> <p>32 その他保健 (分類不能を含む)</p>	<p>&lt;分類:人文&gt;</p> <p>33 文学</p> <p>34 史学</p> <p>35 哲学</p> <p>36 その他人文 (分類不能を含む)</p> <p>&lt;分類:社会&gt;</p> <p>37 法学・政治</p> <p>38 商学・経済</p> <p>39 社会学</p> <p>40 その他社会 (分類不能を含む)</p> <p>&lt;分類:その他&gt;</p> <p>41 心理学</p> <p>42 家政</p> <p>43 教育</p> <p>44 芸術・その他</p> <p>&lt;不明&gt;</p> <p>45 不明</p>
--	---	--

Q9 修士課程の入学年月及び修了予定年月を西暦でご記入下さい。(回答は半角数字で入力)

西暦( )年( )月から

西暦( )年( )月予定

Q10 あなたが修士課程に進むことを決めたのはいつ頃でしたか

- 1 学部入学前
- 2 学部入学後
- 3 学部2回生の時
- 4 学部3回生の時
- 5 学部4回生の時



親、実家等からの仕送り	( )万円	TA,RA などの学内業務	( )万円
アルバイト(時給)	( )万円	奨学金(貸与含む)	( )万円
給与(月給)	( )万円	その他	( )万円

Q17 修士課程在籍中、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)の経験はありますか。(回答は1つ)経験がある方は、1年間のTA、RAへの従事時間を整数で入力してください。入力でない場合(裁量労働制の場合等)には、「-(ハイフン)」で入力してください。

1 TA	( )時間	3 TA,RA の経験はない
2 RA	( )時間	

Q18 【TA業の経験があると回答した者】あなたのTA業務の内容について下記の選択肢から該当するものをすべて選択してください。

1 実験・実習の準備	6 レポートや課題・試験などの採点・評価
2 実験・実習時の学生への指導・助言	7 授業等への出席の記録
3 学生への講義の実施	8 学生からの質問対応
4 教育の講義のサポート	9 その他(具体的に: )上
5 セミナーや演習などのコメント・指導	

Q19 修士課程において、授業料減免措置を受けていましたか。受けていた場合は金額をお答えください。(回答は半角数字で入力)

1 減免措置を受けていた	総額( )万円
2 減免措置を受けていなかった	

Q20 修士課程修了時に、返済義務のある奨学金、借入金がありますか。ある場合は総額をお答えください。(回答は半角数字で入力)

1 ある	総額 ( )万円
2 ない	

Q21 修士課程在学中に、査読付きの論文は何本ありますか。またそのうち、国際共著論文は何本ありますか。(回答は半角数字で入力)

査読付き論文	( )本
国際共著論文	( )本

Q22 修士課程修了直後の進路について記入してください。

1 博士課程への進学
------------

- |   |                  |
|---|------------------|
| 2 | 博士課程進学準備         |
| 3 | 就職(起業を含む)        |
| 4 | 未定               |
| 5 | その他(具体的に: _____) |

Q23 【博士課程へ進学される方及び博士課程進学の準備を選択された方】博士課程への進学に際して、以下の項目の影響について当てはまるものを選択してください。(回答はいくつでも)

- |    |  |
|----|--|
| 1  | 修士課程での研究を深堀したい                               |
| 2  | 専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行いたい                 |
| 3  | 高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うため |
| 4  | 指導教授から進学を進められた                               |
| 5  | 将来、大学や研究機関で教育・研究職として働きたい                     |
| 6  | 将来、研究機関や企業で研究・開発者として働きたい                     |
| 7  | 新たな知識の発見を通じて、社会貢献をしたい                        |
| 8  | 将来的に良い収入を得たい                                 |
| 9  | 博士号の肩書を取得したい                                 |
| 10 | 研究を通じて後世に名前が残る仕事をしたい                         |
| 11 | 就職活動をしたが、希望通りにいかなかった                         |
| 12 | 就職する時期を先に延ばしたい                               |
| 13 | 5年一貫制である                                     |
| 14 | その他(具体的に: _____)                             |

Q24 【3. 就職される方】就職先業種を教えてください。

- |   |               |    |                     |
|---|---------------|----|---------------------|
| 1 | 農林水産業         | 10 | 不動産業、物品賃貸業          |
| 2 | 鉱業            | 11 | 学術研究、専門・技術サービス業     |
| 3 | 建設業           | 12 | 宿泊業、飲食サービス業         |
| 4 | 製造業           | 13 | 生活関連サービス業、娯楽業       |
| 5 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 14 | 教育、学習支援業            |
| 6 | 情報通信業         | 15 | 医療、福祉               |
| 7 | 運輸業、郵便業       | 16 | サービス業(他に分類されるものを除く) |
| 8 | 卸売業           | 17 | 公務(他に分類されるものを除く)    |
| 9 | 金融業、保険業       | 18 | その他 具体的に:( _____ )  |

Q25 【3. 就職される方】主な仕事は何ですか。最も当てはまるものを一つ選んでください。

- |  |  |
|--|--|
| 1 管理的公務員   | 29 著述家、記者、編集者                          |
| 2 法人・団体役員  | 30 美術家、デザイナー、写真家、映像撮<br>影者             |
| 3 法人・団体管理職員  | 31 音楽家、舞台芸術家、俳優等                       |
| 4 その他の管理的職業従事者   | 32 その他の専門的職業従事者(図書館<br>司書、学芸員、カウンセラー等) |
| 5 研究者(自然科学系)   | 33 一般事務従事者(庶務事務員、人事<br>事務員、受付、秘書)      |
| 6 研究者(人文科学系)   | 34 会計事務従事者(経理事務員等)                     |
| 7 農林水産技術者  | 35 生産関連事務従事者                           |
| 8 製造技術者(開発)  | 36 営業・販売事務従事者                          |
| 9 製造技術者(開発を除く)   | 37 外勤事務従事者(集金人、調査員)                    |
| 10 建築・土木・測量技術者   | 38 運輸・郵便事務従事者                          |
| 11 情報処理・通信等技術者(システム管<br>理者、通信ネットワーク技術者)                | 39 事務用機器操作員                            |
| 12 医師  | 40 商品販売・営業職・販売類似職業従<br>事者(小売店主、販売員等)   |
| 13 歯科医師  | 41 家庭生活支援・介護サービス職業従<br>事者              |
| 14 獣医師   | 42 保健医療・生活衛生サービス職業従<br>事者              |
| 15 薬剤師   | 43 飲食物調理、接客従事者                         |
| 16 保健師、助産師、看護師   | 44 居住施設・ビル等管理人                         |
| 17 医療技術・保健医療従事者(診療放射<br>線技術師、理学療法士、歯科衛生士、栄<br>養士、はり師等) | 45 その他サービス職業従事者                        |
| 18 社会福祉専門職業従事者(保育士、<br>福祉相談指導等)                        | 46 自衛官・司法警察職員、その他の保安職<br>業従事者          |
| 19 法務従事者(裁判官、弁護士、司法<br>書士他)                            | 47 農・林・漁業技術者                           |
| 20 経営・金融・保健専門職業従事者(公<br>認会計士、税理士、社会保険労務士<br>等)         | 48 生産設備制御・機械組立設備制御・監<br>視従事者           |
| 21 経営・業務コンサルタント  | 49 製品製造・加工処理・機械組立・整<br>備・修理従事者         |
| 22 学校教員(幼稚園) 特別支援等学校<br>含む                             | 50 製品・機械検査・生産関連・生産類似作<br>業従事者          |
| 23 学校教員(小・中学校) 特別支援等学<br>校含む                           | 51 鉄道・自動車・船舶・航空機運転・そ<br>の他輸送事業者        |
| 24 学校教員(高等学校) 特別支援等学<br>校含む                            | 52 定置・建設機械運転・建設・電気・土<br>木工事従事者         |
| 25 学校教員(高専、短大)   | 53 その他                                 |
| 26 学校教員(大学、大学院)  |  |
| 27 その他の教員  |  |
| 28 宗教家   |  |

Q26 【就職される方】就職先を選ぶ際に、下記のうち重視した(重視する)事項を選んでください。(回答はいくつでも)

- 1 自分の専門知識や技能を仕事に活かせる
- 2 研究職として働くことができる。
- 3 自分の適性に合う仕事ができる
- 4 就職(起業)先に優秀な人材が集まっている
- 5 研修や留学などの教育制度が整っている
- 6 昇進の可能性がある
- 7 就職(起業)先機関が成長する可能性が高い
- 8 就職(起業)先機関の国際競争力が高い
- 9 仕事の社会的貢献度が大きい
- 10 従業員数や売上高など就職(起業)先機関の規模が大きい
- 11 定年まで働ける
- 12 給与が高い
- 13 福利厚生が整備されている
- 14 就職(起業)先機関の立地がよい
- 15 仕事の拘束時間が短い
- 16 仕事上のストレスの程度が低い
- 17 その他(具体的に:)

Q27 【就職される方】就職先をどのように見つけましたか。以下の中から、当てはまるものを選択してください。(回答は1つ) ※インターネットを利用したものも含まれます。

- 1 大学院(指導教員からの紹介等)
- 2 縁故(友人・知人等を含む)
- 3 ハローワーク等の公的機関※
- 4 エージェント等の民間の職業紹介機関(大学院を除く)※
- 5 就職情報サイト・求人情報専門誌・新聞・チラシ等
- 6 機関のホームページ
- 7 機関訪問
- 8 起業
- 9 その他(具体的に: )

Q28 【就職される方】博士課程への進学ではなく就職を選ぶ際に、以下の項目の影響について当てはまるものを選択してください。(回答はいくつでも)

- 1 社会に出て仕事がしたい
- 2 経済的に自立したい

- 3 大学より企業の研究環境の方がよい
- 4 社会人入学制度を利用すればいつでも博士課程に進学できる。
- 5 大学教員などの仕事に魅力を感じない。
- 6 研究室環境が好ましくない(競争が激しい、ストレスが多い、過酷等)
- 7 現在の成績では博士課程への編入学・進学は難しい。
- 8 博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない。
- 9 博士課程の進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪い
- 10 博士論文に値する研究テーマが見つけれられない
- 11 博士課程に進学すると修了後の就職が心配である。
- 12 その他(具体的に:)

Q29 【就職される方】あなたはいずれ博士課程に進学したいと思いますか

- |        |              |
|--------|--------------|
| 1 思う   | 3 どちらともいえない  |
| 2 思わない | 4 その他(具体的に ) |

Q30 【全員】日本国内の大学院博士課程への進学を検討する場合、どのような条件が整うことが重要ですか。

- 1 進学や編入学が容易になる
- 2 博士課程在籍者に対する経済的支援が拡充する
- 3 博士課程に優秀な学生が集まる
- 4 自分の研究に直接関連しない学内業務が少ない
- 5 研究や実験設備などの研究環境が充実する
- 6 時に「侮辱的」「抑圧的」「敵対的」と語られる研究室の文化的環境がよくなる
- 7 PIの指導力が向上する
- 8 インターンシップや共同研究を通じて企業等とのつながりを持つ
- 9 国際学会への参加や留学など国際的な経験を積む機会が多い
- 10 産業界で幅広く活躍できるようなスキルが身に付く
- 11 博士課程修了者がアカデミックポストへ就職する可能性が広がる
- 12 任期制が見直されるなど、若手を対象としたアカデミックポストの雇用条件が改善する
- 13 民間企業などにおける博士課程修了者の雇用が増加する
- 14 賃金や昇進が優遇されるなど、博士課程修了者の民間企業などにおける雇用条件が改善する
- 15 その他(具体的に: )

Q31 政府が博士課程への進学者を増加させるための、学生にとって魅力ある政策を検討し



ています。政策として最も効果的であるものから順に3つ選択してください。(回答はそれぞれ1つ)

- |                            |
|----------------------------|
| 1 博士後期課程の教育カリキュラムの改善       |
| 2 若手研究者(博士後期課程学生含む)の研究環境改善 |
| 3 産業界における博士取得者に対する給与等処遇改善  |
| 4 産業界における博士取得者の採用増加        |
| 5 博士後期課程での給与支給             |
| 6 その他(具的に: )               |

Q32 【全員】大学院修士課程の間に、3ヵ月以上、海外の大学の研究室に在籍していたことがありますか。(回答は1つ)。

※3ヵ月以上の海外大学研究室の在籍経験がある方は、具体的な期間をお答えください。  
 ※複数回の経験がある方は、合計した期間でお答えください。

- |                      |      |
|----------------------|------|
| 1 ある 在籍期間: ( )年( )ヵ月 | 2 ない |
|----------------------|------|

Q33 修士課程で経験した教育・研究指導、その他のプログラムに関し、あなたはどのように感じますか。(回答は1つ)

＜教育・研究指導の質＞		
5 とても良い	3 どちらともいえない	2 あまり良くない
4 まあ良い		1 全く良くない
＜人的ネットワークの広がり、異分野との交流・協働＞		
5 とても良い	3 どちらともいえない	2 あまり良くない
4 まあ良い		1 全く良くない
＜キャリア開発支援や進路指導＞		
5 とても良い	3 どちらともいえない	2 あまり良くない
4 まあ良い		1 全く良くない
＜国際性の向上＞		
5 とても良い	3 どちらともいえない	2 あまり良くない
4 まあ良い		1 全く良くない
＜修士課程に関する全般的な満足度＞		
5 とても良い	3 どちらともいえない	2 あまり良くない
4 まあ良い		1 全く良くない

Q34 【全員】あなたが、修士課程に在籍して得られたことで、今後役に立つと考えられるものを挙げてください。(回答はいくつでも)

- |              |
|--------------|
| 1 論理性や批判的思考力 |
|--------------|

- |                           |
|---------------------------|
| 2 文理の枠を超えた広い視野            |
| 3 コミュニケーション能力             |
| 4 研究者や同業者とのネットワーク         |
| 5 創造力                     |
| 6 変化への適応力                 |
| 7 主体性と責任感を備えた行動力          |
| 8 データ処理、活用能力              |
| 9 最先端の知にアクセスする能力          |
| 10 自ら課題を発見し設定する力          |
| 11 自ら仮説を構築し、検証する力         |
| 12 社会的・経済的価値を判断・創出する能力    |
| 13 高度な英語力を含むグローバル化に対応した能力 |
| 14 倫理観                    |
| 15 高度な専門的知識               |
| 16 その他 具体的に:( )           |

Q35 修士課程在籍中における、平日の1日あたりの平均研究時間について、最も近いものを選択してください。(回答は1つ)

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1時間未満      | 5時間以上8時間未満  |
| 1時間以上3時間未満 | 8時間以上12時間未満 |
| 3時間以上5時間未満 | 12時間以上      |

Q36 あなたが最もよく利用し、将来にわたり連絡可能な見込みのEメールアドレスをお答えください。(回答は半角英数字で入力)

Eメールアドレス:

確認のため、再度メールアドレスをご入力ください。

Eメールアドレス:

Q37 ご協力、ありがとうございました。

本調査に関する意見を自由にお書きください。(回答は具体的に)

調査資料-323

修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査  
(2021年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告)

2023年1月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所  
第1調査研究グループ

川村 真理 渡邊 英一郎

The 2021 Survey of Japan Master's Human Resource Profiling

January 2023

Mari KAWAMURA and Eiichiro WATANABE

1st Policy-Oriented Research Group,  
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

<https://doi.org/10.15108/rm323>



<https://www.nistep.go.jp>